

講義内容

教職課程・
資格講座

2006
(平成18)
年度

講義内容（教職課程・資格講座）

目 次

I 教 職 課 程	13
II 学校図書館司書教諭講座	141
III 社会教育主事講座	149
IV 博物館学講座	163
V 社会福祉主事講座	189

※上記の教職課程および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。

（履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。）

学部・学科		課程・講座				
		教職課程	学校図書館司書教諭講座	社会教育主事講座	博物館学講座	社会福祉主事講座
仏 教 学 部		●	●	●	●	●
文 学 部		●	●	●	●	●
経 済 学 部	経済学科フレックス A・商学科	●	●	●		●
	経済学科フレックス B（平成12年度以降入学生）	●	○	○		
	経済学科フレックス B（平成11年度以前入学生）	●				
法 学 部	法律学科フレックス A・政治学科	●	●	●		●
	法律学科フレックス B（平成12年度以降入学生）	●	○	○		
	法律学科フレックス B（平成11年度以前入学生）	●				
経 営 学 部	経営学科フレックス A	●	●	●		●
	経営学科フレックス B（平成12年度以降入学生）	●	○	○		
	経営学科フレックス B（平成11年度以前入学生）	●				
医 療 健 康 科 学 部						●
グローバル・メディア・スタディーズ学部		●	●			
短期大学国文科・英文科		●	●			

（注意）○印は、フレックス A の時間帯を履修することにより取得可能。

I 教 職 課 程

I 教 職 課 程

〔フレックスA・第1部〕

(1) 教職に関する科目 (必修科目)

科 目 名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
教職入門	12以降入学生／教職1必 短大1必	半期	2	藤木篤典	13
教職入門	12以降入学生／教職1必 短大1必	半期	2	磯山進	13
教育の思想	教職2必 短大1必	半期	2	豊田千代子	14
教育の思想	教職2必 短大1必	半期	2	北村三子	14
教育の思想	教職2必 短大1必	半期	2	伊藤茂樹	15
教育の思想	教職2必 短大1必	半期	2	萩原建次郎	15
教育の思想	教職2必 短大1必	半期	2	坂本信昭	16
教育と社会	教職2必 短大1必	半期	2	豊田千代子	16
教育と社会	教職2必 短大1必	半期	2	北村三子	17
教育と社会	教職2必 短大1必	半期	2	伊藤茂樹	17
教育と社会	教職2必 短大1必	半期	2	萩原建次郎	18
教育と社会	教職2必 短大1必	半期	2	坂本信昭	19
発達と学習の心理学	教職2必 短大1必	半期	2	小倉康仁	19
発達と学習の心理学	教職2必 短大1必	半期	2	大浜幾久子	20
発達と学習の心理学	教職2必 短大1必	半期	2	三國隆子	20
発達と学習の心理学	教職2必 短大1必	半期	2	飯田都	21
発達と学習の心理学	教職2必 短大1必	半期	2	角野善司	22
カリキュラムと学習	12以降入学生／教職2必 短大1必	半期	2	小倉康仁	23
カリキュラムと学習	12以降入学生／教職2必 短大1必	半期	2	大浜幾久子	23
カリキュラムと学習	12以降入学生／教職2必 短大1必	半期	2	三國隆子	24
カリキュラムと学習	12以降入学生／教職2必 短大1必	半期	2	杉山二季	24

カリキュラムと学習	12以降入学生／教職2必 短大1必	半期	2	角野善司	25
教育とメディア	教職2・3必 短大1必	半期	2	小倉康仁	26
教育とメディア	教職2・3必 短大1必	半期	2	石橋達也	27
教育とメディア	教職2・3必 短大1必	半期	2	芝崎順司	27
道德教育の研究	教職2・3必 短大2必	半期	2	藤木篤典	28
道德教育の研究	教職2・3必 短大2必	半期	2	関根和夫	28
道德教育の研究	教職2・3必 短大2必	半期	2	井上勝	29
特別活動	教職2・3必 短大1・2必	半期	2	藤木篤典	30
特別活動	教職2・3必 短大1・2必	半期	2	関根和夫	31
特別活動	教職2・3必 短大1・2必	半期	2	井上勝	32
生徒指導論（進路指導を含む）	教職2・3必 短大1・2必	半期	2	榎本真理子	32
生徒指導論（進路指導を含む）	教職2・3必 短大1・2必	半期	2	目良秋子	33
生徒指導論（進路指導を含む）	教職2・3必 短大1・2必	半期	2	佐藤尚人	33
生徒指導論（進路指導を含む）	教職2・3必 短大1・2必	半期	2	遠藤司	34
生徒指導論（進路指導を含む）	教職2・3必 短大1・2必	半期	2	川原誠司	35
教育臨床	12以降入学生／教職2・3必 短大1・2必	半期	2	榎本真理子	36
教育臨床	12以降入学生／教職2・3必 短大1・2必	半期	2	目良秋子	36
教育臨床	12以降入学生／教職2・3必 短大1・2必	半期	2	佐藤尚人	37
教育臨床	12以降入学生／教職2・3必 短大1・2必	半期	2	遠藤司	37
教育臨床	12以降入学生／教職2・3必 短大1・2必	半期	2	川原誠司	38
総合演習Ⅰ（環境・地域）	16以降入学生／教職2・3必	前期	2	北村和夫	39
総合演習(3)(環境教育)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔環境教育〕	短大2必				
総合演習Ⅰ（環境・地域）	16以降入学生／教職2・3必	後期	2	北村和夫	39
総合演習(4)(近代社会と身体)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔近代社会と身体〕	短大2必				

総合演習Ⅰ（環境・地域）	16以降入学生／教職2・3必	前期	2	北村三子	40
総合演習(15)(持続可能性と技術)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習Ⅰ（環境・地域）	16以降入学生／教職2・3必	後期	2	北村三子	40
総合演習(16)(豊かさの多様性)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習Ⅱ（生活・人権）	16以降入学生／教職2・3必	前期	2	広沢明	41
総合演習(9)(教育と法律)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔教育と法律〕	短大2必				
総合演習Ⅱ（生活・人権）	16以降入学生／教職2・3必	後期	2	広沢明	41
総合演習(10)(子どもの人権)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔子どもの人権〕	短大2必				
総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)	16以降入学生／教職2・3必	前期	2	遠藤司	42
総合演習(1)(障害児と教育)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔障害児と教育〕	短大2必				
総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)	16以降入学生／教職2・3必	後期	2	遠藤司	43
総合演習(2)(障害児と福祉)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔障害児と福祉〕	短大2必				
総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)	16以降入学生／教職2・3必	前期	2	野中弘敏	44
総合演習(7)(心の健康と教育)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔心の健康と教育〕	短大2必				
総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)	16以降入学生／教職2・3必	後期	2	野中弘敏	45
総合演習(8)(心の援助と教育)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔心の援助と教育〕	短大2必				
総合演習Ⅳ（健康・人間）	16以降入学生／教職2・3必	前期	2	川原誠司	46
総合演習(5)(対人関係とストレス)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔対人関係とストレス〕	短大2必				
総合演習Ⅳ（健康・人間）	16以降入学生／教職2・3必	後期	2	川原誠司	47
総合演習(6)(学校における対人関係)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔学校における対人関係〕	短大2必				
総合演習Ⅳ（健康・人間）	16以降入学生／教職2・3必	前期	2	柳堀素雅子	48
総合演習(11)(生と死の教育)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔生と死の教育〕	短大2必				
総合演習Ⅳ（健康・人間）	16以降入学生／教職2・3必	後期	2	柳堀素雅子	49
総合演習(12)(生命倫理)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習〔生命倫理〕	短大2必				
総合演習Ⅴ（国際理解・情報）	16以降入学生／教職2・3必	半期	2	大浜幾久子	50
総合演習Ⅱ（生活・人権）	16以降入学生／教職2・3必	前期	2	高井葉子	50
総合演習(13)(現代的学習課題とジェンダー)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習Ⅱ（生活・人権）	16以降入学生／教職2・3必	後期	2	高井葉子	51
総合演習(14)(学校教育におけるジェンダー)	12～15入学生／教職2・3必				
宗教科教育法Ⅰ	14以降入学生／教職3必	通年	4	小山一乗	52
宗教科教育法	13以前入学生／教職3必				
宗教科教育法Ⅱ	14以降入学生／教職3必	通年	4	小山一乗	54
国語科教育法Ⅰ	14以降入学生／教職3必	通年	4	久保田實	55
国語科教育法	13以前入学生／教職3必				
国語科教育法Ⅱ	14以降入学生／教職3必	通年	4	久保田實	56
書道科教育法	教職3必	通年	4	那須隆吉	56

英語科教育法 I	14以降入学生 / 教職 3 必	通年	4	佐藤真二	57
英語科教育法	13以前入学生 / 教職 3 必				
英語科教育法 II	14以降入学生 / 教職 3 必	通年	4	佐藤真二	57
社会科教育法 III (地理歴史)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	生田清人	58
地理歴史科教育法 I	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 III (地理歴史)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	桜井明久	59
地理歴史科教育法 I	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 IV (地理歴史)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	生田清人	60
地理歴史科教育法 II	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 IV (地理歴史)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	桜井明久	61
地理歴史科教育法 II	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 III (地理歴史)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	藤木正国	61
地理歴史科教育法 I	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 IV (地理歴史)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	藤木正国	62
地理歴史科教育法 II	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 V (公民)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	橋爪敏	62
公民科教育法 I	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 VI (公民)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	橋爪敏	63
公民科教育法 II	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 V (公民)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	谷敷正光	64
公民科教育法 I	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 VI (公民)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	谷敷正光	65
公民科教育法 II	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 V (公民)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	小川輝之	66
公民科教育法 I	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 VI (公民)	14以降入学生 / 教職 3 必	半期	2	小川輝之	67
公民科教育法 II	13以前入学生 / 教職 3 必				
社会科教育法 I	教職 3 必	半期	2	磯山進	67
社会科教育法 II	教職 3 必	半期	2	磯山進	68
社会科教育法 I	教職 3 必	半期	2	小川輝之	68
社会科教育法 II	教職 3 必	半期	2	小川輝之	69
社会科教育法 I	教職 3 必	半期	2	二井正浩	69
社会科教育法 II	教職 3 必	半期	2	二井正浩	70
福祉科教育法	14以降入学生 / 教職 3 必	通年	4	桐原宏行	70
商業科教育法	教職 3 必	通年	4	黒葛原正展	71
職業科教育法 I	14以降入学生 / 教職 3 必	通年	4	谷敷正光	72
職業科教育法	13以前入学生 / 教職 3 必				
職業科教育法 II	14以降入学生 / 教職 3 必	通年	4	黒葛原正展	73
国語科教育法	短大 1 必	通年	4	小林治	74
英語科教育法	短大 1 必	半期	4	アシユウエル, T.	75
教育実習 I	教職 4 必	通年	3	豊田千代子	75
教育実習 II	12以降入学生 / 教職 4 必		5		
教育実習 I	教職 4 必	通年	3	坂本信昭	76
教育実習 II	12以降入学生 / 教職 4 必		5		
	短大 2 必		5		

教育実習Ⅰ	教職４必	通年	3	萩原建次郎	76
教育実習Ⅱ	12以降入学生／教職４必 短大２必		5 5		
教育実習Ⅰ	教職４必	通年	3	北村三子	77
教育実習Ⅱ	12以降入学生／教職４必		5		
教育実習Ⅰ	教職４必	通年	3	伊藤茂樹	77
教育実習Ⅱ	12以降入学生／教職４必		5		
教育実習Ⅰ	教職４必	通年	3	遠藤司	78
教育実習Ⅱ	12以降入学生／教職４必		5		

(2) 教科又は教職に関する科目〔平成12年度以降入学生〕

教職に関する科目（選択）〔平成11年度以前入学生〕

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
教育関係法規	教職２・３・４選 短大１・２選	通年	4	村元宏行	79
教育評価	教職２・３・４選	通年	4	大浜幾久子	80
教育哲学	教職２・３・４選	通年	4	北村三子	80
教育情報学	教職２・３・４選	通年	4	小倉康仁	81
教育臨床心理学	教職２・３・４選	通年	4	小田切紀子	82
教育社会学	教職２・３・４選	通年	4	伊藤茂樹	82
教育史	教職２・３・４選	通年	4	山本敏子	83
教育調査	教職２・３・４選	通年	4	鈴木規夫	83
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	12以降入学生／教職２・３・４選	半期	2	鈴木朋実	156
青少年問題研究	教職２・３・４選	通年	4	讃岐貞佐子	84
宗教教育	教職２・３・４選	通年	4	小山一乗	85
生涯学習概論Ⅰ	教職２・３・４選	半期	2	豊田千代子	149
生涯学習概論Ⅱ	教職２・３・４選	半期	2	豊田千代子	150
視聴覚教育	教職２・３・４選	通年	4	佐野博彦	163
学校経営と学校図書館	教職２・３・４選 短大１・２選	半期	2	松尾不二夫	141
読書と豊かな人間性	教職２・３・４選 短大１・２選	半期	2	松尾不二夫	142
学校図書館メディアの構成	教職２・３・４選 短大１・２選	半期	2	源昌久	142
学校図書館メディアの構成	教職２・３・４選 短大１・２選	半期	2	篠田耀子	143
情報メディアの活用	教職２・３・４選 短大１・２選	半期	2	源昌久	143
情報メディアの活用	教職２・３・４選 短大１・２選	半期	2	篠田耀子	144
学習指導と学校図書館	教職２・３・４選 短大１・２選	半期	2	松尾不二夫	144
介護等体験	16以降入学生／教職３必	通年	2	豊田千代子	86
介護等体験	16以降入学生／教職３必	通年	2	大浜幾久子	87
介護等体験	16以降入学生／教職３必	通年	2	萩原建次郎	88
介護等体験	16以降入学生／教職３必	通年	2	北村三子	88
介護等体験	16以降入学生／教職３必	通年	2	伊藤茂樹	89

介護等体験	教職3必	通年	2	遠藤司	89
介護等体験	教職3必	通年	2	坂本信昭	90

(3) 教科に関する科目

【社会・地理歴史・公民】

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
東洋思想史	教職教科	通年	4	末木恭彦	91
民間信仰論	教職教科	通年	4	谷口貢	91
人文地理学概説	教職教科	通年	4	若林宏宗	92
自然地理学概説	教職教科	通年	4	鈴木倫太郎	92
自然地理学概説	教職教科	通年	4	早船元峰	93
地誌学概説	教職教科	通年	4	川元豊和	93
地誌学概説	教職教科	通年	4	新井祥穂	94
地誌学概説	教職教科	通年	4	山口太郎	95
日本史概説	教職教科	通年	4	出口宏幸	96
日本史概説	教職教科	通年	4	小泉雅弘	96
世界史概説	教職教科	通年	4	小林惣八	97
世界史概説	教職教科	通年	4	井村行子	98
社会学原論	教職教科	通年	4	橋爪敏	99
宗教人類学	教職教科	通年	4	矢野秀武	99
経済原論	教職教科	通年	4	浅野克巳	100
経済原論	教職教科	通年	4	荒木勝啓	101
経済原論	教職教科	通年	4	畠中貴	102
経済原論	教職教科	通年	4	松井柳平	103
民法I	教職教科	通年	4	須賀昭徳	104
民法I	教職教科	通年	4	竹中智香	105
政治学原論	教職教科	通年	4	白鳥浩	106
政治学原論	教職教科	通年	4	清滝仁志	107
日本宗教文化史	教職教科	通年	4	小川順敬	108
民衆宗教成立史	教職教科	通年	4	鈴木一馨	109
宗教学概説	教職教科	通年	4	池上良正	109
宗教学概説	教職教科	通年	4	矢野秀武	110
宗教学概説	教職教科	通年	4	川上新二	110
哲学概説	教職教科	通年	4	末木恭彦	111
哲学概説	教職教科	通年	4	久保陽一	111
倫理学概説	教職教科	通年	4	河谷淳	112

【職業】

産業概説	教職教科	通年	4	幸野保典	113
職業指導	教職教科	通年	4	洪利志生	114
商業実習	教職教科	通年	4	洪利志生	114
農業実習	教職教科	通年	4	古沢紘造	115

【商業】

職業指導	教職教科	通年	4	洪利志生	114
------	------	----	---	------	-----

〔フレックスB〕

(1) 教職に関する科目 (必修科目)

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
教職入門	12以降入学生／教職1必 短大1必	半期	2	天井勝海	116
教育の思想	教職2必	半期	2	山本敏子	116
教育と社会	教職2必	半期	2	山本敏子	117
発達と学習の心理学	教職2必	半期	2	三國隆子	117
カリキュラムと学習	12以降入学生／教職2必	半期	2	三國隆子	118
教育とメディア	教職2・3必	半期	2	石橋達也	118
道徳教育の研究	教職2・3必	半期	2	緑川哲夫	119
特別活動	教職2・3必	半期	2	緑川哲夫	119
生徒指導論 (進路指導を含む)	教職2・3必	半期	2	榎本真理子	120
教育臨床	12以降入学生／教職2・3必	半期	2	榎本真理子	120
総合演習Ⅰ (環境・地域)	16以降入学生／教職2・3必	前期	2	山本敏子	121
総合演習②(子ども・自然・家庭)	12～15入学生／教職2・3必				
総合演習Ⅰ (環境・地域)	16以降入学生／教職2・3必	後期	2	山本敏子	121
総合演習②(子ども・自然・家庭)	12～15入学生／教職2・3必				
教育実習Ⅰ	教職4必	通年	3	伊藤茂樹	122
教育実習Ⅱ	12以降入学生／教職4必		5		
社会科教育法Ⅰ	教職3必	半期	2	天井勝海	122
社会科教育法Ⅱ	教職3必	半期	2	天井勝海	123
社会科教育法Ⅴ (公民)	14以降入学生／教職3必	半期	2	小西薫	124
公民科教育法Ⅰ	13以前入学生／教職3必				
社会科教育法Ⅵ (公民)	14以降入学生／教職3必	半期	2	小西薫	125
公民科教育法Ⅱ	13以前入学生／教職3必				
商業科教育法	教職3必	通年	4	黒葛原正展	126
職業科教育法Ⅰ	14以降入学生／教職3必	通年	4	休講	
職業科教育法	13以前入学生／教職3必				
職業科教育法Ⅱ	14以降入学生／教職3必	通年	4	黒葛原正展	127

(2) 教科に関する科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
日本史概説	教職教科	通年	4	鈴木織恵	128
日本史概説	教職教科	通年	4	角田朋彦	128
世界史概説	教職教科	通年	4	松本弘	129
地誌学概説	教職教科	通年	4	川元豊和	129
地誌学概説	教職教科	通年	4	渡邊盾夫	130
人文地理学概説	教職教科	通年	4	渡邊盾夫	130
自然地理学概説	教職教科	通年	4	鈴木倫太郎	131
宗教学概説	教職教科	通年	4	田中かの子	131
宗教学概説	教職教科	通年	4	須藤寛人	132
哲学概説	教職教科	通年	4	河谷淳	132
政治学原論	教職教科	通年	4	大塚桂	133
産業概説	教職教科	通年	4	幸野保典	134
商業実習	教職教科	通年	4	洪利志生	135
農業実習	教職教科	通年	4	休講	
職業指導	教職教科	通年	4	洪利志生	136

[フレックス A・第1部]

(1) 教職に関する科目 (必修)

科目名	担当者名
教職入門	藤木篤典

講義のねらい

高度消費社会のもと、国際化・情報化の進展、過密・過疎、少子化、近年の不況の中、多様化した生徒をどう教育するか。日本の教育界は、価値観の多様化、生徒間の「いじめ」や不登校等の多くの問題を抱えている。

それらの問題を解決するための力量が教師に求められる。制度面でも多様な高校（通信制、昼夜間定時制、全・定単位制、総合学科）が設立されている。

この講義では、教師になるための勉強の第一歩として、必要な知識を学びます。生徒は、教師の接し方、アドバイス等で大きく変化します。

講義の内容・授業スケジュール

- ・教育について
- ・教育機関・制度
- ・法体系について
- ・教育法規
- ・教師の身分（採試）
- ・教育免許状
- ・職務と身分（校長、教頭、教諭、養護教諭、実習助手、事務職）
- ・特別活動
- ・教育内容
- ・教育課程
- ・その他（学校評議員制度、関係諸団体、研修、国際交流、障害児教育、生徒指導等）

履修上の留意点

採用試験に向けて、自己の進路として受けとめて学んでほしい。

成績評価の方法

出席状況、レポート等の提出など総合的に評価する。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

科目名	担当者名
教職入門	磯山進

講義のねらい

近年の教育改革の流れの中で、メディアはもとより地域住民や保護者の学校教育に対する関心が一層高まり、学校教育の在り方について厳しい目が向けられている。一方、学校には生徒の多様化に応じて改善・充実を図るべき様々な課題があり、教員の力量の一層の向上が求められている。かかる動向を踏まえ、本講では教員採用試験を視野に入れて学校教育の在り方ならびに求められている教師像について考察する。

講義の内容・授業スケジュール

1. 法規からみた学校教育の目的 2. 学習指導要領の改訂とそのねらい 3. 教育課程の編成 4. 学習指導と評価 5. 「総合的な学習の時間」の内容とそのねらい 6. 生徒指導と教育相談 7. 心の教育 8. キャリア教育 9. 特別活動 10. 開かれた学校づくり 11. 教員の資質・能力と研修 12. 教員の採用、地位と身分 13. 教育改革 14. その他

履修上の留意点

教職を志望しているか、教育に強い関心を持っている者の履修を期待する。

成績評価の方法

出席状況、レポート、定期考査で総合的に評価する。

教科書

天井勝海編著『実践「現代教育入門」』（学事出版） 1,980円

参考書等

参考文献、課題図書は授業の中で示す。

科目名	担当者名
教育の思想	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子

講義のねらい	この授業では、1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」について、それを「思想として読む」ことをめざす。具体的には、子どもの権利条約の思想的基礎となっている「コルチャック先生」(ヤヌシュ・コルチャック、本名ヘンリク・ゴールドシュミット、1878～1942)の子ども観について学ぶ。
講義の内容・授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの受けてきた教育のふり返り ・教育をめぐる子どもたちの現状 ・コルチャック先生の思想(子ども観) ・子どもの権利条約とコルチャック先生
成績評価の方法	出席状況、レポート等により成績評価を行なう。
教科書	教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考書等	樋渡直哉『子どもの権利条約とコルチャック先生』(ほるぷ出版)
その他	この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
教育の思想	また むら みつ こ 北 村 三 子

講義のねらい	日本の教育界に大きな影響を与えた教育思想を学び、それを手がかりに自分なりの教育観を培っていくことを目指します。
講義の内容・授業スケジュール	20世紀の代表的な思想家の一人、ジョン・デューイの教育思想を、学んでいきます。子ども自身の経験を基礎に構築されたその教育論を丁寧に読み、私達の日常経験や教育体験を考え直します。具体的な授業計画は、初回の講義でお話します。
履修上の留意点	この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。
成績評価の方法	出席状況とレポートによります。
参考書等	教場で指示します。
その他	この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
教育の思想	伊藤茂樹

講義のねらい	私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的機能について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。
講義の内容・授業スケジュール	とりあげるテーマとして以下のようなことがらを予定している。 ・学校教育の本質と機能 ・近代日本における学校教育
履修上の留意点	自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。
成績評価の方法	学期末試験により評価する。
教科書	教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。
その他	この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
教育の思想	萩原建次郎

講義のねらい	この授業では、第一に自分自身の教育体験のふりかえりを出発点として、「学ぶこと」「教えること」「生きること」の意味を考える機会をもちたい。第二に自己の体験と他者の体験を交流させながら、多様なものの見方を学ぶと共に、教育に対する自分の視点がどこにあるのかさぐっていきたい。第三に各自の体験知だけにとどまらずに教育学が蓄積してきた学問知（主に教育史・教育哲学）との交流によって、これまで暗黙のうちに了解してきた「教育目的」「学習」「人間の発達」などの意味について深く捉える感性と知性を養いたい。
講義の内容・授業スケジュール	① 自らの教育・学習体験をふりかえる—「学びのマップ」・「私のライフライン」「学びの自分史」をつくる ② 自己と他者との体験知の交流—「学びのマップ」・「私のライフライン」「学びの自分史」を他の受講生と相互コメントを行う ③ 教育をめぐる体験知と学問知との交流 （1）近代教育が前提としてきた人間観と教育目的・理念の歴史を学ぶ （2）発達の思想を学ぶ （3）学習の思想を学ぶ
履修上の留意点	この授業は講義だけではなく、受講者自身の作業が多く含まれる参加型学習である。よって授業の質は各自の積極的な参加姿勢に大きくかかわっていることを留意願いたい。また、小レポートを毎回提出してもらおう。
成績評価の方法	小レポート、作品の提出状況、授業への参加度、学期末レポートを総合して評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書等	そのつど紹介する。
その他	この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。一回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
教育の思想	さか もと のぶ あさ 坂 本 信 昭

講義のねらい

民主主義的教育思想はルソー、ペスタロッチ、フレーベル、エレン・ケイ、デューイなど多くの思想家によって生み出され、継承されて今日に至り、教育思想と実践の面で多様な展開を示した。

20世紀の教育思想を生み出し、継承することに貢献した思想家たちの教育思想・教育目的を概観することを手初めに、次のようなテーマを取り上げて進める。

講義の内容・授業スケジュール

- ・教育の理想と目的
- ・わが国の教育目的の変遷
- ・現代・社会の変化と教育目的
- ・その他（大村はま、林竹二などから学ぶものは何か）

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、出席等により総合的に評価する。

参考書等

西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円
デューイ著『学校と社会』（岩波文庫）410円

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名
教育と社会	とよ た ちよ こ 豊 田 千代子

講義のねらい

教育と社会とは、相互に緊密な関係にある。教育は社会のあり方に影響を受けるとともに、社会にも影響を及ぼしている。したがって、教育を考える場合、それを社会と切り離して考えることはできず、社会の中での教育・教育の中にみられる社会という視点からの検討が不可欠であろう。授業では、現代における教育の諸問題を総合的にとらえる力を形成するために、このような視点を養うことをめざしたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ・学習体験のふり返し
自分たちが受けてきた教育をふり返し、その中でみえてきた教育のさまざまな問題を、社会の歴史や構造等との関連で検討する。
- ・教育と人権
障害者、女性、在日外国人、義務教育未修了者などの教育に焦点を当て、それらの教育と社会との関係を考える。

成績評価の方法

出席状況、レポート等により成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
教育と社会	北村三子 <small>きたむらみつこ</small>

講義のねらい

近代の社会システムと教育はどのような関係にあるのでしょうか。私たちが体験してきた日本の学校教育のあり方を社会との関係から考察することを通して、私たちがどのように社会的に形成されてきたのかを考えます。

講義の内容・授業スケジュール

日本という国家と教育との関係を歴史的に考察するとともに、近代的な組織とその構成員との間に働く力について原理的に考察します。また、そうした観点から、今日の学校教育をめぐる諸問題を考えていきます。詳細は初回の授業でお話します。

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

出席状況とレポートによります。

参考書等

教場で指示します。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
教育と社会	伊藤茂樹 <small>いとうしげき</small>

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマとして以下のようなことがらを予定している。

- ・現代の教育問題
- ・教育改革の動向

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がける。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

講義のねらい

80年代半ばから不登校問題とともに「居場所」という言葉がマスコミに登場したが、いまや教育学、心理学、社会学においてもキーワードになっている。居場所の喪失感が静かに広がる中で、私たちはそこにどのような人間の姿、世界の在り様を感じるのだろうか。

この授業ではまず、子どもの自己形成空間と若者の文化変容、大人と子ども・若者の関係性の変容を読み解きながら、「居場所」が何において生まれ、何において失うのかを探っていく。次に「居場所」となりうる場のデザインを目指した具体的な方法論はあるのか、子ども・若者の居場所にかかわるいくつかの実践を手がかりに検討し、教育の可能性を考えていく。

この授業を通して、「居場所」を切り口として今いる自分を見つめなおしながら、他者（子ども・友人・親・先生など）とのかかわりの質を問い直し、さまざまな場面での教育実践に活用していける視点と感性を養ってもらいたいと願っている。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①「居場所」をめぐる言説の登場
- ②「居場所」の意味を読み解く
- ③子ども・若者の自己形成空間の変容
- ④子ども・若者の居場所空間をデザインする
- ⑤「居場所」に関わる指導者論
- ⑥「居場所」と子どもの参加論

履修上の留意点

授業はできるだけ参加型学習をとりいれたいので、積極的な姿勢が求められる。小レポートを毎回提出してもらう。

成績評価の方法

小レポート、出席状況、授業への参加度、学期末レポートを総合して判断する。

教科書

田中治彦編著『子ども・若者の「居場所」の構想－「教育」から「関わりの場」へ－』（学陽書房）3,000円

参考書等

久田邦明編著『子ども・若者の居場所』（萌文社）
ロジャー・ハート著『子どもの参画』（萌文社）

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
教育と社会	坂本信昭

講義のねらい

人間の社会に余暇をもつ少数の人々が生まれたときに学校は生まれた。いわば余暇とともに学校は生まれたのである。もし余暇がすべての人々のものとなると、それは、社会そのものが全体として学習と教育の場所、つまり学校になるときであるかも知れない。

講義の内容・授業スケジュール

講義で取り上げるテーマとしては、次のようなものを考えている。

- ・学校教育のあゆみ
- ・学校の社会的機能
- ・学校教育の現実と課題
- ・その他（教師論等）

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

参考書等

西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円
デューイ著『学校と社会』（岩波文庫）410円

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
発達と学習の心理学	小倉康仁

講義のねらい

人間の教育活動や教育問題に対して心理学的にアプローチする教育心理学の主要な関心事として、発達および学習に関する様々なトピックスがあります。この発達と学習の問題を中心に、教育者が理解しておくべき事柄を取り上げて授業を進めていきます。つまり、「人はどのようにして育ち学んでいくのか?」、「そのプロセスにおいて親や教師や友人等からの働きかけはどのようにかわってくるのか?」といったことについて分析・考察していく予定です。

講義の内容・授業スケジュール

- ①発達の定義
- ②発達の規定因（遺伝と環境）
- ③発達のメカニズム（成熟と経験）
- ④発達観と教育可能性
- ⑤レディネス、臨界期と早期教育
- ⑥発達の様子（発達時期・発達段階）
- ⑦学習のメカニズム（学習理論）
- ⑧学習と動機づけ（学びを支える意欲）
- ⑨教授-学習過程
- ⑩個性・個人差と教授法（適性-処遇相互作用）

成績評価の方法

平常授業期間中に課す小レポート課題と学期末試験の成績によって評価を行う予定です。

教科書

未定（配布プリントを中心に授業を進める予定ですが、教科書を併用する場合には、開講時に指示します）。

参考書等

必要な場合は、そのつど授業で指示します。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
発達と学習の心理学	大 浜 幾 久 子

講義のねらい

子どもが大人になる過程を20世紀の心理学は、どのようにとりあげ、また解明しようとしてきたのだろうか。他の諸学問分野が心理学の成立に果たしてきた役割にも言及しつつ、次のような基本的な問題をめぐる諸研究を学んでいく。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 発達と学習は、どのように定義され、また両者の関係はどのように説明されるのか。
- 2) 知能の発達と情意の発達は、どのような関係にあるのか。
- 3) 障害をも含む発達および学習における個人差を、どのようにとりあげ得るのか。

成績評価の方法

定期試験（学期末）の成績に小レポートの成績を加味する予定である。

教科書

参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
発達と学習の心理学	三 國 隆 子

講義のねらい

- ・子どもから大人へ。人の発達過程について概観する。
- ・発達や個に応じた学習や教育について学ぶ。
- ・以上を踏まえ、学校現場で行われる教育や指導のあり方について学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

- ・発達とは何か
- ・発達の特徴と発達理論
- ・発達観の変遷と教育
- ・学習とは何か
- ・学習と評価
- ・意欲と学習（1）動機づけ理論
- ・意欲と学習（2）自己効力感

成績評価の方法

- ・毎回の授業でその授業内容についての小テストや課題を提出してもらう。
- ・学期末にレポート試験を行う。
- ・小テストや課題の提出状況と学期末レポートを総合して評価を行う。

教科書

教科書、参考資料等は、授業中に配布する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
発達と学習の心理学	飯田 都

講義のねらい	発達心理学・学習心理学は、教育現場で子どもを理解する際の基本的な視座を示す学問である。本授業では、そのトピックの中から、発達初期の愛着形成・学齢期の学習・思春期の自我発達の3つに主に焦点を当てて講義を行う。
講義の内容・授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 発達初期：子どもの愛着形成 2) 学齢期の学習：認知発達と動機付け 3) 思春期の自我発達：自我発達の特徴と友人関係の変化など
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の学校体験やこれまでの成長を振り返って記載してもらう機会があります。 ・ディスカッションやディベート、もしくは一つのトピックを定めた調べ学習などのワークを取り入れる可能性があります。
成績評価の方法	定期試験・レポート（授業の際の小レポート）出席を取ります。講義の半数以上欠席の方は単位取得を認めません。
教科書	資料は必要に応じて配布します。
参考書等	<p>高野清純監修『図で読む心理学「学習」』（福村出版）2,060円 川島一夫『図でよむ心理学「発達」』（福村出版）2,060円 他は授業の中で適宜紹介します。</p>
その他	この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名**担当者名**

発達と学習の心理学

すみのぜんし
角野善司**講義のねらい**

教育心理学は、教育場面に対して心理学的にアプローチする学問であり、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものです。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てていきます。講義を通じて学び、考えたことを、生徒と接する際のヒントにしてほしいと願っています。

**講義の内容・
授業スケジュール**

- (1) 教育心理学とは (2・3) 発達観の変遷 (4・5) 発達の規定因
(6) 教育の最適期 (7) 発達段階と発達課題 (8) 学習への動機づけ
(9) 内発的動機づけ (10) 学習性無力感 (11) 原因帰属
(12) 学習目標と遂行目標 (13-15) 補遺

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨んでください。また、教養教育科目として履修する学生にも同様のことを要求します。他の教養教育科目以上に単位の取得は困難だと思いますので、それを承知の上で受講してください。

成績評価の方法

免許・資格の取得に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいきません。成績評価は、毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況・学期末テスト・学期末レポートの4つに基づいて行う予定です。小テストは、その日の授業で取り上げた内容に関する問題を出題して、全問正解した場合に限り合格とします。合格した回数が授業回数^の半分以下ならば、学期末テストの受験、レポートの提出を認めず、単位は付与しません。

教科書

使用しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参考書等

講義の進行に合わせて、適時紹介します。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
カリキュラムと学習	小倉 康仁

講義のねらい	カリキュラムの基本的な構成原理を把握したうえで、日本の現行教育課程を理解し、児童・生徒の発達と学習のしくみを踏まえながら、教育効果を上げるための適切な教授法や評価法について考えます。
講義の内容・授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ①カリキュラムとは？ ②カリキュラムの構成原理と規定因 ③様々なタイプ（型）のカリキュラム ④カリキュラムと学習の転移 ⑤学習指導要領の変遷 ⑥現行学習指導要領の特徴 ⑦カリキュラムと教授法 ⑧カリキュラムと評価法
成績評価の方法	平常授業期間中に課す小レポート課題と学期末試験の成績によって評価を行う予定です。
教科書	未定（開講時に指示します）。
参考書等	必要な場合は、そのつど授業時に指示します。
その他	原則として、前期に「発達と学習の心理学」を受講していることを前提とします。

科目名	担当者名
カリキュラムと学習	大浜 幾久子

講義のねらい	はじめに、学生自身が学んできた小学校、中学校、高等学校における教育課程がどのように編成されていたのかを、当該の学習指導要領により考える。次に、現行の新しい教育課程を学び、その背景にある基本的考え方について考察していく。とくに教科・科目等の具体的内容の削減や再編については、子どもの発達と学習の観点からの考察を深めたい。さらに、諸外国における学習課程の歴史や編成原理について、異文化間教育学的な観点から検討を試みる。その際、潜在的カリキュラムにも注目することとする。
成績評価の方法	レポート提出（定期試験期間）を中心とした評価の予定である。
参考書等	『(小学校・中学校・高等学校)学習指導要領』（文部科学省） その他の参考資料については、必要に応じて準備、指示していく。
その他	前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。

科目名	担当者名
カリキュラムと学習	三國隆子

講義のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領から読み取れる、日本の教育課程を理解する。 ・カリキュラムと学習の効果について学ぶ。 ・学校現場で行われているカリキュラムの実際と課題について理解する。
講義の内容・授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の教育課程 ・学習指導要領の変遷 ・教授と学習の効果 ・カリキュラムと学習の効果 ・学校教育（１）教育制度・カリキュラムの実際について ・学校教育（２）教育評価・今後の課題について
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業でその授業内容についての小テストや課題を提出してもらおう。 ・学期末にレポート試験を行う。 ・小テストや課題の提出状況と学期末レポートを総合して評価を行う。
教科書	教科書、参考資料等は、授業中に配布する。
その他	原則として、前期に「発達と学習の心理学」を受講していることを前提とします。

科目名	担当者名
カリキュラムと学習	すぎやまふたき 杉山二季

講義のねらい	カリキュラムという言葉には、学習指導要領に代表されるような、公的な教育計画の枠組みという意味があります。けれどももっと広義に捉えるときには、学習の経験や履歴という意味も持っています。本授業では、このようなカリキュラムの二重の意味に注目し、子どもたちの学習をデザインする方法と課題について検討していきます。この授業を通して、学校や教師が果たしている複数の機能についての理解を深め、望ましいカリキュラムのありかたについて考えていって欲しいと思います。
講義の内容・授業スケジュール	<p>授業で取り上げるテーマは以下のものを予定しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①カリキュラムとは何か ②学習指導要領の変遷 ③教育内容の編成と課題 ④かくれたカリキュラムとは何か ⑤カリキュラムのデザインと評価
成績評価の方法	毎回の授業中に課す小レポートと、学期末の試験成績とで総合的に評価します。小レポートの提出は出席を兼ねるので、必ず提出すること。
教科書	教科書は使用せず、資料プリントを適時配布して使用します。
参考書等	授業中に適時紹介します。

科目名**担当者名**

カリキュラムと学習

すみのぜんじ
角野善司**講義のねらい**

この科目では、カリキュラムの編成・実施を中心テーマとして取り上げ、それが生徒の学習をどう規定し、どう導いていくかを検討していきます。これからの教育がどのようなカリキュラムで行われていくべきかを、各自考えてほしいと願っています。

**講義の内容・
授業スケジュール**

- (1) カリキュラム（教育課程）とは
- (2) カリキュラムに関する法制
- (3) カリキュラム編成の原則
- (4) 学習指導要領改訂の歴史
- (5-6) 平成10年学習指導要領改訂の経緯と基本方針
- (7-8) 平成15年学習指導要領一部改正の経緯と基本方針
- (9) 学習指導要領をめぐるその後の動き
- (10-12) 平成10年改訂学習指導要領（平成15年一部改正）の下での教育評価
- (13-15) 補遺

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨んでください。また、教養教育科目として履修する学生にも同様のことを要求します。他の教養教育科目以上に単位の取得は困難だと思いますので、それを承知の上で受講してください。

成績評価の方法

免許・資格の取得に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいきません。成績評価は、毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況・学期末テスト・学期末レポートの4つに基づいて行う予定です。小テストは、その日の授業で取り上げた内容に関する問題を出題して、全問正解した場合に限り合格とします。合格した回数が授業回数^の半分以上ならば、学期末テストの受験、レポートの提出を認めず、単位は付与しません。

教科書

『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領解説 総則編』

講義は、図表などを載せた資料プリントも活用して進めます。

参考書等

講義の進行に合わせて、適時紹介します。

講義のねらい

近年のコンピュータの利用形態と社会的位置づけの変化を背景として、教育分野におけるコンピュータ活用形態も大幅に変化してきている。そこでこの授業のねらいを、次の二つとする。

1. 教育分野におけるコンピュータの様々な利用形態を概観し、メディアとしてのコンピュータの活用方法について、教育学（教育方法論）の視点から理論的に考察する。
2. 問題解決思考および思考表現のツール（メディア）としてコンピュータを利用してみる。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせることで授業を進める。講義では学習理論や教育方法論に照らして、有意義なコンピュータ利用教育の条件をさぐる。実習部分の授業内容として、具体的には以下の事項を予定している。（なお実習授業の進行速度はパソコン初心者でも付いて来られるように配慮するつもりである。）

- ① 表計算ソフト EXCEL によるデータ整理・集計・分析、およびシミュレーション
- ② インターネット（WWW）上での情報検索・収集—リンク集や検索エンジンの使い方など
- ③ ホームページ表示のしくみ（HTML）
- ④ プレゼンテーションソフト（Power Point）の機能と基本操作

履修上の留意点

授業時間外での学習課題を課すので、情報センターの自習室を利用して遂行すること。毎回出欠チェックをしますので、全回出席を心がけること。

成績評価の方法

平常点（出席、学習態度、提出物など）と期末試験（ペーパーテスト）との総合点によって、成績評価を行なう。

教科書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

その他

コンピュータ教室の収容人員の制約から履修者数の調整をしたり、重要な注意事項の説明を行うので、初回の授業には必ず出席すること。

科目名	担当者名
教育とメディア	石橋達也

講義のねらい

本授業では、情報化が著しく進展していく今日の社会的状況における、新たな教育の在り方について学んでいきます。毎回の授業の前半では、学校教育における情報メディアの利用形態について、その現状を眺めて今後の課題を探っていきます。続いて後半では、インターネットを含めたコンピュータ操作の実習を行ない、コンピュータの利用の優れた特徴と問題点を理解します。その上で、情報メディア活用の教育実践に必要な操作能力の習得を目指すとともに、教師としての役割や姿勢についても検討していく予定です。

講義の内容・授業スケジュール

授業の講義内容としては、以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。

- ・教育の情報化の現状と課題
- ・新たな授業と学習の形態
- ・小中高の学校現場での取り組みの現状
- ・外国における教育の情報化の現状
- ・インターネット利用の影響
- ・情報メディアリテラシーの意義、など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚した上で、毎回まじめに出席して授業に意欲的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は期末試験の得点を中心にして、毎回の授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教科書

使用する教科書については、初回の授業の中で伝える予定です。

参考書等

授業の中で必要に応じて、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していく予定です。

その他

毎回の授業の中で、インターネット活用やプレゼンテーション資料の作成など、コンピュータ実習の時間があります。初歩的なレベルから始めていきますが、受講学生は「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組む姿勢が大切です。

科目名	担当者名
教育とメディア	芝崎順司

講義のねらい

本講義は、ユビキタスコンピューティング時代の教員として必須と思われる各種のリテラシー（知識・技能・態度）を修得する目的や方法論について具体的に検討することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 学校教育・社会教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の目的・方法について具体的に検討する。
- 2 プレゼンテーションなどが必要な教育場面を設定し、基本的なアプリケーションを活用して、コンテンツを作成する。
- 3 情報教育や情報システム、情報倫理など教員として必要な知識・技能を身につける。

履修上の留意点

コンピュータ等を活用した講義や実習を多く取り入れる。現在進行中の内容を扱うため、問題提起にならざるをえない内容も多く含む。授業への積極的参加を期待する。

成績評価の方法

出席重視。評価は授業中に行い提出される課題と出席状況を総合的に評価しておく。

教科書

授業中に紹介する。

参考書等

必要に応じて、授業中に紹介する。

科目名

担当者名

道徳教育の研究

ふじ 藤 木 篤 典

講義のねらい

21世紀は「心の世紀」といわれているが、教育現場をはじめ「いじめ」などの不適切な現象がみられ、社会問題となっている。

学校教育では、社会生活の中で、主体的に自己実現をはかる「生きる力」の育成が課せられている。

授業では、学習指導要領の「道徳」の趣旨にもとづき、道徳教育の内容・在り方や、指導力を身につけ、学習指導案の作成、指導方法などについて基本的課題を研究する。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 道徳教育の意義と歴史
- 2 道徳教育の変遷
- 3 「道徳」の目標・内容と教材について
- 4 「道徳」の指導案の作成①
- 5 「道徳」の指導案の作成②
- 6 「道徳」教育の問題点
- 7 特別活動と道徳教育
- 8 道徳の評価
- 9 道徳教育の問題点と今後の課題

履修上の留意点

指導案の作成をはじめ、積極的に広い視野を養い、指導力を身につけてほしい。

成績評価の方法

定期試験はしない。出席状況を重視し、レポート、学習指導案の作成等、総合的に評価する。

参考書等

文部科学省『中学校学習指導要領解説——道徳編——』（財務省印刷局）260円

科目名

担当者名

道徳教育の研究

せき 関 ね 根 かず 和 夫

講義のねらい

この授業では、今日の教育における大きな課題として、教育課程に位置付けられている「道徳」の教育的意義や目標、内容及び指導方法等について講義をするものである。文献等に基づく理論的な研究だけでなく、レポート、学習指導案の作成、模擬授業の実施等を通して、現場における実践に役立つ指導力を身につけさせることをねらいとしている。

講義の内容・授業スケジュール

- ①道徳教育の本質と意義
- ②戦前と戦後の道徳教育の特色
- ③教育改革の動向と心の教育
- ④道徳の時間の指導内容
- ⑤道徳の時間の指導の実際—その1—
- ⑥道徳の時間の指導の実際—その2—
- ⑦道徳の時間の学習指導案の書き方
- ⑧道徳の時間の模擬授業の実施
- ⑨道徳の時間の授業展開における問題点
- ⑩道徳の時間の資料の開発と活用
- ⑪道徳教育の評価と道徳的実践力
- ⑫今後における道徳教育の課題と展望

履修上の留意点

授業においては、レポートの提出、ディベート、ロールプレイ、模擬授業の実施等学生諸君の出番があるので、それらに対して積極的に取りくんでほしい。

成績評価の方法

出席状況、レポート、授業における参加状況、学習指導案の提出等を総合的に判断して評価する。

教科書

小川一郎・中野目直明編著『新しい道徳教育』（酒井書店）〈第2版〉1,900円

参考書等

七條正典編著『改訂・中学校学習指導要領の展開』・道徳編・（明治図書）1,480円

科目名**担当者名****道徳教育の研究**いのうえ まさる
井上 勝**講義のねらい**

今日の学校教育の課題は「生きる力」をもった生徒の育成であり、その要となるのが「心の教育」、道徳教育である。道徳の時間は学級担任が担当するものであり、道徳教育の指導理論・方法を習得することはすべての教員にとって不可欠のことである。

本講座では、学習指導要領に基づいて道徳教育の基本的な理論・方法について理解するとともに、道徳の時間の学習指導案を作成し、道徳の授業を担当できる実践的な指導力を習得することをねらいとする。

**講義の内容・
授業スケジュール**

1. 道徳教育の意義と課題
2. 道徳教育の基本構造
3. 戦前の道徳教育とその問題点
4. 戦後の道徳教育とその課題
5. 学習指導要領と道徳教育
6. 道徳資料の内容分析と学習指導案（2）
7. 内容分析と学習指導案の作成（3）
8. 模擬授業（2）
9. 道徳教育の基礎理論
10. 道徳教育の評価、他の教育活動との関連

履修上の留意点

道徳教育の基礎理論を学ぶと同時に、学習指導案の作成に重点を置き、直ちに「道徳の時間」の授業を担当できる指導力の養成をねらいとするので、授業への能動的な参加を望む。

成績評価の方法

次の3つの観点から総合的に評価する。尚、レポートは必ず2回提出する。

- ① 出席状況
- ② 授業中に提出する学習指導案等
- ③ レポート（2回）

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説——道徳編——』（財務省印刷局）260円

参考書等

金井肇『道徳授業の基本構造理論』（明治図書）2,000円

科目名**担当者名****特別活動**ふじきあつのり
藤木篤典**講義のねらい**

特別活動は、知育のみを重視せず、バランスのとれた豊かな人間性を育くむ徳育を目指している。

「いじめ」や不登校の問題をはじめ、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、高齢化・少子化のもと、集団活動をとおして、好ましい人間関係を築き、個人の自覚と責任ある態度を身につけることを目的としている。

特別活動の内容、指導原理、指導計画・方法について学び、実践的な指導力を養成することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 特別活動の意義・目的、ガイダンスについて
- 2 特別活動の歴史の変遷
- 3 特別活動の内容と他教科との関連
- 4 学級活動
- 5 生徒会活動
- 6 学校行事の意義と活用
- 7 ホームルーム活動
- 8 クラブ活動・部活動
- 9 ボランティア活動と地域との連携
- 10 特別活動の評価、課題と展望

履修上の留意点

特別活動の役割と内容を理解し、指導計画の作成や、指導内容・方法などについて、実践的な指導力を身につけてほしい。

成績評価の方法

試験、出席状況、指導案作成、レポート等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説——特別活動編——』（財務省印刷局）70円
文部科学省『高等学校学習指導要領解説——特別活動編——』（東山書房）126円

参考書等

教師養成研究会 教職課程講座6『特別活動の理論と方法——改訂版——』江川ピン成編（学芸図書株式会社）1,260円

講義のねらい

特別活動が人間形成に果たす役割は極めて大きい。とりわけ「ゆとり」の中で「生きる力」を育むためには、特別活動の果たす役割は重要である。

この授業では、「特別活動」の特質や、教育的意義、目標、内容及び指導方法等について、理論と実践の両面から講義するものである。

「為すことによって学ぶ」といわれる特別活動は、特に実践的な面が重要であるので、活動内容や指導方法等に具体的な資料を活用して、教師としての実践的な指導力を身につけさせることをねらいとしている。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①特別活動とは何か…特質と教育的意義…
- ②特別活動の歴史の変遷
- ③特別活動の内容
- ④学級（ホームルーム）活動の特質と内容
- ⑤学級（ホームルーム）活動の指導の実際
- ⑥生徒会活動とクラブ・部活動の指導
- ⑦学校行事の特質と活動内容
- ⑧特別活動の指導計画の作成
- ⑨特別活動とボランティア活動
- ⑩特別活動と総合的な学習の時間
- ⑪生徒指導の諸課題と特別活動（不登校、いじめ、教育相談等）
- ⑫特別活動の評価と今後の課題と展望

履修上の留意点

特別活動における実践的な指導力を身につけるために、授業における意見発表、課題レポートの提出等の積極的な参加を期待している。

成績評価の方法

試験、レポート、学習指導案の提出、及び出席状況等を総合的に判断して評価する。

教科書

小川一郎・中野目直明編著『現代の特別活動』（酒井書店）2,000円

参考書等

講義以外は、特に必要としない。

科目名	担当者名
特別活動	井上 勝 <small>いのうえ まさる</small>

講義のねらい

特別活動とは、学校での集団活動を通して生徒の個性の伸張と社会的資質の育成をねらいとする活動であり、具体的には学級活動、学校行事、修学旅行などである。特別活動の指導は、教科指導以外のほとんどの領域・機能を含んでおり、このため、その指導は学級担任の主要な職務と重なるものである。

本講座では、特別活動の基礎理論を理解するとともに、受講者の小・中・高校での学校生活の positive な体験を事例として取り上げ、事例研究を中心として具体的な指導の考え方や方法を理解し、学級担任として必要な実践的な指導力を身に付けることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

1. 特別活動の意義と内容 (2)
2. 学級活動の役割と内容 (2)
3. 生徒会活動の役割と内容 (2)
4. 学校行事の役割と内容 (2)
5. クラブ活動・部活動の役割と指導 (2)
6. 特別活動と生徒指導、教育相談
7. 特別活動とガイダンス
8. 特別活動とボランティア活動
9. 特別活動の評価

履修上の留意点

受講者の小・中・高校での特別活動に関する positive な体験を事例とする事例研究を中心に授業を行うので、発表、討論などへの積極的な参加を要する。

成績評価の方法

次の3つの観点から総合的に評価する。尚、レポートは必ず2回提出する。

- ① 出席状況
- ② 授業中に提出する意見・感想等
- ③ レポート (2回)

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説—特別活動編—』(財務省印刷局 ぎょうせい) 70円
文部科学省『高等学校学習指導要領解説—特別活動編—』(財務省印刷局 東山書房) 120円

参考書等

その都度、紹介する。

その他

授業は事例研究、受講者による事例発表に基づいて、討論形式の授業を中心に行う。

科目名	担当者名
生徒指導論(進路指導を含む)	榎本 真理子 <small>えの もと まりこ</small>

講義のねらい

「生徒指導」は「教科指導」「進路指導」と並ぶ教師の役割の一つであり、生徒の人格発達を支える大切な関わりです。日本の伝統的な生徒を「抱える」生徒指導は、現在学級崩壊や子どもの変化、また急速な教育改革の進行により、現在それは困難になっています。具体的な資料に基づいて、現在の状況の理解と生徒指導の変化と展望について考察します。また思春期・青年期のアイデンティティ発達と現状についても紹介する予定です。

講義の内容・授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

授業は講義形式とディスカッションを交えた形で行います。
自身の学校体験を記してもらったり、現在の教育改革について自分なりに資料をまとめてもらう機会があります。

成績評価の方法

平常点とレポートによる。授業への参加、授業時の提出物なども評価に加える場合があります。

教科書

必要に応じて資料を配布します。

科目名	担当者名
生徒指導論(進路指導を含む)	目良秋子

講義のねらい

生徒指導は学業、社会性、道徳性、進路などの諸領域の指導を統合するものと考えられます。学校教育活動においてこうした統合的な生徒指導は生徒の個性を尊重・伸張しつつ、社会的資質・行動を高めるといった方向性を持って行われます。しかし、児童期・青年期は発達的に変化の大きい時期であると同時に、子どもたちの問題も複雑・個性を伴っているため生徒指導に必要な生徒理解が困難な場合があります。そこで、この授業では児童期・青年期において重要と思われる自己意識の発達とアイデンティティの達成というテーマから生徒理解を深めます。また、進路選択は青年期における重要な課題であるため、指導上留意すべき点について最近の職業選択に関わる諸問題と合わせて講義を行う予定です。

講義の内容・授業スケジュール

1. ガイダンス及び生徒指導論概説 (1) 一生徒指導の意義についてー
2. 生徒指導論概説 (2) 一生徒指導の諸側面についてー
3. 生徒指導論概説 (3) 一生徒指導の歴史ー
4. 生徒理解の意義とその方法
5. 学校教育における生徒指導の現状 (1)
6. 学校教育における生徒指導の現状 (2)
7. 児童期・青年期の自己の発達と適応
8. アイデンティティの発達と危機 (1)
9. アイデンティティの発達と危機 (2)
10. 発達障害と不適応行動
11. 進路指導 (1) 概説
12. 進路指導 (2) フリーター・ニートの現状と要因
13. 進路指導 (3) 進路選択からみた青年期の問題と留意点
14. 教師としての成長・発達とバーンアウト
15. 総括

履修上の留意点

教職課程科目であるため出席は毎回とり、評価においても重視します。また、授業期間内に数回のレポート提出があります。

成績評価の方法

試験の結果とレポート、および出席状況によって評価します。

教科書

必要に応じて資料を配布します。

参考書等

小杉礼子著『フリーターという生き方』(勁草書房) 2003年

その他

授業は講義形式で行います。

科目名	担当者名
生徒指導論(進路指導を含む)	佐藤尚人

講義のねらい

今日、様々な問題を抱える子どもを学校で教育するために、教師には教科学習についてはもちろん、様々な知識や技術が求められる。本講義では、子どもと触れ合う出発点と言える、『子どもの理解』を中心テーマとする。また、指導の際の具体的方法も考えていく。

履修上の留意点

講義の内容を覚えるだけでなく、自ら問題点を見つけ出し考える姿勢を求める。

成績評価の方法

原則として、筆記試験の点数で評価するが、授業への積極的な参加態度をプラスして最終的に成績をつける。

教科書

テキストは使用しない。

参考書等

参考書等は適宜指示する。

科 目 名**担 当 者 名**

生徒指導論(進路指導を含む)

遠 藤 司えん どう つが**講義のねらい**

生徒指導、ならびに進路指導の名のもとに、現在の学校で様々な教育的営みが行われている。将来、教職に就くことを目指している人間として、生徒（他者）の生活面を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちに既にもっている自らの生徒指導観、ならびに進路指導観をとらえなおした上で、より豊かに深めていくことがこの授業の目的である。

**講義の内容・
授業スケジュール**

次のテーマを予定している。 1. 「問題行動とは何か」という問いに関わる諸問題 2. 不登校、いじめ等の実際の事例を通しての実践的考察 3. 教師—生徒関係の中での生徒指導・進路指導の在り方、特に「指導」という概念のとらえ直し 4. 個の尊重と組織・集団活動との相克の中での生徒指導・進路指導

履修上の留意点

主体的・積極的に授業に参加すること。授業時に授業者によって発せられる様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いてもらう機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の文章にすることを要求する。

成績評価の方法

学期中、及び学期末の複数回のレポートあるいは試験により成績評価を行う予定である。なお、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。

教 科 書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

講義のねらい

生徒を指導するとはどういうことか、生徒指導を行っていく上で必要なことは何かを、様々なことの喩えを通して理解し、指導する際の意識やコミュニケーションの難しさについて理解する。

講義の内容・
授業スケジュール

授業スケジュールについては、初めの方の授業で呈示する予定です。資料や文献を読んだの小課題実施、教員からの講義、実習風の体験、班での英文献発表などといったものを組み合わせて授業を組み立てていきます。

履修上の留意点

- 最初の授業で受講人数を把握して、班編成を行う予定です。受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。2回目以降からの参加は原則認めません。
- 意欲的かつ積極的な受講態度の形成のために、「自分で考えて動くこと」を授業の柱にします。誰かが（特に教員が）何かしてくれると思って受身で待っていても、得られるものではありません。
- グループ作業をはじめとした活動に物理的にも意識的にも参加していなければ話になりません。責任をもって授業に参加すること。
- 小課題等を実施しますので、配付された資料等は読んできてください。
- 最初の授業にB5判1枚に書いた自己紹介の紙をお持ちください。
- 最初の授業にこのシラバス冊子を必ず持ってきてください。

成績評価の方法

- 例年通りの受講人数や受講態度なら、試験を実施します。試験の際は持ち込みは一切不可になります。あと、必要に応じてレポートを付加することもあります。
- 平常点等についての考えなどの詳細は、初回の授業に述べる。

教 科 書

- このシラバスを入力している現在、選定中です。決まり次第指示します。

参 考 書 等

- 必要なものがあれば、授業中に呈示します。
- 自学自習のために参考となる本の紹介もできますので、関心のある方は積極的にお尋ねください。

そ の 他

- 今までの実態を見ると、多くの学生が後期の授業まで通年登録しているようです。しかし、後期授業のアンケートをみると、満足しない学生も多いようですので、履修登録の際にはご注意ください。
- 「授業に出ているれば教職単位は何とか取れる」という学生には決して向きません。
- 授業や試験にあたって必要な情報は、授業中に口頭で指示します。
- 授業の一部では、生徒指導に関する英文献をグループで発表してもらうこと、あるいは実習風の実演をしてもらうことなども考えています。

科目名

教育臨床

担当者名えの もと まり こ
榎 本 真理子**講義のねらい**

思春期は対人関係や役割を引き受けることで、生徒の対人的な力や自主性を伸ばしていく大切な時期です。また、学校は学級や授業、教師の指導を通して生徒のそのような成長の機会を提供しています。思春期の生徒（中高生）に対する理解と対応について、基本的な発達上の視点を示した上で、教師・授業実践・スクールカウンセラーそれぞれの発達支援の事例を取り上げる予定です。また、いじめや不登校などのトピックは事例の中で紹介していきます。

講義の内容・授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

授業は講義形式とディスカッションを交えた形でを行います。
自身の学校体験を記してもらい機会や事例について意見を求めることがあります。

成績評価の方法

平常点とレポートによる。授業への参加、授業時の提出物なども評価に加える場合があります。

教科書

必要に応じて資料を配布します。

科目名

教育臨床

担当者名め ら あき こ
目 良 秋 子**講義のねらい**

この授業では教育現場における臨床活動の現状と諸問題をスクールカウンセラーと教員の相互視点に立ち考察しながら、児童・生徒の諸問題について理解を深めていきます。また、主に不登校の事例を通して具体的なスクールカウンセラーと教師の子どもへの対応や、学校内および家庭との連携、子どもとの間で生じる葛藤や問題の扱い方などについてもみていきます。

講義の内容・授業スケジュール

1. ガイダンス及び教育臨床概説
2. 教育臨床の現状と諸問題
3. 教育相談の理論と方法 (1) 理論
4. 教育相談の理論と方法 (2) 歴史 日本とアメリカ
5. 教育相談の理論と方法 (3) 方法 教育現場と医療現場の比較から
6. 児童期・青年期の心の問題 (1) 不登校・いじめ
7. 児童期・青年期の心の問題 (2) 発達障害との関連
8. 学校における臨床活動 (1) スクールカウンセラーと教師
9. 学校における臨床活動 (2) カウンセリングと心理療法
10. 学校における臨床活動 (3) 児童・生徒の心の変容 1
11. 学校における臨床活動 (4) 児童・生徒の心の変容 2
12. 事例研究—不登校生徒に対するスクールカウンセラーの対応—
13. 事例研究—不登校生徒の変化と親の変化—
14. 事例研究—不登校以外の諸問題を抱える生徒への対応—
15. 総括

履修上の留意点

教職課程科目であるため出席は毎回とり、評価においても重視します。また、授業期間内に数回のレポート提出があります。

成績評価の方法

試験の結果とレポート、および出席状況によって評価します。

教科書

必要に応じて資料を配布します。

参考書等

必要に応じて紹介します。

その他

授業は講義形式で行います。

科目名	担当者名
教育臨床	佐藤尚人

講義のねらい	不登校やいじめ非行や学級崩壊など具体的な子どもの問題行動を取りあげそれについての理解と対応を考える。
履修上の留意点	課題を出し授業では参加者による報告とディスカッションを行なう。
成績評価の方法	授業に出席するだけでは単位は認定しない。課題の報告とディスカッションへの参加を必須とする。試験は行わないが最後にレポート課題を出し日常の授業への参加の様子と合わせて成績評価をする。
教科書	テキストは使用しない。
参考書等	参考書等は適宜指示する。

科目名	担当者名
教育臨床	遠藤司

講義のねらい	心の教育が重視されている現在の教育現場において、カウンセリングに代表される、臨床心理学的視点をもつ教師の育成が求められている。この授業では、将来、教職に就くことを目指している人間がカウンセリングについて学ぶことの意味を考え、双方向の対話を基に教師—生徒関係を作ろうとしつつ、なおかつ指導する人間としての教師をも生きようとすることの意味を考えることを通して、白らの教師観をより豊かに深めていくことを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	次のテーマを予定している。 1. カウンセリングについて学ぶ 2. 教師としてカウンセリングを学ぶことの意味を考える 3. 教師—生徒関係をとらえ直し、特に指導することと理解することとの関係 4. 他者との対話的關係を生きることについて考える
履修上の留意点	主体的・積極的に授業に参加すること。授業時に授業者によって発せられる様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いてもらう機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の文章にすることを要求する。
成績評価の方法	学期中、及び学期末の複数回のレポートあるいは試験により成績評価を行う予定である。なお、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。
教科書	特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

科目名

教育臨床

担当者名

かわはらせいし
川原誠司

講義のねらい

心理療法に関する英文献を読み、主たる4つの心理療法（精神分析、行動療法、認知療法、クライアント中心療法）の基本的な考え方や知識、治療方法が、学校という場所で子どもに接する場合にどのような形で援用できるかという、教師の仕事を行うにあたっての視点の広がりや深まりを獲得することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業スケジュールについては、初めの方の授業で呈示する予定です。班での英文献発表資料と質疑応答、教員からの補足説明、学校現場への適用、といったものを組み合わせて授業を組み立てていきます。

履修上の留意点

- 最初の授業で受講人数を把握して、班編成を行う予定です。受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。2回目以降からの参加は原則認めません。
- 意欲的かつ積極的な受講態度の形成のために、「自分で考えて動くこと」を授業の柱にします。誰かが（特に教員が）何かしてくれると思って受身で待っていても、得られるものではありません。
- グループ作業をはじめとした活動に物理的にも意識的にも参加していなければ話になりません。責任もって授業に参加すること。
- 最初の授業にこのシラバス冊子を必ず持ってきてください。

成績評価の方法

- 例年通りの受講人数や受講態度なら、試験を実施します。試験の際は持ち込みは一切不可になります。あと、必要に応じてレポートを付加することもあります。
- 平常点等についての考えなどの詳細は、初回の授業に述べる。

教科書

- このシラバスを入力している現在、選定中です。使わない方向でいますが、使う場合には決まり次第指示します。

参考書等

- 必要なものがあれば、授業中に呈示します。
- 自学自習のために参考となる本の紹介もできますので、関心のある方は積極的にお尋ねください。

その他

- 今までの実態を見ると、多くの学生が前期からの継続で登録しているようです。しかし、平成17年度のこの授業のアンケートで、5段階評定で、「満足度」について2が17.9%、1が3.6%であり、「友人や後輩に勧めたい」について2が25.0%、1が14.3%でした。先輩からのお薦めの授業とは言い難いようなので、前期の履修登録の段階でご注意ください。
- 「授業に出ていれば教職単位は何とか取れる」という学生には決して向きません。
- 授業や試験にあたって必要な情報は、授業中に口頭で指示します。
- グループでの活動・発表をしてもらいますので、他者と関係をとりとうとする意欲のある人の参加を希望します。

科目名	担当者名
総合演習Ⅰ(環境・地域)	
総合演習(3)(環境教育)	きたむらかずお 北村和夫
総合演習〔環境教育〕	

講義のねらい	環境問題がなぜ解決できないのかを考えることを通して、環境教育の独自の役割を理解する。
講義の内容・授業スケジュール	人間、社会、環境（自然）についての常識的な見方の問題点を考えるとともに、変革の方向を探る、ということを中心にする。したがって、暗記することよりも考えることを重視する。
履修上の留意点	全体の流れを理解する必要があるので、欠席しないこと。
成績評価の方法	試験
教科書	北村和夫『環境教育と学校の変革—ひとりの教師として何ができるか』 (農山漁村文化協会) 2000年 2,900円(税込)

科目名	担当者名
総合演習Ⅰ(環境・地域)	
総合演習(4)(近代社会と身体)	きたむらかずお 北村和夫
総合演習〔近代社会と身体〕	

講義のねらい	人間の体について様々な角度から学ぶことを通して、常識的な身体観の問題点について考える。
講義の内容・授業スケジュール	脳神経科学、免疫学、ロボット工学などにおいて、身体観、ひいては人間観の変革を促す研究が進んでいるので、それらを紹介し、常識的な身体観に見直すべきことはないかを考える。また、進化という観点も重視する。一回に一つのテーマを扱う。
履修上の留意点	欠席しないこと
成績評価の方法	レポート
教科書	なし。
参考書等	毎回何冊か紹介する。
その他	プリントを配布する。

科目名	担当者名
総合演習 I (環境・地域)	きたむらみつこ 北村三子
総合演習(15) (持続可能性と技術)	

講義のねらい

本演習は中学・高等学校の「総合的学習の時間」の指導力の養成を目的としますが、その出発点として、地球環境の現状を広く理解することを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

「ワールド・ウォッチ」を基本資料として、それぞれ関心のある論文を選び、内容紹介・コメントを発表し合います。またその発表を受けて、全体で討論をします。授業スケジュールは、参加者と相談の上決定します。

履修上の留意点

演習ですので、積極的な参加が求められます。

成績評価の方法

出席状況、発表、レポートによります。

教科書

教場で指示します。

科目名	担当者名
総合演習 I (環境・地域)	きたむらみつこ 北村三子
総合演習(16) (豊かさの多様性)	

講義のねらい

自然と調和して生きていくために、私たちはどのような社会・地域を築いていったらよいのでしょうか。経済、政治、教育などについて、新たなシステムが創り出されねばなりません、その手掛りを江戸時代に探してみたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

『環境先進国・江戸』（鬼頭 宏著 PHP 新書）などを読みながら、考え合います。授業スケジュールは参加者と相談の上決定します。

履修上の留意点

演習形式ですので、積極的な参加が求められます。

成績評価の方法

出席状況、発表、レポートによります。

教科書

鬼頭宏 『環境先進国・江戸』（PHP 新書）2002年

科目名	担当者名
総合演習Ⅱ(生活・人権)	ひろさわ 明
総合演習(9)(教育と法律)	
総合演習〔教育と法律〕	

講義のねらい

「総合演習」の一つとして、「教育と法律」について扱う。教育基本法改正、政治的中立性、宗教的中立性、中等教育学校、幼保一元化、職員会議、教科書検定、出席停止、教職員の分限懲戒など、教育関係法規の各条文の理解を深めようと思う。

講義の内容・授業スケジュール

学生をテーマごとにグループ分けし、毎回担当者が報告し、全員で討論する。テーマについては、最初の授業で提示する。

履修上の留意点

演習形式で進めるので、授業への積極的参加・発言が不可欠である。教育問題について感心・熱意のある学生の参加を求める。

成績評価の方法

出席状況、報告、レポートで評価する。

教科書

特に使用しない。

参考書等

授業にて指示する。

科目名	担当者名
総合演習Ⅱ(生活・人権)	ひろさわ 明
総合演習(10)(子どもの人権)	
総合演習〔子どもの人権〕	

講義のねらい

「総合演習」の一つとして、「子どもの人権」について扱う。児童虐待、児童買春、少年犯罪、体罰、いじめ、性差別、民族差別、障害児、セクハラなど、様々な子どもの人権問題の理解を深めようと思う。

講義の内容・授業スケジュール

学生をテーマごとにグループ分けし、毎回担当者が報告し、全員で討論する。

履修上の留意点

演習形式で進めるので、授業への積極的参加・発言が不可欠である。教育問題について感心・熱意のある学生の参加を求める。

成績評価の方法

出席状況、報告、レポートで評価する。

教科書

特に使用しない。

参考書等

授業にて指示する。

科目名**担当者名**

総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)

総合演習(1)(障害児と教育)

えん どう つが
遠 藤 司

総合演習〔障害児と教育〕

講義のねらい

この授業の目的は、「総合的な学習の時間」の目的やその意義について理解し、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力を養うことである。この授業では、「障害児・者」に関わる様々な問題を取り上げ、現在の日本社会の抱える諸課題とも関連づけながら総合的に学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

前半は、「総合的な学習の時間」の目的、内容等について学び、この時間の中での生徒の学びと教師の役割について考える。後半は、障害児教育、あるいは障害者福祉の問題を取り上げ、参加者相互の討論等を行いながら、様々なテーマに基づき学びを深めていく。

履修上の留意点

各回の授業のスケジュールについては、第一回の授業で示す予定である。それを見て、了承した上で履修すること。

授業時に発せられた様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いて提出することを要求するが、それに対しては、誠実に真摯に考え、自分の文章で表現することを強く望む。

成績評価の方法

学期中、および学期末のレポートまたは試験、授業への参加の仕方の積極度、授業時の提出物の内容等をもとに、総合的に評価する。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

その他

「演習」という授業の性格上、履修者の人数を制限する場合がある。詳細については第一回の授業で説明し、履修者の決定を行うので、履修希望者は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できないものは、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。

科目名**担当者名**

総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)

総合演習(2)(障害児と福祉)

えん どう つか
遠 藤 司総合演習〔障害児と福祉〕

講義のねらい

この授業の目的は、「総合的な学習の時間」の目的やその意義について理解し、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力を養うことである。この授業では、「障害児・者」に関わる様々な問題を取り上げ、現在の日本社会の抱える諸課題とも関連づけながら総合的に学ぶ。

**講義の内容・
授業スケジュール**

前半は、「総合的な学習の時間」の目的、内容等について学び、この時間の中での生徒の学びと教師の役割について考える。後半は、障害児教育、あるいは障害者福祉の問題を取り上げ、参加者相互の討論等を行いながら、様々なテーマに基づき学びを深めていく。

履修上の留意点

各回の授業のスケジュールについては、第一回の授業で示す予定である。それを見て、了承した上で履修すること。

授業時に発せられた様々な問いに対して、安易に他者に正解を求めるのではなく、自分の言葉で考えようとすることを望む。特に、ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書いて提出することを要求するが、それに対しては、誠実に真摯に考え、自分の文章で表現することを強く望む。

成績評価の方法

学期中、および学期末のレポートまたは試験、授業への参加の積極度、授業時の提出物の内容等をもとに、総合的に評価する。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

その他

「演習」という授業の性格上、履修者の人数を制限する場合がある。詳細については第一回の授業で説明し、履修者の決定を行うので、履修希望者は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できないものは、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。

科目名**担当者名**

総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)

総合演習(7)(心の健康と教育)

の なか ひろ とし
野 中 弘 敏

総合演習[心の健康と教育]

講義のねらい

心理的な背景に由来する困難からも、様々な症状を得たり日常生活の上で苦痛を感じ続けることがあります。心身のはげしい変化を遂げつつある子どもと関わり、その成長を支える存在としての教師にとって、それらの心理的な問題にまなざす意味は深いと考えます。本講義では、心理的困難を抱える人々への臨床心理学的援助の事例を通じて、これら困難の様相、またそこに生じた症状や苦痛の意味を当事者の経験に即して理解していく、という試みを、参加者と共に重ねていきます。

講義の内容・
授業スケジュール

最初の講義で受講者を把握し、講義の内容と進め方をより詳しく説明します。各自の受講継続の判断のためにも必ず出席してください。

以後の教回は、事例を考察する際の基本となる知見や構えについてお話しします。並行して、続く事例報告の担当者・順番・日程等を参加者間で調整します。

その後の講義は、テキストに即した事例報告及び話し合いを中心に進めます。報告は全参加者が最低1回担当します。参加者は各回終了までに感想を書いて提出し、まとめられた感想は次の回全員にフィードバックされ、それにより事例へのアプローチを振り返ります。

履修上の留意点

テキストを予め熟読した上で参加すること。各自の経験を振り返りつつ、真摯に読み、聴きいること。

成績評価の方法

上記の留意点を踏まえて、出席の姿勢・講義時間内の感想を含めた平常点で評価します。

教科書

講義開始時に提示します。

参考書等

随時紹介します。

その他

参加人数によりませんが、概ねいわゆるゼミ形式となります。

科 目 名**担 当 者 名**

総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)

総合演習(8)(心の援助と教育)

の なか ひろ とし
野 中 弘 敏

総合演習[心の援助と教育]

講義のねらい

心理的な背景に由来する困難からも、様々な症状を得たり日常生活の上で苦痛を感じ続けることがあります。心身のはげしい変化を遂げつつある子どもと関わり、その成長を支える存在としての教師にとって、それらの心理的な問題にまなざす意味は深いと考えます。本講義では、心理的困難を抱える人々への臨床心理学的援助の事例を通じて、これら困難の様相、またそこに生じた症状や苦痛の意味を当事者の経験に即して理解していく、という試みを、参加者と共に重ねていきます。

**講義の内容・
授業スケジュール**

最初の講義で受講者を把握し、講義の内容と進め方をより詳しく説明します。各自の受講継続の判断のためにも必ず出席してください。

以後の数は、事例を考察する際の基本となる知見や構えについてお話しします。並行して、続く事例報告の担当者・順番・日程等を参加者間で調整します。

その後の講義は、テキストに即した事例報告及び話し合いを中心に進めます。報告は全参加者が最低1回担当します。参加者は各回終了までに感想を書いて提出し、まとめられた感想は次の回全員にフィードバックされ、それにより事例へのアプローチを振り返ります。

履修上の留意点

テキストを予め熟読した上で参加すること。各自の経験を振り返りつつ、真摯に読み、聴きいること。

成績評価の方法

上記の留意点を踏まえて、出席の姿勢・講義時間内の感想を含めた平常点で評価します。

教 科 書

講義開始時に提示します。

参 考 書 等

随時紹介します。

そ の 他

参加人数によりませんが、概ねいわゆるゼミ形式となります。

総合演習Ⅳ(健康・人間)

総合演習(5)(対人関係とストレス)

かわ ほう せい し
川 原 誠 司

総合演習〔対人関係とストレス〕

講義のねらい

- 「ストレス」という言葉が日常頻繁に用いられているが、そのメカニズムについて丁寧に考えていることは少ない。本演習ではストレスの心理学的プロセスの詳細について学習し、自分自身のストレスのことを内省し、学校現場での子どものことに思いを馳せ、子どものストレスに対する教育のあり方を検討することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 授業スケジュールについては、初めの方の授業で呈示する予定です。資料や文献を読んでの小課題実施、教員からの講義、班での話し合いや作業といったものを組み合わせて授業を組み立てていきます。

履修上の留意点

- 最初の授業で受講人数を把握して、班編成を行う予定ですので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。2回目以降からの参加は原則認めません。
- 意欲的かつ積極的な受講態度の形成のために、「自分で考えて動くこと」を授業の柱にします。誰かが(特に教員が)何かしてくれると思って受身で待っていても、得られるものではありません。
- どの授業も同じではありますが、特にこれは演習なので、グループ作業をはじめとした活動に物理的にも意識的にも参加していなければ話になりません。責任もって授業に参加すること。
- ストレスに関する文献をほぼ毎週読んでもらい、それらに対してきちんと思考してもらうことを考えています。小課題等で確認していきます。
- 最初の授業にB5判1枚に書いた自己紹介の紙をお持ちください。
- 最初の授業にこのシラバス冊子を必ず持ってきてください。

成績評価の方法

- 例年通りの受講人数や受講態度なら、試験を実施します。試験の際は持ち込みは一切不可になります。あと、必要に応じてレポートを付加することもあります。
- 平常点等についての考えなどの詳細は、初回の授業に述べる。

教 科 書

- このシラバスを入力している現在、選定中です。決まり次第指示します。

参 考 書 等

- 必要なものがあれば、授業中に呈示します。
- 自学自習のために参考となる本の紹介もできますので、関心のある方は積極的にお尋ねください。

そ の 他

- ストレスという言葉をただ飾りとして用いるのではなく、それを乗り越えるために必要な見方や考え方を実感して考えてもらいたいと思います。あなたの想像力や思考力が学校の中の様々な子どもの様子にまで働いていくといいなと願っています。

総合演習Ⅳ(健康・人間)

総合演習(6)(学校における対人関係)

かわ ほん せい し
川 原 誠 司

総合演習[学校における対人関係]

講義のねらい

- 教師の精神的健康について、ストレスというものを教職の多忙化の面から、また「生徒との関係」「保護者との関係」「同僚との関係」といった対人関係の面から考える。また、周囲からの支え(ソーシャル・サポート)の実態をもとに改善のための対人関係のあり方を考慮することや、ストレス対処に影響を与える学生個人の認知のあり方や意識のあり方について自己分析していくことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 授業スケジュールについては、初めの方の授業で呈示する予定です。資料や文献を読んでの小課題実施、教員からの講義、班での話し合いや作業といったものを組み合わせて授業を組み立てていきます。

履修上の留意点

- 最初の授業で受講人数を把握して、班編成を行う予定です。受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。2回目以降からの参加は原則認めません。
- 意欲的かつ積極的な受講態度の形成のために、「自分で考えて動くこと」を授業の柱にします。誰かが(特に教員が)何かしてくれると思って受身で待っていても、得られるものではありません。
- どの授業も同じではありますが、特にこれは演習なので、グループ作業をはじめとした活動に物理的にも意識的にも参加していなければ話になりません。責任もって授業に参加すること。
- 教師の精神的健康に関する文献をほぼ毎週読んでもらい、それらに対してきちんと思考してもらうことを考えています。小課題等で確認していきます。
- 最初の授業にB5判1枚に書いた自己紹介の紙をお持ちください。
- 最初の授業にこのシラバス冊子を必ず持ってきてください。

成績評価の方法

- 例年通りの受講人数や受講態度なら、複数のレポートを課すことを考えています。ただし、人数が多くなった場合には試験を行う可能性があります。試験の際は持ち込みは一切不可になります。
 - 平常点等についての考えなどの詳細は、初回の授業に述べる。
- 成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定しますが、試験を行う予定です。

教科書

- このシラバスを入力している現在、使用する予定はありません。もし使用する場合には、掲示・指示します。

参考書等

- 必要なものがあれば、授業中に呈示します。
- 自学自習のために参考となる本の紹介もできますので、関心のある方は積極的にお尋ねください。

その他

- 教師の精神的健康は、近年大きな課題となっています。教師になろうとする若いみなさんがそのことに真摯に向き合うことで、基盤を作っておくことで、精神的健康への視野が広がり、理解が深まり、意識が高まるものと考えます。

科 目 名**担 当 者 名**

総合演習Ⅳ(健康・人間)

総合演習(11)(生と死の教育)

やなぎ ぼり すがこ
柳 堀 素雅子

総合演習[生と死の教育]

講義のねらい

「倫理」と「宗教」の問題を中心に考えていく。近年青少年の殺人事件が多発しているのはなぜか。殺人が悪いことはわかっているのに、なぜ相次いで起こるのか。大人の殺人事件も凶悪になってきている。イラク戦争、中東問題など戦争、テロと殺人の問題も考えていかなければならない。これらの問題を哲学、倫理学、宗教の視点から多角的に考えていきたい。哲学史、倫理思想史を見れば、古代から人間はこれらの問題を考えてきたことがわかる。先人の思想を学びながら現代の問題に焦点を当てて、改めて問題解決の方法を探っていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

西洋倫理思想史の中から、殺人、暴力、悪の問題、戦争と平和の問題などについて考えている思想家をとりあげて、その内容を吟味していく(具体的に誰をとりあげるかは現在検討中)。さらにキリスト教思想史の中では上記の問題をどのように考えているかを比較しながら見ていく(具体的にどのような神学者やキリスト教の思想家をとりあげていくかは現在検討しているところである)。

履修上の留意点

「哲学書」や「神学書」の原典を引用する内容も出てくるので、翻訳してあるものでよいかから、その内容を読みこなす力を持ってほしい。

成績評価の方法

レポートの内容と出席状況。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

講義の中で必要なものをお知らせします。

そ の 他

人数が少なければ、自由な討論を行なう時間を増やしたい。歴史上の思想家の内容を見ていただくだけでなく、彼らの知恵を現代の問題の解決に役立てる工夫をしていきたい。

総合演習Ⅳ(健康・人間)

総合演習(12)(生命倫理)

総合演習[生命倫理]

やなぎ ほり すがこ
柳 堀 素雅子

講義のねらい

「バイオエシックス(生命倫理)」の問題を中心に考えていく。バイオエシックスとは1960年代にアメリカに登場した新しい学問である。医療、医学が急速に進歩し、それ以前には考えられなかった新しい医学上の問題が倫理的に問われるようになる。たとえば、脳死臓器移植の問題、あるいは安楽死や尊厳死の問題を含めた延命治療の問題など数多くの問題が出現してきた。これらの問題を解決していくことがバイオエシックスの使命であるので、具体的にどのように考えているのかを、現代のバイオエシックスの世界の状況を見ながら考察していく。

講義の内容・
授業スケジュール

バイオエシックスという学問の内容とその意義を説明していく(講義形式)。
バイオエシックスの個々の事例については参加者との話し合いで、具体的にどの問題を取り扱うか決めていきたい。個別例の1つを参考としてお知らせしておく(必ずしもこの問題を取り上げる必要はない)。
現在の医療では生まれる前に遺伝性疾患を持っているかどうか分かるまで技術が進歩している。胎児の段階はもちろんのこと、新しい生殖技術によって体外受精した受精卵の疾患の有無を検査できるまでになっている。生まれる前に遺伝性疾患を持っていることがわかった受精卵や胎児を出産すべきか、出産をやめるかの決断を迫られた場合、どうするのか?これはバイオエシックスのテーマの重要なものではあるが、あなたならどう考えるか?バイオエシックスとしての世界的な理論づけや実践的な取り組みはこちらからお知らせするが、参加者ひとりひとりが真剣に考える努力もしてもらいたいと思う。

履修上の留意点

積極的に自分の意見を主張してもらいたい。

成績評価の方法

レポートの内容と出席状況。

教科書

なし。

参考書等

講義の中で必要なものをお知らせする。

その他

講義、討論などいろいろな形式を入れる。

科目名	担当者名
総合演習Ⅴ(国際理解・情報)	おおはま きくこ 大 浜 幾久子

講義のねらい	「平和のための教育は可能か」をめぐって、諸メディアからの情報を参考にしつつ、考えていく。そのことを通して、中学校・高等学校で「総合的な学習の時間」を担当する力量の形成をめざす。
講義の内容・授業スケジュール	初めに下記の2冊の参考書を読む。その後は、「総合的な学習」を展開する。
履修上の留意点	必要に応じて、英語をはじめとする外国語の文献も読んでいく。 履修にあたっては、英語の学習を（できれば他の外国語の学習も）積極的に続けていく意思が明確であることが求められる。
成績評価の方法	出席状況とレポートによる。
参考書等	阿部知二著『良心的兵役拒否の思想』（岩波新書）1969年 女子学院中学校「祖父母の戦争体験」編集委員会編『15歳が受け継ぐ平和のバトン：祖父母に聞いた235の戦争体験』（高文研）2004年
その他	演習形式で進めるため、履修者の人数を調整する必要がある。前期の初回の授業に、後期に履修を希望する者も出席すること。1回目の授業に事前に連絡せず欠席した者は、前期・後期とも履修できない。

科目名	担当者名
総合演習Ⅱ(生活・人権)	たか い よう こ 高 井 葉 子
総合演習(13)(現代的学習課題とジェンダー)	

講義のねらい	私が担当する総合演習（「ジェンダーと教育」）は、前期と後期にあります。どちらか一つを受講することも可能ですが、可能な限り両方を受講して下さい。どちらも、貧困、差別、暴力など、現代社会が抱える問題をジェンダーや学校教育との関連で取り上げ、学生諸君の発表を中心に授業をすすめます。前期は、家族や子どもをめぐる社会問題をジェンダーとの関連で理解します。いずれも、学校教育、社会教育に携わる者にとって重要な問題ですが、単に理解するだけではなく、これらの問題にどのように取り組むことができるか、どのように指導したらよいかを考える場にします。
講義の内容・授業スケジュール	講義内容の柱は次の通りです。①近代家族とジェンダー ②家族・暴力・ジェンダー ③子育てとジェンダー ④子ども・学校・ジェンダー。授業でとりあげる具体的な問題は、「ドメスティック・バイオレンス」、「児童虐待」、「スクール・セクシュアル・ハラスメント」、「単親家族」などです。
成績評価の方法	出席（10%）、発表（40%）、レポート（50%）。成績評価の条件については、最初の授業で詳しく説明します。
教科書	最初の授業時に説明します。

科目名	担当者名
総合演習Ⅱ(生活・人権) 総合演習(14)(学校教育におけるジェンダー)	たか い よう こ 高 井 葉 子

講義のねらい

前期の「総合演習(13)(ジェンダーと教育I)」では、ジェンダーに関連する具体的な問題をあらかじめ設定し授業をすすめましたが、後期の演習では、教育学の知見や理論を紹介しながら、教育とジェンダーの問題をより広い範囲で考えます。また、各テーマに関連した問題を受講者の関心領域から選び授業時に発表してもらいます。

講義の内容・
授業スケジュール

この演習で扱う内容は次の通りです。

- ①日本の教育とジェンダー ②教育制度とジェンダー ③教育投資とジェンダー
- ④教育機能とジェンダー ⑤学校文化とジェンダー

成績評価の方法

出席(10%)、発表(40%)、レポート(50%)。成績評価の条件については、最初の授業で詳しく説明します。

教科書

最初の授業時に説明します。

講義のねらい

「宗教（科）」は、いわゆる戦後教育改革の宗教教育政策の紆余曲折に因縁深く連関する。学習指導要領等にみえる他教科とはその成立経緯が異なり、その問題点が今日随所に遍在していることをまず知らねばならない。したがって本講義内容説明も簡単ではない。

教育職員免許法施行規則には免許教科「宗教（科）」の示がみえる。だが肝腎ともいべき学習指導要領には、教科「宗教（科）」の示は具体的にはみいだし難い。免許法施行規則にはみえている「宗教（科）」は、学習指導要領では、たとえば、「その他特に必要な教科」（中学校学習指導要領）、「学校設定教科」（高等学校学習指導要領）等の示に拠って辛うじて浮上せしめられ措置されていると思慮されよう。さらに周知の如く現行法規下では「宗教（科）」の免許の効力はいわゆる私立学校（学校法人）に限定されている。「宗教（科）」の免許状を所持する教員が実践する学校は、原則として私立学校であり、またその授業科目の名称は、具体的には、全国的に通覧すると、各私立学校によって、それぞれに独自の名称が工夫され、その内容も決して一様ではない。特定の宗教・宗派に限定している例、或いは、特定に限定せずに、宗教一般にわたっている例など、種々様々である。また私立の小学校・中学校では、教育課程編成上「宗教を加えることができる。この場合においては、宗教をもって前項の道徳に代えることができる。」（学校教育法施行規則24条；55条（中学校準用規定））とみえることも知られる。

そこで、本講義「宗教科教育法 I・宗教科教育法」では、まず、総論的に、他教科（科目）とは大きく異なった事情を有する免許教科「宗教（科）」制定の経緯を概説し、「宗教（科）」の体系化を構想し、その上で、「宗教科教育法」の授業デザインに着手していくこととする。

その際、いわゆる「宗教教育」における「宗教」の取り扱いと、「宗教科教育」における「宗教」の取り扱いとの、両者間の異同点について考える。（詳細は、別途科目「宗教教育」で扱う）

日本国憲法、教育基本法、学校教育法での法的思考から教育的思考・宗教的思考を喚起する。学習指導要領のコンセプトをふまえ、「宗教科」以外の各教科（科目）に関する示、及び史料「文部省著作『宗教と社会生活』（昭和25年）」やその他関連文献・資料・史料を参考にして、いわゆる中学校の宗教科、高等学校の宗教科、また中等教育学校の宗教科について、各学校ごとの「宗教科の体系」を構想し、各々の目標・内容を浮き彫りにしていくことから授業を開始するが、以上のことで前期の大半を費やしよう。難度の高い、さながら、五里霧中の如きチャレンジだが、けだし不可避・不可欠の課題である。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 概説：中学校・高等学校の「宗教科教育」の現状

「宗教（科）」：教育職員免許法施行規則・中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領教科（体系）論、教科教育法、学習指導案、開発主義・注入主義

(2) 戦後教育改革における宗教教育。日本国憲法第26条・教育基本法全11箇条

(3) 日本国憲法第20条と教育基本法第9条との補完的関連

教育基本法第9条立法制定審議過程の推移相。宗教的情操教育の成立論2見解

(4) 学校教育法第17・18・35・36・41・42・51の2・51の3にみえる系統的位相性

(5) 中学校の教育課程一般、高等学校の教育課程一般

学校教育法・同法施行令・同法施行規則・学習指導要領

(6) 教育職員免許法施行規則の免許教科「宗教（科）」の制定経緯

(7) 用語「宗教教育」の教授概念類型、用語「宗教科教育」の教授概念類型

(8～10) 中学校の宗教科の教育課程編成、中学校の宗教科の学習指導・授業計画作成

(11～13) 高等学校の宗教科の教育課程編成、高等学校の宗教科の学習指導・授業計画作成

(14～16) 中学校及び高等学校の宗教科教材開発と史料批判、史料活用の方法

(17～18) 高等学校（及び中学校）の宗教科の本時の学習指導計画案の細案・略案作成

*（年間学習指導計画案、期間学習指導計画案、月間学習指導計画案、週間学習指導計画案、本時の学習指導計画案、1 point / 1 class の原則）

*（教育観（例えば、学習か教育か、本覚か始覚）と学習指導案の様式）

（19～26）模擬授業と授業分析討議（ビデオ収録再生・ビデオの鏡利用）

履修上の留意点

入学年度等に拠る履修の詳細は、所定の履修説明で十分に確認しておくこと。

教科体系構築上の題材は、例えば、社会科、地理歴史科、公民科、道徳、特別活動等の随所に題材があることに留意し、また、地域や学校の特色、生徒の興味・関心の特性、国際理解、情報、環境、福祉、健康にも留意すること。

成績評価の方法

- 1) レポート（夏期休暇後提出、学年末提出）。
- 2) 模擬授業実践（学習指導案細案作成を含む）。
- 3) 模擬授業終了後の授業分析を経た後に改訂した学習指導案細案を清書し提出。

教科書

（1）小山一乗著『教育と寛容—宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点—』（宣協社）2,940円、（2）『中学校学習指導要領』、（3）『高等学校学習指導要領』、（4）『中学校学習指導要領解説 社会編』、（5）『高等学校学習指導要領解説 公民編』、（6）『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、（7）櫻井秀雄・大山興隆監修『仏教概論—わかりやすい仏教—』（曹洞宗宗務庁）平成7年

参考書等

『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』（大法輪閣）1,600円、適宜指示

その他

中学校教諭「宗教科」免許状取得希望者は、この「宗教科教育法Ⅰ・宗教科教育法」且つ「宗教科教育法Ⅱ」をも履修すること。なお、高等学校教諭「宗教科」免許状のみの取得希望者は、この「宗教科教育法Ⅰ・宗教科教育法」を履修すること。

講義のねらい

本講は講義と模擬授業とで構成する。本「宗教科教育法Ⅱ」は、これに先行して履修されている「宗教科教育法Ⅰ・宗教科教育法」を承けて、授業を進めることになる。端的にいえば、教育課程上の「宗教科」の、教育体系、目標、内容については、原則として履修してあることを前提とする。本講では、各受講生が、中学校宗教科での場合にも備えられるようにし、また、高等学校宗教科での場合にも備えられるようにする。教育実習をおこなう受講生や宗教科教師をめざす受講生に、模擬授業実践を課す。用意周到な年間学習指導計画立て、そこから絞り込んだ本時の学習指導（計画）案を作成してもらい、模擬授業展開に臨んでもらう。模擬授業はビデオカメラにて収録し、再生して、爾後の授業分析・自己分析の鏡利用に供するようにする。

留意するのは、個々の宗教・宗派の独自性について、客観的に知識理解できるようにすること、また同時に、客観的な知識理解が出来るように生徒たちに学習指導出来るようになることをめざす。同時に、当該宗教・宗派の内面から、主観的にもその内面の機微が表現出来るようになることを目指す。生徒たちに対しても、彼らが主観的な語り出来るように学習指導できる宗教科教師の力量形成を目指す。とくに宗教科教育において取り扱われる宗教と、宗教教育において取り扱われる宗教との差異についても考慮していくことを課す。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 〈education and religion〉、〈religion and education〉、〈信仰・確信・確認〉
学校における教育の意義、家庭における教育の意義、地域社会における教育の意義
生涯教育・生涯学習の意義
- 2) 国立・公立中学校教育の意義、国立・公立高等学校教育の意義
私立中学校の意義、私立高等学校の意義
- 3) 「宗教科」の成立、免許教科「宗教科」修得単位科目の条件（一般的・包括的）
「宗教一般知識教育」「宗教的情操教育」「宗派信仰教育」「宗教的寛容教育」「対宗教安全教育」
- 4) 「宗教科教育」の教授概念検討（事実的言明・規範的言明、行動的解釈・非－行動的解釈）
- 5) 「宗教の定義」考
「4つの宗教どこがちがう」考
- 6) 中学校学習指導要領の変遷
高等学校学習指導要領の変遷
- 7) 中学校の教育課程と宗教科、高等学校の教育課程と宗教科
- 8) 「宗教科教育」における宗教（的）教材の取り扱い
「宗教教育」における宗教（的）教材の取り扱い
- 9) 「社会科、地理歴史科、公民科」における宗教（的）教材の取り扱い
「国語等その他の教科、道徳、特別活動」における宗教（的）教材の取り扱い
- 10) 「史資料の選取選捨の判断基準」「史資料批判」「マルチ・メディア活用法」
中学校及び高等学校の宗教科教材開発と史資料批判、史資料活用の方法
- 11) 「教育観」「開発主義か注入主義か」「本覚か始覚か」「学習論か教育論か」「自力か他力か」等の教育観・宗教的教育観の基礎的・基本的な問題・課題と指導原理とその方法
- 12) 「教育観と学習指導案の様式」
- 13) 「授業の設計」「単元」「教材観」「生徒観」「指導観」「評価の観点」
- 14) 中学校及び高等学校の各宗教科の学習指導・授業計画作成、学習指導案素案作成
- 15) 中学校及び高等学校の各宗教科の本時の学習指導計画案の細案・略案作成
- 16) ～26) 模擬授業と授業分析討議（ビデオ収録再生・ビデオの鏡利用）

履修上の留意点

入学年度等に拠る履修の詳細は、所定の履修説明で十分に確認しておくこと。
教科体系構築上の題材は、例えば、社会科、地理歴史科、公民科、道徳、特別活動等の随所に題材があることに留意し、また、地域や学校の特色、生徒の興味・関心の特性、国際理解、情報、環境、福祉、健康にも留意すること。

成績評価の方法

- 1) レポート（夏期休暇後提出、学年末提出）。
- 2) 模擬授業実践（学習指導案細案作成を含む）。
- 3) 模擬授業終了後の授業分析を経た後に改訂した学習指導案細案を清書し提出。

教科書

（1）小山一乗著『教育と寛容－宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点一』（宣協社）2,940円消費税込み、（2）『中学校学習指導要領』、（3）『高等学校学習指導要領』、（4）『中学校学習指導要領解説 社会編』、（5）『高等学校学習指導要領解説 公民編』、（6）『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、（7）櫻井秀雄・大山興隆監修『仏教概論－わかりやすい仏教一』（曹洞宗宗務庁）平成7年

参考書等

『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』（大法輪閣）1,600円、適宜指示

その他

宗教科教材は随所に遍在（*決して偏在ではない）していることに気付くこと。私立の義務教育学校においては、教育課程編成上「宗教を加えることができる。この場合においては、宗教をもって前項の道徳に代えることができる。」（学校教育法施行規則24条；55条（中学校準用規定））と示すが、宗教に代えるというその場合、国公立の義務教育学校における道徳の教育内容との異同点をどう整理するか。私立でのその場合の宗教は、国公立の道徳の内容を余すところなく全て含んでいると思量するのが至当であろうか否かの議論に留意して欲しい。私立的道徳と国公立的道徳との異同点問題がある。ここに宗教科教育が照射していく教材論が浮上しよう。

科目名	担当者名
国語科教育法 I	くぼた 久保田 <small>かつら</small>
国語科教育法	久保田 貴

講義のねらい

中学校・高等学校の国語教育の成立・意義・目標・内容から、各領域・教材に応じて開発された指導法について概観したのち、実際の教材によって、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、基礎学力を確認しつつ、模擬授業の形式で体験的に具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

〈前期〉①国語教育の限界と可能性、危険性と必要性、過去と現況の確認。
 ②国語教育の方法、実践に関する先人の試みを知り、その意義を探る。
 〈後期〉③国語教育実践の準備
 以上のうち①②は、教科書・プリント・参考資料等を用いて講義形式で行う（前期）。③は、実際に教材研究をしたり、指導案を作成し提出するなどの課題形式の場合と、実際の教材による模擬授業（グループにより全員参加）の形式で行う（後期）。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

出席・模擬授業の積極的参加を重視する。

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加（出席）の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教科書

全国大学国語教育学会編新訂中学校・高等学校『国語科教育研究』（学芸図書株式会社）2,310円（税込み）

参考書等

その都度指示する。

科目名**担当者名**

国語科教育法Ⅱ

くぼた 久保田
みね 實

講義のねらい

「国語科教育法Ⅰ」の講義を受けて、国語教育の過去・現在を見つめ、教材研究・教材分析を中心に、できるだけ幅広く教材を選び、指導事項・指導方法・指導過程等の可能性について研究を深め、実践に際しての授業の構想力・指導力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

以下の三項目を中心に前・後期の授業を進める予定①中学校（高等学校）の国語科の過去・現状を確認し、現状に応じた授業を考察する。

②上記をふまえて、適宜必要な教材を設定し、具体的に授業のありようを考察する。③授業を具体的に構想する。教材によっては総合的学習（国語）という観点も視野に入れた授業を構想する（指導案並びにレポートの作成）。

以上のうち①は教科書・プリント等を用いて講義形式を中心に行う。②③については配布の資料（教材）をもとに必要な解説を行い、その後に各人の考え方の発表や話し合い、レポート等の提出をする。また上記のほか基礎学力の点検にも配慮する（随時小テストなどの形式で実施予定）。

履修上の留意点

授業に積極的に参加すること（なお、中学校・高等学校で使用した教科書・副読本を手元において必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい）。

成績評価の方法

出席状況、授業の参加態度、提出物、随時の小テスト等により総合的に評価する。

教科書

新訂中学校・高等学校『国語科教育研究』（「国語科教育法Ⅰ」で使用のものと同じ）

参考書等

その都度指示・紹介する。

科目名**担当者名**

書道科教育法

な す たか よし
那 須 隆 吉

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特質を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教科書

『大学書写書道教育』（第一法規出版）約2,000円

参考書等

随時紹介する。

科目名	担当者名
英語科教育法 I 英語科教育法	ま とう しん じ 佐 藤 真 二

講義のねらい	中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。英語科教育法 I では、高校の内容を中心とする。
講義の内容・授業スケジュール	主に取り上げる内容は以下のとおりである。 1. 英語科教育の目標 2. 主な教授法 3. 言語材料と指導 4. 言語活動 5. 授業の展開 6. 指導形態 7. 評価とテスト 8. 教具・視聴覚機器 9. 教育と学習者
履修上の留意点	自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。
成績評価の方法	前期末・後期末のレポートのほか、授業内の発表も評価に加える。
教科書	『新英語科教育の展開』（英潮社）
参考書等	教場において指示する。
その他	授業の方法は、教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を多く取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習をしてまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し教えることに馴染んで欲しいと願う。

科目名	担当者名
英語科教育法 II	ま とう しん じ 佐 藤 真 二

講義のねらい	中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。英語科教育法 II では、中学の内容を中心とする。
講義の内容・授業スケジュール	主に取り上げる内容は以下のとおりである。 1. 英語科教育の目標 2. 主な教授法 3. 言語材料と指導 4. 言語活動 5. 授業の展開 6. 指導形態 7. 評価とテスト 8. 教具・視聴覚機器 9. 教育と学習者
履修上の留意点	自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。
成績評価の方法	前期・後期末のレポートおよび、授業内の発表で評価する。
教科書	教場において指示する
参考書等	『新英語科教育の展開』（英潮社）
その他	教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習をしてまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し教えることに馴染んで欲しいと願う。

講義のねらい

地理と歴史の授業をつくるために、教師としてどのような力量(考え方・知識・技術など)を形成することが求められているのでしょうか。この講義では、毎回、具体的な実践例を使って、教師論・学習論・カリキュラム論・教材論・評価論・学力論などと関連づけながら展開する予定です。なお、この講義では「授業をつくる」を分析する方向で展開し、社会科教育法Ⅳではこの講義での学習をもとに、「授業をつくる」を総合化する方向で展開する予定です。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 高校生に「地理・歴史を教える」しごととはどのようなものか、高校生に教える地理と歴史はどのような科目か、それぞれ具体的な事例をあげながら、教師論や目標論・構成論とも関連づけて考えます。
- (2) 「授業をつくる」とはどのようなことか、まずコンセプトマップを使って授業のしくみ・構造を分析してみます。つぎに、教材研究を進めるために、地理と歴史の教科書を分析的に読むことを具体的な例や演習によって学習します。最後にそれらのまとめとして単元を構成したり学習指導案を作成したり、カリキュラムについて考えます。
- (3) 地理と歴史の授業で使う教材について、実際に教材プリントを作成しながら、学習内容論や方法論に関連づけて考えます。また、「歴史新聞」・「空想旅行記」などのロールプレイングゲームや「遊牧民ゲーム」などのシミュレーションゲームなどを取り入れた授業について、実際にゲームをしながら考えます。
- (4) 地理と歴史の単元テストについて、実際に確認テストを作成しながら、学習内容論や評価論に関連づけて考えます。それを発展させて、学校の地理と歴史の学力とは何かを考えます。また、生徒の評価だけでなく教師間で行なう教育評価や授業を改善する方法についても具体的な演習を通して考えます。
- (5) 地理と歴史は「総合的な学習の時間」にどのようにつきあえばよいのか。具体的な実践例を紹介しながら考えます。後期(社会科教育法Ⅳ)には、演習をする予定です。

成績評価の方法

学習指導案・教材プリント・単元テストなどを作成するレポートの到達度評価と出席状況などによる評価を総合して行います。試験は実施しません。詳細については、第1回の講義において説明します。

教科書

授業では毎回教材(プリント)を配布する予定ですが、①・②の図書を教科書、③・④の図書を参考図書とします。参考図書は、これ以外にも随時授業の中で紹介します。

- ① 社会認識教育学会編『改訂新版 地理歴史科教育』(学術図書出版) 1,751円
- ② 社会認識教育学会編『改訂新版 中学校社会科教育』(学術図書出版) 1,854円
- ③ 白井嘉一・柴田義松編『社会・地歴・公民科教育法』(学文社) 2,415円
- ④ 加藤西郷・吉岡真左樹編『社会・地歴・公民科教育論』(高学出版) 2,800円

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅲ(地理歴史) 地理歴史科教育法Ⅰ	さくら い あき ひさ 桜 井 明 久

講義のねらい

中学校社会科の地理的分野・歴史的分野と、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理教材の取り扱いを通じて概説し、実践を試みる。なお、この授業は後期に行われる桜井担当の社会科教育法Ⅳとセットで授業計画がなされているので、あわせて受講すること。

講義の内容・授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。

- ①地理教育の目標 ②マイクロティーチング ③教授方法上の工夫 ④指導案の作成

履修上の留意点

各自マイクロティーチングを試み、(個人またはグループで模擬授業を行うなど)実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。同時に、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されないので、とくに注意すること。それが避けられない場合は、事前(2週間以上前)に連絡し、相談すること。また、仲間の授業を観察し、反省に参加することが非常に重要であるので、出欠は厳しくチェックする。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチング・模擬授業の成果など60点 教科書読書レポート20点 期末試験20点

教科書

桜井明久『地理教育学入門』1999年(古今書院)全242頁

講義のねらい

社会科の授業をつくるために、教師としてどのような力量(考え方・知識・技術など)を形成することが求められているのでしょうか。この講義では、毎回、具体的な実践例を使って、教師論・学習論・カリキュラム論・教材論・評価論・学力論などと関連づけながら展開する予定です。

なお、この講義では、社会科教育法Ⅲの学習をもとに、「授業をつくる」を総合化する方向で展開する予定です。また、高校の地理、歴史だけでなく、高校にくらべ教科指導・学習指導がむずかしい中学社会科(地理・歴史)についても扱い、具体的な実践例を紹介したり、模擬授業を行ったり演習を重視して展開する予定です。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 高校生に地歴を教えることと中学生に社会科を教えることはどのようにちがうのか。後期は、高校生よりも教科指導・学習指導がむずかしい中学生にわかる授業をつくることを重視して展開します。まず、高校地歴と中学社会の学習指導要領を読みくらべたり、実際に行った教育実践の事例を紹介したり、演習を中心に進めます。
- (2) これまでの授業の総合化として模擬授業を行います。2004年度には8回行いましたが、毎回、課題を設定して実施しました。課題は、次のとおりです。
 - (a) 学習指導案を作成し、それにもとづいて授業を展開できるか。
 - (b) 教材プリントを作成し、それを使って授業を展開できるか。
 - (c) ゲーム教材・歴史新聞・新聞記事を使った授業を計画・実施できるか。
 - (d) 効果的な単元テストを作成し、学習評価ができるか。
- (3) 課題学習・野外実習など、教室での授業とは異なる学習形態での教科指導・学習指導や調べ学習・発表学習などの進め方や評価について、具体的な実践例を紹介し、「総合的な学習の時間」とも関連づけながら考えます。また、実際に野外学習を行う予定です。
- (4) 模擬授業では、互いに評価しあって、授業を改善する方法について考えます。これは教師間で行う教育評価だけでなく、教育実習での研究授業にも応用できるものです。

成績評価の方法

学習指導案・教材プリント・単元テストなどを作成するレポートによる到達度評価と出席状況などによる評価を総合して行います。試験は実施しません。なお、詳細は、第1回の講義において説明します。

教科書

授業では、毎回、教材(プリント)を配布する予定ですが、①・②の図書を教科書、③・④の図書を参考書とします。参考図書は、これ以外にも随時授業の中で紹介します。

- ① 社会認識教育学会編『改訂新版 地理歴史科教育』(学術図書出版) 1,751円
- ② 社会認識教育学会編『改訂新版 中学校社会科教育』(学術図書出版) 1,854円
- ③ 白井嘉一・柴田義松編『社会・地歴・公民科教育法』(学文社) 2,415円
- ④ 加藤西郷・吉岡真左樹編『社会・地歴・公民科教育論』(高学出版) 2,800円

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅳ(地理歴史) 地理歴史科教育法Ⅱ	さくら い あき ひさ 桜井明久

講義のねらい	中学校社会科の地理的分野・歴史的分野と、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理教材の取り扱いを通じて、模擬授業を行う。なお、この授業は前期開講の桜井担当の社会科教育法Ⅲとセットになるように授業計画を組んでいる。前期から引き続き連続して授業をとるよう工夫すること。
講義の内容・ 授業スケジュール	おおよその内容は、以下の通りである。 (4) 指導案の作成 (5) 模擬授業 (6) 授業の研究と方法 (7) 地理教師の仕事
履修上の留意点	個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。同時に、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されないで、とくに注意すること。それが避けられない場合は、事前(2週間以上前)に連絡し、相談すること。また、仲間の授業を観察し、反省に参加することが非常に重要であるので、出欠は厳しくチェックする。
成績評価の方法	出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチング・模擬授業の成果など60点 教科書読書レポート10点 指導案作成20点 期末試験10点
教科書	桜井明久『地理教育学入門』1999年(古今書院)全242頁

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅲ(地理歴史) 地理歴史科教育法Ⅰ	ふじ き まさ くに 藤木正国

講義のねらい	高等学校地歴科(特に日本史・世界史)の教師として、自ら授業を組み立て、実践できる能力を養う。学習指導案作成や模擬授業などを重点的に行い、直接的には次年度の教育実習に備える。
講義の内容・ 授業スケジュール	日本教育制度の変遷(1・2) 学習指導案の作成(3・4) 高等学校学習指導要領―地理歴史編―の解説(5・6) グループ別の模擬授業(7～13)
履修上の留意点	受講する以上は、教員を日ざし努力すること。安易な単位修得は考えない。出席状況と提出物は特に重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬよう。尚、授業計画上、後期の社会科教育法Ⅳおよび地理歴史科教育法Ⅱと連続して履修することが望ましい。
成績評価の方法	出席状況(重視)、提出物(課題レポート・模擬授業の感想)、考査などを総合して評価する。
教科書	『高等学校学習指導要領解説・地理歴史編』(文部省・実教出版)および高等学校『日本史B』もしくは『世界史B』の教科書を一冊用意すること。

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅳ(地理歴史) 地理歴史科教育法Ⅱ	藤 木 正 国 <small>ふじ き まさくに</small>

講義のねらい	高等学校地歴科（特に日本史・世界史）の教師として、自ら授業を組み立て、実践できる能力を養う。学習指導案作成や模擬授業などを重点的に行い、直接的には次年度の教育実習に備える。
講義の内容・授業スケジュール	戦後日本教育制度の変遷（1～3） 学習指導要領の変遷（4・5） グループ別の模擬授業（6～13）
履修上の留意点	受講する以上は、教員を日ざし努力すること。安易な単位修得は考えない。出席状況と提出物は特に重視する。常に努力と創意工夫を忘れぬよう。尚、授業計画上、前期の社会科教育法Ⅲおよび地理歴史科教育法Ⅰと連続して履修することが望ましい。
成績評価の方法	出席状況(重視)、提出物(課題レポート・模擬授業の感想)、考査などを総合して評価する。
教科書	『高等学校学習指導要領解説・地理歴史編』（文部省・実教出版）および高等学校『日本史B』もしくは『世界史B』の教科書（何処の出版社でもかまわない）を一冊用意すること。

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅴ 公民科教育法Ⅰ	橋 爪 敏 <small>はしづめ ますし</small>

講義のねらい	この授業は、高等学校公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献講読を主とした。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、公民科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。
履修上の留意点	教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。
成績評価の方法	最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。
教科書	使用するが、未定。
参考書等	適宜、授業中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名
社会科教育法Ⅵ 公民科教育法Ⅱ	はし 橋

講義のねらい	この授業は、高等学校公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献講読を主とした。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、社会科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。
履修上の留意点	教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。
成績評価の方法	最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。
教 科 書	使用するが、未定。
参 考 書 等	適宜、授業中に紹介する。

科目名

担当者名

社会科教育法Ⅴ(公民)

谷 敷 正 光

公民科教育法Ⅰ

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方まで自分が実際に公民科の授業を行うことを想定して教材を精選し、学習指導案を作成します。できれば、前後期の履修をのぞみます。

講義の内容・授業スケジュール

1. 教育の意義
2. 社会科の成立
3. 社会科の意義
4. 高等学校公民科教科構造の変遷
5. 新教育課程の構造的な特色
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 高等学校公民科の指導計画
8. 高等学校公民科の授業設計の意義
9. 高等学校公民科学習指導案の作成(実践)
10. 高等学校公民科と思考力を育む授業
11. 高等学校公民科の教育評価
(教員採用試験受験希望者には「特別演習」とサブゼミを開設しています。)

履修上の留意点

- (1) 教科書の代わりとしてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- (2) 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- (1) 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- (2) 定期試験、追試は行いません。小テストは授業中に実施します。

教科書

資料プリントを配布し、教科書とします。
高等学校の教科書『改訂版現代社会』(実教出版・現社003)

参考書等

- 講義に関係する参考文献は適宜紹介します。(1)～(6)の書物は図書館で読んで下さい。
- (1) 大田堯『教育とは何か』(岩波新書)、矢川徳光『教育とはなにか』(新日本新書)
 - (2) 槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
 - (3) 谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
 - (4) 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
 - (5) 福山憲市『資料提示の技術』(明治図書)
 - (6) 大森・谷敷『社会科教育研究』(梓出版)
 - (7) 高元厚憲『高校生と政治教育』(同成社)
 - (8) 文部省『高等学校学習指導要領』
 - (9) 文部省『高等学校学習指導要領解説公民編』(実教出版)
 - (10) 森秀夫『公民科教育法』(学芸図書)
 - (11) 熊谷一乗『公民科教育』(学文社)
 - (12) 社会認識教育学会『公民科教育』(学術図書出版)
 - (13) 井原政純『社会・地歴・公民科基礎論—教科指導の研究』(多賀出版)
 - (14) 授業技術研究会『指導細案の作成と実践』(学習研究社)

科 目 名**担 当 者 名**

社会科教育法Ⅵ(公民)

や しき ただ みつ
谷 敷 正 光

公民科教育法Ⅱ

講義のねらい

後期は、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術を習得し、各自がたてた授業設計・学習指導案をもとに公民科の模擬授業を実践する。授業実践を通じて公民科教師としての資質・力量形成を行います。

**講義の内容・
授業スケジュール**

1. 高等学校公民科の目標
2. 高等学校公民科の内容・取扱い
3. 高等学校公民科の教材開発と手作り教材の活用法
4. 高等学校公民科の板書計画と板書法
5. 高等学校公民科の発問の仕方と問答法
6. 高等学校公民科の学習形態と指導法
7. 4年生による模範授業（授業研究）
8. 公民科教師による授業1（授業ビデオ）
9. 公民科教師による授業2（授業参観・予定）
10. 模擬授業による公民科の授業実践
11. 高等学校公民科教師論
12. 公民科教師と教員採用試験
（教員採用試験の受験希望者には「特別演習」とサブゼミを開講しています。）

履修上の留意点

- (1) 教科書の代わりとしてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- (2) 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚室に変更することがあります。

成績評価の方法

- (1) 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- (2) 定期試験、追試は行いません。小テストは授業中に実施。

教 科 書

プリントを配布し、教科書とします。
高等学校の教科書『改訂版現代社会』（実教出版・現社003）

参 考 書 等

- 講義に関係する参考文献は適宜紹介します。(1)～(9)の書物は図書館で読んで下さい。
- (1) 日経新聞社編『教育を問う』（日経新聞社）
 - (2) 無着成恭『山びこ学校』（角川文庫）
 - (3) 菊地宏義他『社会科と私たち』（大月書店）
 - (4) 大森・谷敷『社会科教育研究』（粹出版）
 - (5) 槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
 - (6) 関根正明『教師のちょっとした口のきき方』（学陽書房）
 - (7) 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』（明治図書）
 - (8) 浜上薫『発問づくりの技術』（明治図書）
 - (9) 鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』（明治図書）
 - (10) 大西忠治『発問上達法』（民衆社）
 - (11) 文部省『高等学校学習指導要領』
 - (12) 文部省『高等学校学習指導要領解説公民編』（実教出版）
 - (13) 公民教育学会編『公民教育の理論と実践』（第一学習社）
 - (14) 『公民科教育法』（学術図書）

科目名

担当者名

社会科教育法Ⅴ(公民)

小川輝之

公民科教育法Ⅰ

講義のねらい

社会科、公民科教育歴史の変遷を通じて、公民科教育の意義・目的と課題について考察する。また、「高等学校学習指導要領解説・公民編」を活用して、公民科の目標と科目の編成、各科目の目標、内容とその取り扱い、指導計画の作成と指導上の配慮事項について考察するとともに、具体的に公民科の授業づくりについて検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 社会科・公民科教育の変遷（3回）
 - ①社会科の成立・意義
 - ②社会科の変遷と公民教育
 - ③社会科の再編成と公民科の創設
- 2 平成11年版「学習指導要領公民科」の研究（6回）
 - ①公民科の目標
 - ②公民科各科目の内容とその取扱い
 - ③公民科各科目の指導計画の作成と指導上の配慮事項
 - ④公民科各科目にわたる内容の取扱い
- 3 授業実践事例研究Ⅰ（5回）
 - ①学習指導案の作成
 - ②公民科各科目の授業づくり

履修上の留意点

公民科の指導に要請される広い視野と深い教養を養うために、各自の専門領域にとどまらず公民科各科目、地歴科についても関心を持ち積極的に教材研究に努めること。

成績評価の方法

定期試験、レポート、出席状況等で総合的に評価する。

教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・公民編』（実教出版）220円を購入すること。

その他

講義内容の2については教科書を中心に進め、また定期試験も教科書から出題するので必ず購入すること。

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅵ(公民) 公民科教育法Ⅱ	おがわ てる ゆき 小 川 輝 之

講義のねらい	先進的な授業実践に触れるとともに、公民科各科目の学習指導案に基づいた模擬授業を行い、公民科教育における実践的な指導力を養うことを目指している。
講義の内容・授業スケジュール	1 授業実践事例研究Ⅱ（先進的な授業実践事例研究（3回）） 2 模擬授業研究（11回）
履修上の留意点	公民科の授業における実践的な力量形成を図ることが目的なので、学生諸君の意欲的・積極的な授業参加、取り組みを期待する。
成績評価の方法	定期試験は行わず、レポート、学習指導案、模擬授業、出席状況等で総合的に評価する。
教科書	文部科学省『高等学校学習指導要領解説・公民編』（実教出版）220円 他に公民科各科目の18年度使用の教科書を購入すること。教科書については、年度当初に購入しておくことが望ましいが、別途受講時にも指示する。
参考書等	魚山・小泉・楯原・宮崎編『社会科・公民科教育マニュアル』（清水書院） 日本公民教育学会編『中学校・高等学校公民教育』（第一学習社） 大杉・柴原編『新教育課程の授業と評価公民』（学事出版）
その他	学習指導案の作成、教材化の観点等から、社会的な問題や課題等について関心を持ち、資料収集を心掛けること。

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅰ	いそ やま すすむ 磯 山 進

講義のねらい	戦後新たに設置された社会科が今日までどのような役割を果たしてきたか、学習指導要領の改訂を中心に考察するとともに、現行学習指導要領の改訂の経緯と要点ならびに社会科の目標及び内容について把握する。その上で、社会科の指導目標を具現化するための授業の在り方を考察する中で、模擬授業を通して、実践的指導力を養う。
講義の内容・授業スケジュール	1. 社会科教育の歴史の変遷（1回） 2. 現行学習指導要領の改訂の経緯と要点（1回） 3. 社会科の目標及び内容（3回） 4. 学習指導案の作成と評価の観点（1回） 5. グループ別の模擬授業と授業研究（8回）
履修上の留意点	各自の専門領域における知見を活用することはもとより、社会科の指導に必要とされる広い視野を養うために、社会科の各分野に関心を持ち、教材の研究、開発に努めること。
成績評価の方法	出席状況、レポート、定期考査等で総合的に評価する。
教科書	文部省『中学校学習指導要領 解説—社会編—』（大阪書籍）95円 他に中学校社会科各分野の教科書（『地理』『歴史』『公民』）を用意すること。なお教科書については授業の際に指示する。
参考書等	長谷川浩・工藤文三監修『中学校社会科授業のり・デザイン』（東洋館出版）2,500円+税
その他	1～6回は講義、7～14回は模擬授業と授業研究で行う。

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅱ	いそ やま すずし 磯 山 進

講義のねらい	社会科教育法Ⅰに続いて、実践的指導力を養うことを目標とする。実践的指導力とは、授業の目標を踏まえ、生徒一人一人が扱う題材に興味・関心を示し、主体的に思考力を働かせて事象を理解し、認識を改めたり深めたりして、正しい知識を習得するよう導くことであり、力量である。そして習得が期待される知識とは基礎・基本即ち学習指導要領に示されている目標と内容である。この点を踏まえて授業をすすめる。
講義の内容・授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科地理的分野の年間指導計画の作成と留意点及びその検討 (1回) 2. 社会科歴史的分野の年間指導計画の作成と留意点及びその検討 (1回) 3. 社会科公民的分野の年間指導計画の作成と留意点及びその検討 (1回) 4. 観点別評価を踏まえた指導案の作成とその検討 (1回) 5. 教材開発 (1回) 6. 模擬授業と授業研究 (9回)
履修上の留意点	実践的指導力を養うことが主な目標なので、教材の開発と研究、指導案の作成、模擬授業・授業研究に意欲的に取り組むことを期待する。
成績評価の方法	出席状況、レポート、定期考査等で総合的に評価する。
教科書	文部省『中学校学習指導要領 解説—社会編—』(大阪書籍) 95円 なお中学校社会科各分野の教科書を用意すること。
参考書等	長谷川浩・工藤文三監修『中学校社会科授業のリ・デザイン』(東洋館出版) 2,500円+税
その他	1～5回は講義中心、6～14回は模擬授業(授業研究)の形態で行う。

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅰ	お がわ てる ゆき 小 川 輝 之

講義のねらい	社会科教育の歴史的変遷、基本的性格について検討する。また、「中学校学習指導要領解説 社会科編」を活用して社会科の目標と内容、内容の取り扱いについて考察するとともに、具体的に社会科の授業づくりについて検討する。
講義の内容・授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会科教育の歴史的変遷 (1回) 2 社会科教育の基本的性格 (1回) 3 社会科教員の使命と役割 (1回) 4 社会科の目標 (1回) 5 社会科各分野の目標、内容、内容の取り扱い (5回) 6 指導計画の作成と内容の取り扱い (1回) 7 授業実践事例研究Ⅰ(学習指導案の作成及び社会科の授業づくり、4回)
履修上の留意点	社会科教員に要請される広い視野と深い教養を培うため、各目の専門領域にとどまらず中学校社会科の各分野についての関心を深め、教材研究に一層努めること。
成績評価の方法	定期試験、レポート、出席状況等で総合的に評価する。
教科書	文部省『中学校学習指導要領解説・社会編』(大阪図書) 95円
参考書等	全国社会科教育学会『社会科教育学研究』(明治図書)
その他	講義内容の4～6については教科書を中心に進め、また定期試験も教科書から出題するので必ず購入すること。

科目名

担当者名

社会科教育法Ⅱ

小川輝之

講義のねらい

指導計画の作成、学習指導の工夫、授業実践事例研究、模擬授業等、社会科教育における実践的な力量を形成することを目指している。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 授業実践事例研究Ⅱ（先進的な授業実践事例研究、3回）
- 2 模擬授業研究（11回）

履修上の留意点

実践的力量を形成することが主目的なので、学生諸君の主体的な授業参加、取り組みを期待するとともに相互に学び合う姿勢を持ちたいものである。

成績評価の方法

定期試験は行わず、レポート、学習指導案、模擬授業、出席状況等で総合的に評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説・社会編』（大阪図書）95円
他に、社会科各分野（地理・歴史・公民分野）の18年度改訂版の教科書を購入すること。教科書については、年度当初に購入しておくことが望ましいが、別途授業時にも指示する。

参考書等

魚山・小泉・植原・宮崎編『社会科・公民科教育マニュアル』（清水書院）
洪沢文隆編『社会科指導と評価の一体化の実際』（明治図書）

その他

初めは講義形式の授業であるが、殆どは受講者中心の授業づくり（模擬授業研究）となるので、積極的な授業参加を期待する。

科目名

担当者名

社会科教育法Ⅰ

二井正浩

講義のねらい

「社会科教育法Ⅰ・Ⅱ」は、中学校「社会科」の原理（社会科とは何のために、何を、どのように教える教科なのか？）と方法（一定の内容を教えるために、どのような授業を設計し、実践し、評価すればよいのか？）について学ぶ科目である。

具体的には、「社会科教育法Ⅰ」では、中学校社会科の学習指導要領、代表的な社会科論や授業実践などについて考察し、社会科教育の現状と課題を明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

「社会科教育法Ⅰ」では、主に「社会科」の原理について扱う。

履修上の留意点

テキストは必ず購入すること。また、授業への出席とは、単にその教室にいることではなく、参加することであるということを、忘れないように。

成績評価の方法

レポート、授業への出席などで総合的に評価する。

教科書

星村平和監修 原田智仁編『社会科教育へのアプローチ—社会科教育法—』（現代教育社）2,477円＋税

参考書等

森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』（明治図書）2,620円＋税
森分孝治、片上宗二編『社会科 重要用語300の基礎知識』（明治図書）2,660円＋税

その他

基本的には講義形式でおこなう。

科目名	担当者名
社会科教育法Ⅱ	に い まさ ひろ 二 井 正 浩

講義のねらい	「社会科教育法Ⅰ・Ⅱ」は、中学校「社会科」の原理（社会科とは何のために、何を、どのように教える教科なのか？）と方法（一定の内容を教えるために、どのような授業を設計し、実践し、評価すればよいのか？）について学ぶ科目である。 具体的には、「社会科教育法Ⅱ」では、教材研究、授業設計および評価の実践的能力を身に付けることを目標としている。
講義の内容・授業スケジュール	「社会科教育法Ⅱ」では、主に「社会科」の授業づくりについて扱う。
履修上の留意点	テキストは必ず購入すること。また、授業への出席とは、単にその教室にいることではなく、参加することであるということを、忘れないように。
成績評価の方法	レポート、学習指導案、授業への出席などで総合的に評価する。
教科書	星村平和監修 原田智仁編『社会科教育へのアプローチ社会科教育法Ⅰ』（現代教育社）2,477円＋税
参考書等	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』（明治図書）2,620円＋税 森分孝治、片上宗二編『社会科 重要用語300の基礎知識』（明治図書）2,600円＋税
その他	基本的には講義形式でおこなう。

科目名	担当者名
福祉科教育法	まき ほら ひろ ゆき 桐 原 宏 行

講義のねらい	この講義では、人権教育を含む福祉科教育の意義・目的、教科「福祉」の各科目の内容構成、授業計画、教材研究、授業の基本的指導技術への理解を深め、高校福祉科教師としての資質の向上を目指す。
講義の内容・授業スケジュール	<p><前期内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育と福祉科教育の目標（第1回～第2回） ・教科「福祉」の成立過程（第3回） ・教科「福祉」の教育目標（第4回） ・教育課程（第5回～第6回） ・教育評価の目的と方法（第7回～第8回） ・学習指導計画（第9回～第10回） ・各科目の教育法（社会福祉基礎、社会福祉制度、社会福祉援助技術）（第11回～第14回） <p><後期内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の教育法（基礎介護、社会福祉実習、社会福祉演習、福祉情報処理）（第1回～第4回） ・模擬授業（第5回～第14回）
履修上の留意点	この授業は、教科「福祉」の教員免許取得予定の学生は必ず履修しなければならない科目であるが、社会福祉を専攻する学生で福祉教育に関して学びたいと考える学生にとっても意義があると思われるため、教員免許取得予定者以外の学生の受け入れも可能である。
成績評価の方法	出席状況、課題への取り組み状況、討議、模擬授業を総合的に評価する。
教科書	『福祉科教育法』（三和書籍）2,400円

講義のねらい

高等学校商業科の教師を目指す学生が、商業教育に関する基礎的知識を学習すると共に、商業科の教師として備えおくべき指導方法・指導技術を習得する。
「教育とは」「商業教育とは」から「社会における商業の役割」、「商業教育の役割」まで学習し、商業教育の専門家の養成と資質の向上を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 商業教育の意義
2. 商業の活動と商業教育
3. 商業教育の草創
4. 商業教育の変遷（昭和20年まで）
5. 商業教育の変遷（昭和20年以降）
6. 現行学習指導要領の理解（総則）
7. 現行学習指導要領の理解（商業）
8. 中央教育審議会答申「生きる力」とは
9. 平成15年度からの教育課程
10. 平成15年度からの商業教育
11. 商業各科目の指導目標と指導内容
12. 商業各科目の指導法・指導技術と評価
13. 年間指導計画と年間授業計画
14. 学習指導案の作成
15. 教科書研究－1（必修科目、総合科目）
16. 教科書研究－2（簿記・会計科目、情報科目）
17. 新しい学力観と評価
18. 模擬授業案の作成
19. 模擬授業と評価
20. 商業教育の成果と課題
21. 商業教育の展望
22. 商業科の教育実習
23. 教員採用試験に向けて

履修上の留意点

本講座は、商業科教師を目指す者が学ぶものである。単に単位を修得すれば良いものでなく、積極的に学習し、多くを吸収しようとする熱意が必要である。
本講座では、パソコンを使用するので、履修する前にワード、パワーポイントは操作できるようにしておくこと。

成績評価の方法

授業への参加意欲、態度、課題提出、模擬授業、授業内テストなどによって評価。
定期試験、追試験はおこなわない。

教科書

黒葛原正展、他 共著、「新商業科教育法テキスト」（実教出版）

参考書等

新簿記（実教出版）
ビジネス基礎（暁出版）
その他、必要に応じて紹介する。

科目名**担当者名**

職業科教育法 I

やしきただみつ
谷 敷 正 光

職業科教育法

講義のねらい

戦後の新教育は職業に関する教育を重視し、「学校教育法」では「社会に必要な職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度および個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」(第36条)を明示し、中学校に「社会科」とともに「職業科」が必修教科として新設された。「職業科」には農業、工業、商業、水産、家庭の各科目が設けられ、これらの科目を通じて職業の基礎的知識・技能の修得と態度を身に付け、自己の適性発見の機会を与え、生徒に職業選択の能力を身に付けることをねらいとして実施された。しかし、新設された「職業科」は昭和24年「職業・家庭科」となり、昭和33年には「学校教育法施行規則」一部改正により、「技術・家庭科」が新設されたため「職業・家庭科」は「職業に関する教科」となり、必修から選択教科となった。昭和52年度版学習指導要領では「その他特に必要な教科」と称されている。

そこで、職業科教育法 I は変遷をたどった職業科の教科構造とその内容・特色や職業科の学習指導原理、学習指導の方法等を講義する。

講義の内容・授業スケジュール

1. 職業科の意義
2. 戦前の中学校職業教育
3. 職業科の成立
4. 昭和22年度版中学校学習指導要領—職業科の教科構造とその内容・特色
5. 昭和26年度版中学校学習指導要領—職業・家庭科の目標・性格・教科構造
6. 昭和26年度版中学校学習指導要領職業・家庭科編—教育内容の編成、教育計画
7. 昭和32年度版中学校学習指導要領職業・家庭科編—職業・家庭科の教育内容・組織
8. 昭和33年度版中学校学習指導要領—職業科の目標・内容・指導上の留意点
9. 昭和44年度版中学校学習指導要領—職業科の目標・内容・指導上の留意点
10. 昭和45年度版中学校指導書 農業、工業、商業、家庭編—職業・家庭科の教育内容
11. 昭和52年度版中学校学習指導要領—職業・家庭科改訂の要点
12. 職業・家庭科の現状と課題
13. 職業・家庭科学習指導の原理
13. 職業・家庭科学習指導の方法
14. 職業・家庭科の評価

履修上の留意点

毎時間資料プリントを配布するので必ずその時間に受け取ること。

成績評価の方法

出席と時々行う小課題の提出などで総合評価する。

教科書

毎時間資料プリントを配布し、教科書とする。

参考書等

昭和22年度版、昭和26年度版、昭和33年度版、昭和44年度版、昭和52年度版『中学校学習指導要領』(文部省)

産業教育研究連盟『職業科指導事典』(国土社)

『職業・家庭科指導細案』(牧書店) 図書館375. 6 - Sy957

安藤克雄著『職業科図説』(岩崎書店) 図書館357. 6 - A515s 3

(最近の文献は少ないので、必要な時は図書館を利用して下さい。)

講義のねらい

職業科教育法Ⅰをもとに、教育方法・教育技術の向上を目指して、学習指導の実戦力がつくようにパソコンを教具とした教材作り、模擬授業を中心にした授業を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 教材・教具と指導方法・技術
2. 新しい学力観と評価
3. 板書計画と板書法
4. 年間指導計画と授業計画
5. 学習指導案の作成と評価
6. ワードによる学習指導案の作成
7. 自作教材による模擬授業案の作成
8. パワーポイント活用による模擬授業案の作成
9. 模擬授業の評価と授業研究（１）
10. 模擬授業の評価と授業研究（２）

履修上の留意点

本講座では、パソコンを使用するので、ワード、パワーポイントの操作が出来るようにしておく。

成績評価の方法

授業への参加意欲、態度、課題提出、模擬授業、授業内テストなどによって評価。定期試験、追試験はおこなわない。

教科書

授業時に資料を配布する。

参考書等

必要に応じて紹介する。

科目名**担当者名**

国語科教育法

小林 治

講義のねらい

本講座の受講生は、その大半が一年後には教育実習生として、教室で生徒を前に授業という形で国語の教科指導を行なうことになる。あるいは、将来、教師として教壇に立つこともあるだろう。そのような時に、国語という科目をどのように教えることができるか、その方法と実際を学ぶための講座である。

国語という科目は大きく分けて、理解と表現という二領域があると考えられる。理解とは、論説文、文学作品などの読解、鑑賞であり、表現とは、文章表現（書く）、口頭表現（話す・聞く）に関わることである。そして、この二領域を横断する要素として、考えること（思考）がある。これらの領域、要素にまたがって、様々な教材を使って生徒の総合的な国語力修得をはかることが、教科指導の目的である。しかし、教育現場において生徒一人一人は、その能力、適性、学習の進度に大きな差があり、一律には指導できない。その多様さに応じた学習指導上の工夫も必須であると言えよう。よって、本講座では従来の一斉授業の枠の中でその長所を把握し、そこにおける効率的学習のあり方を考えることを経て、個人差に応じた学習指導の工夫を試みる授業形態を考えていくことになろう。

**講義の内容・
授業スケジュール**

1. 2002年実施の新学習指導要領について。
2. 国語科教育の基本的な知識と方法。
3. 中学校教科書を用いた授業展開例の紹介と、その問題点の把握。
4. 実際に教育現場で行なわれている新しい指導法の紹介。
5. 指導案の作成。
6. 中学校教科書を用いての受講者一人一人の模擬授業。

履修上の留意点

受講生が教育現場で教壇に立った時に遭遇する様々な困難を想定し、それに対処できるような実践力の養成を行ないたいので、漠然とした教師への憧れや、安易な資格取得目的による受講がないよう希望する。

成績評価の方法

定期試験の結果、レポートの内容（教科指導案を含む）、模擬授業の内容等を総合し、さらに出欠状況を加味して評価する。

教科書

『実践的国語科教育法』（新典社）2,000円 中学校教科書『現代の国語1』（三省堂）690円（5月以降に購入可能）

参考書等

その都度指示する。なお、適宜、プリントを配布する。

その他

ビデオ等を使って各校の授業展開例を紹介する予定。

科目名	担当者名
英語科教育法	アッシュウェル, T.

講義のねらい

This course looks at English language teaching methodology and is compulsory for those students intending to become junior high school English teachers. Through examining your own experiences as learners it is hoped that you will be able to develop an ability to produce interesting lesson plans and will also develop some confidence in implementing these plans.

講義の内容・授業スケジュール

From the outset this course aims to be practical by asking you to produce lesson plans based on junior high school textbooks and to try out excerpts from these plans in front of your colleagues. Discussion of the effectiveness of the procedures you use will be encouraged and peer feedback provided.

履修上の留意点

As this course forms part of your training to become junior high school teachers, your conduct as responsible young adults is as much under review as your ability to engage in the subject matter.

成績評価の方法

Class participation; the thoroughness with which you produce lesson plans and prepare for 'mini-teaching' sessions; evidence of developing competences and skills; and completion of a final assignment will all be assessed.

教科書

None.

科目名	担当者名
教育実習Ⅰ	とよ た ちよこ 豊 田 千代子
教育実習Ⅱ	

講義のねらい

中学・高校での教育実習を充実させるための準備を行なうことと、実習をとおしてみえてきた教育のさまざまな課題について、ともに考えることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 事前指導
- ・実習の心がまえ
 - ・生徒指導について
 - ・教科指導について
 - ・指導案作成
 - ・模擬授業
- 訪問指導
- ・研究授業訪問指導
- 事後指導
- ・授業実習の検討
 - ・教育をめぐる諸問題についての検討

成績評価の方法

実習ノート、実習校からの評価、授業での実習報告、レポート。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜指示する。

科目名	担当者名
教育実習Ⅰ	さか もと のぶ あき
教育実習Ⅱ	坂 本 信 昭

講義のねらい	教育実習での失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくするというよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導（教育）も大事にしたいと考えている。
講義の内容・授業スケジュール	教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）等に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。（前期） 教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。（前期・後期） 教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成（提出）、教育問題にかかわるビデオの視聴、ディスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か—どうあるべきか—について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像等についても一緒に考えたいと思う。（後期）
履修上の留意点	授業の出欠は厳密にとる。
成績評価の方法	(1) 実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、(2) 教育実習報告（口頭報告）及び報告レポート、(3) ビデオ視聴のコメント（感想）、(4) 年度末試験（または、課題レポート）によって、総合的に評価します。
教科書	栗原敦雄他編『教育実習ガイド』（宣協社）1,500円
参考書等	寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』（学文社）1,000円

科目名	担当者名
教育実習Ⅰ	はぎ わら けんじろう
教育実習Ⅱ	萩 原 建次郎

講義のねらい	教育実習をはさんで、教育実践体験を受講者同士で深め合い、教育を深くつかんでいく感性と知性を磨いていきたい。
講義の内容・授業スケジュール	実習前には実習に関するビデオを見たり、模擬授業をおこないながら、指導案作成の方法を学び、実習することの意義や心がまえなどを考えたい。実習後は各自体験レポートを持ち寄り、実習のふりかえりと分かち合いをおこなう。そこから共通して考えるべきテーマ、話題があれば適宜とり上げて受講者同士と共に考えていきたいと思っている。
履修上の留意点	教育実習を中心とした体験学習、参加型の学習なので、受講者の主体的な参加が求められる。
成績評価の方法	実習校からの評価、口頭発表レポート、出席等により総合的に評価する。
教科書	教科書・参考書等はそのつど指示する。
参考書等	教科書・参考書等はそのつど指示する。

科目名	担当者名
教育実習Ⅰ	きたむらみつこ 北村三子
教育実習Ⅱ	

講義のねらい

中学・高校での教育実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。実習生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、実習のための準備と、実習体験を他の人々と共有し深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、以下に述べるような様々なことを試みたい。また実習後は、教える立場から新たに見えてきた学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を考え合いたい。

講義の内容・授業スケジュール

実習の準備としては、全般的な注意、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は話し合いの上で決めたい。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテストによる。

科目名	担当者名
教育実習Ⅰ	いとうしげき 伊藤茂樹
教育実習Ⅱ	

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験を報告により共有したうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

第一回の授業で概要を説明する。第一回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

科目名**担当者名**

教育実習Ⅰ

えん どう
遠 藤

教育実習Ⅱ

つか
司

講義のねらい

教職課程での学びの総仕上げとして、中学・高校での教育実習を意義深いものとするための学びをすることが、この授業の目的である。実習前には、実習に向けての準備を万全なものとするために、実習することの意義を理解し、具体的な準備をするための学びを行う。実習後には、実習の体験をより深めるために、自らが学校教育の現場で体験したことを基に、現代日本の教育について様々な問いを共有し、参加者とともに考えを深め合うための学びを行う。以上のことを通して、教育実習を、自らの人生の中での意義深い体験とすることが、この授業を通して目指されることとなる。

講義の内容・
授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義、目的、内容に関しての講義、学習指導案の作成、模擬授業ならびにその検討会等を行う予定である。実習後は、自らの実習体験を語り合い、様々な問題やテーマを共有した上で、その中からいくつかのテーマについて取りあげ、討論等を行う予定である。

履修上の留意点

第一回の授業で概要を説明する。第一回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。

教育実習という実際の活動を中心とした授業であるため、主体的、積極的に参加すること。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノートなどの実習の記録、授業への参加度、学期末のレポート等を総合して評価する。

(2) 教科又は教職に関する科目〔平成12年度以降入学生〕
 教職に関する科目（選択）〔平成11年度以前入学生〕

科 目 名	担 当 者 名
教育関係法規	むらもと ひろゆき 村 元 宏 行

講義のねらい

教育関係法規を研究対象とする学問領域として、「教育法」という領域があります。教育法は、憲法26条に規定された「教育人権」を保障するための法体系のあり方について考究することを目的とする現代法学の一領域です。

この講義は基本的には教育法の概論としての枠組みをとりながら、将来教職を目指す皆さんのための資格課程としての位置づけを意識したものにしていく予定です。

講義の内容・
授業スケジュール

(前期)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 教育法規の基本原則
- 第3回 憲法・教育基本法制の成立
- 第4回 憲法・教育基本法制の成立
- 第5回 憲法・教育基本法制の成立
- 第6回 憲法・教育基本法制の理念
- 第7回 戦後教育政策の展開
- 第8回 戦後教育政策の展開
- 第9回 教育権
- 第10回 教育権
- 第11回 教育権
- 第12回 教育権
- 第13回 教育権
- 第14回 教育権
- 第15回 まとめ

(後期)

- 第1回 子どもの人権保障
- 第2回 子どもの権利条約
- 第3回 国内における子どもの権利保障
- 第4回 校則
- 第5回 体罰
- 第6回 いじめ
- 第7回 その他学校事故
- 第8回 国旗・国歌法と教育現場
- 第9回 最近の教育政策
- 第10回 教育行政の現代的課題
- 第11回 学校改革
- 第12回 学校改革
- 第13回 教育における個の尊重
- 第14回 生涯学習
- 第15回 まとめ

履修上の留意点

必ずしも「試験対策としての教育関連法規」ということにはこだわらずに講義を進める予定です。そのつもりで履修するようにしてください。

成績評価の方法

学年末の論述式試験によって評価します。また、夏期休業中に任意提出のレポートを受け付け、提出者はそれを評価に加えます。

参 考 書 等

『解説教育六法 2006年版』（三省堂）
 詳しくは初回に指示します。

科目名	担当者名
教育評価	大 浜 幾 久 子 <small>おおはまきくこ</small>

講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究方法（実験・観察・調査・テスト）の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。

成績評価の方法

出席状況及び実習リポートを中心とする。

参 考 書 等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

科目名	担当者名
教育哲学	北 村 三 子 <small>きたむらみつこ</small>

講義のねらい

教育について自分なりの考えが持てるようになるために必要な、基礎的な力を養います。加えて、人間理解を深めることによって、今まで以上に豊かな対他関係を生み出していけるようになることを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

『原初生命体としての人間』（野口三千三著、岩波現代文庫）などを手がかりに、身体的な感受性と言葉の問題について考えあいます。具体的なスケジュールは、参加者と相談の上決定します。

履修上の留意点

ゼミ形式で行います。毎回テキストを読んでくることが必要となります。

成績評価の方法

出席状況、発表、とレポートによります。

教 科 書

野口 三千三 『原初生命体としての人間』（岩波現代新書）1,000円

講義のねらい

近年一般大学生のコンピュータリテラシー（基礎知識・技能）は着実にレベルアップしてきている。このような社会情勢を受けて、また他の開講科目（とくに「教育とメディア」）との関連性を考慮して、この授業のねらいを次の三つとする。

1. 初歩的なレベルを超えて、一歩進んだ情報技術・知識を身に付ける。（この延長線上には、情報処理関連の資格検定・試験への挑戦ということも視野に入れる）
2. 教育分野でのコンピュータ利用方法・形態の変化について教育学の視点から理論的に分析・考察するとともに、コンピュータの教育的活用とは何かをより具体的に探る。
3. 普遍性のあるソフトウェアの操作実習を通して、実社会で必要とされる実際のなコンピュータ（パソコン）活用能力とセンスを育成する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせる授業を進める。

前期の授業内容としては、以下のものを予定している。

情報科学の基礎知識（講義）、エンドユーザコンピューティングの基礎知識・技能（講義・実習）、表計算ソフトの基本操作（実習）、教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理（講義）、コンピュータの教育的活用とは？（講義）、教育用ソフトウェアの選択・活用方法について（講義と実習）。

後期の授業内容としては、以下のものを予定している。

表計算ソフトのより高度な利用1－関数の組み合わせ－（実習）、表計算ソフトのより高度な利用2－マクロとVBAプログラミング－（実習）、リレーショナルデータベースの概念（講義）。

履修上の留意点

パソコン初心者も履修可能であるが、なるべく欠席しないことと自助努力を心がけてほしい。

成績評価の方法

平常点（出席、学習態度）、小テスト（ペーパーテスト）、提出物（レポート、課題など）の総合点によって、成績評価を行なう。

教科書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

科目名**担当者名**

教育臨床心理学

小田切 紀子
おだぎり のりこ**講義のねらい**

心理臨床の現場は、教育、福祉、医療、司法、産業など多方面にわたっているが、講義では学校現場における心理臨床を取り上げる。スクールカウンセラーの活動や学校が抱える問題である不登校、いじめ、非行、被虐待、広汎性発達障害児への対応について事例を交えながら学んでいく。また、地域の他機関（教育相談室、児童相談所、医療機関など）との連携についても触れる。

講義の内容・授業スケジュール

前期

- 1 学校を理解する—学校の法的位置づけ
- 2 学校組織とスクールカウンセラーの位置づけ
- 3 学校現場において発生している問題とそれへの対応（1）
不登校、いじめ、非行、被虐待の子どもの理解と対応

後期

- 4 学校現場において発生している問題とそれへの対応（2）
広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害の問題を抱える子どもの理解と対応
- 5 学校内での連携—管理職や養護教諭など学校内のさまざまな職種との連携
- 6 他機関との連携—地域の教育相談室、児童相談所、医療機関との連携

履修上の留意点

学校現場の問題を扱っていくので、教育現場の仕事（スクールカウンセラー、教員など）に関心がある学生の履修を希望する。

成績評価の方法

試験（前期・後期）60%、平常点（出席）40%によって評価を行う。

教科書

適宜、資料を配布する。

参考書等

村山正治・鶴飼美昭編『実践！スクールカウンセリング』（金剛出版）2002年
平松清志編著『現場に生きるスクールカウンセリング』（金剛出版）2003年

その他

履修者の人数によるが、多人数の場合は講義形式とする。少人数（20人前後）であれば講義のちにグループディスカッションも行いたい。

科目名**担当者名**

教育社会学

伊藤 茂樹
いとう しげき**講義のねらい**

教育社会学は、教育を社会現象ととらえ、社会学の手法を用いてアプローチする学問であり、教育や学校、子ども、青少年などに関するあらゆる現象が対象となる。分析のレベルも国の教育政策といったマクロレベルから、教室内での人間関係や相互作用といったミクロレベルまで多岐にわたる。そして、私たちがともすれば自明視しがちな「常識」を相対化して批判的なまなざしを向けたうえで、実態の客観的な分析をふまえて実践や政策に寄与する知見を得る学問である。この学問についての基礎知識を持ち、それを用いて現代社会の教育について考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマとして、教育社会学の対象と方法、学校の歴史と機能、社会化とその変容、情報化社会と青少年、教育制度、カリキュラムと知識、学校の組織と文化、階層と教育、教育問題と教育改革、などを予定している。

履修上の留意点

授業への積極的な参加を求める。

成績評価の方法

課題とレポートにより評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

科目名	担当者名
教育史	山本 敏子 <small>やまもととしこ</small>

講義のねらい

今日の私たちに自明な「教育」というものは、西欧近代の産物です。日本列島において、〈教育〉なるものの観念や関係、制度は、かつての人間形成のしくみの何を解体しつつ、いつどのように創出されてきたものなのか。そこには、いかなる矛盾や困難が内在していたのか。こうした問題を長期のタイム・スパンの中で考察し、近現代日本の教育および教育学を相対化する視座や方法を培っていくことをねらいといたします。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) 日本列島の教育史通史の試み (昭和初期まで)
 (1) 教育史への招待 (2) 教育基礎論としての教育史の可能性
 (3~5) 原始・古代~中世前期 (6~12) 中世後期~近代
 (13) まとめと後期の授業への橋渡し演習テーマ: 「戦後教育再考」

教育の荒廃や子ども・若者問題に直面した戦後教育において、問われるべき本質的問題とは何だったのか。どのような変革の方向を目指していったらよいのか。戦前から戦後への教育の連続・不連続および1960-80年代の人類史上の大変動、子ども・若者の生活世界の変容等を視野に収めながら、教育基本法改正問題に焦点化して検討していきます。

履修上の留意点

受講される皆さんの主体的な参加を期待いたします。

成績評価の方法

出席状況や授業時間内の発表、学期末レポート等の総合評価。

教科書

前期は、史・資料を配布します。後期については、開講時に文献リストと授業案を提示、前期最終回までに相談して決める予定です。

その他

前期は講義を主とし、後期は演習形式で進めます。

科目名	担当者名
教育調査	鈴木 規夫 <small>すずきのりお</small>

講義のねらい

人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。

講義の内容・授業スケジュール

具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するために不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。

履修上の留意点

調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。

教科書

講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。

参考書等

特に指定しない。

その他

授業は討論中心の形態をとる。

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶことを目的とする。現代は不応状態や問題が長引く傾向にあり、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型へ、さらに言語で訴えるよりも身体の症状として現す等、様々な変化が見られるように思う。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係を持ち、どのような人と出会えるかが決定的に重要な意味をもつと思われる。この講義ではこのような問題意識を基に、この時期の青少年に起こり得る諸問題を、発達や事例に則して生き生きと学んでみたいと思う。

講義の内容・
授業スケジュール

- (前期) I. 青少年に生じ得る「問題」をどう抱えるのか——その二面性について
 II. 青少年にいかに出会っていけるのか——臨床心理学に基づくカウンセリングを中心として
 III. 事例を通して、不登校、友人関係（いじめ）、非行などのテーマ毎に学ぶ
 IV. 人間の誕生から青春期に至るまでの心の発達の諸相
 (後期) IV. 人間の誕生から青春期に至るまでの心の発達の諸相
 V. いくつかの症状（対人恐怖、無気力、身体症状等）について
 VI. 心の健康に関する諸知識

履修上の留意点

授業は講義中心となるだろうが、その日の内容への質問や感想を毎回書いて提出してもらい、受講生同士のフィード・バックも考えていきたい。出席状況（授業態度を含む）も重視する。

成績評価の方法

出席状況、定期試験、受講態度

教 科 書

必要な資料は適宜配布する。

参 考 書 等

岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』（岩波書店）
 河合隼雄著『カウンセリングを語る（上下）』（創元社）
 河合隼雄著『大人になることのむずかしさ』（岩波書店）
 河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』（檢出版）
 河合隼雄著『子どもの宇宙』（岩波新書386）
 小川捷之・村山正治編『学校の心理臨床』心理臨床の実際2（金子書店）
 季刊『仏教——特集癒し』No. 31（法蔵館）

講義のねらい

本授業科目名称である用語「宗教教育」は一義的ではなく、複雑であり、いわゆる対日米国占領政策の一環であるいわゆる「神道指令」に象徴される日本人の精神改造計画実施上、戦後教育改革の中心的論点・課題であって来た。本講義のねらいは、その用語「宗教教育」には、多義的で、実に複雑にして様々な教授概念の類型があることを知り、巷間のとかくの常識的捕捉を再検討し、また、現時局下の教育基本法改正論議上に浮上するいわゆる「宗教教育」論議中に伏在する、その、法的思考 (legal mind) ・教育的思考 (educational mind) ・宗教的思考 (religious mind) の紆余曲折の歴史的経緯を知る。そして、これまでの「宗教教育」の問題点を知り、これからの世界的脈絡中での「宗教教育」の不可避的且つ不可欠な課題点を明らかにし、手垢のついた既存概念にとらわれずに、カリキュラムをデザインすることが出来るようになるその内容知と方法知とを身につけることを目的とする。横断的・総合的捕捉を試みる。宗教に由来する日常生活用語が教育の場面に数多伏在している事象への気づきを端緒として講義を開始する予定。

本講義は、決して、或る特定の宗教・宗派を価値ありとして判定して促進したり、または、価値なしと判定してそれを抑制したりするというそのような内容・方法を専らに考えるというような、とかくありがちないわゆる宗派信仰への導入をのみ考えるといういわゆる狭義の宗教教育を構想する講義ではない。決して狭義的ではなく、先ずは、寛容の態度を育てることを構想するものであり、その意味で広義的である。様々な宗教や宗派、宗教現象を事例として取り上げる。

具体的には、多くの音声教材、映像題材、文字教材、マルチメディア等を用いて、適宜、様々な、童謡、民謡、歌謡曲、唱歌、数え歌、演歌、浪曲、説話、写真、古典音楽、詩、書など様々なジャンルの現象にふれ、日常の実際生活の深層・表層において、宗教的事柄が、隠れたカリキュラム又は顕れたカリキュラムとして、人間形成にいかに関与しているかの諸相を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- (1～2) 用語「宗教教育」の教授概念類型 (5つの類型)
- (3～4) 宗教的情操教育の成立をめぐる対立的2見解
- (5～6) 「教育」、そして「教育」の「目的」「目標」「内容」「方法」
(法的思考・教育的思考；目的-目標、判断力-批判力、選択-決定等)
- (7～9) 「教育観の分類」、「教育の目的の考察先行事例」、「開発主義」と「注入主義」
知識理解度事項・態度的事項・技能的事項
- (10～11) 「宗教の様々な分類」、文献「宗教の定義集」、あなたの定義を考える端緒
- (12～13) 日本国憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学習指導要領の相互補完関係
教育基本法第9条立法制定審議の推移の検証から看取される問題と今後の課題
対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実
宗教教育と宗教科教育 (教育職員免許法に規定) との差異検討
(←だれでもの国語教育と、誰でもではない国語科教育との比較からの援用論)
- (14～16) 命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』) を問題意識の根柢におく
世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法
各国の宗教教育
- (17～18) これからの宗教教育の教授概念検討 (不均衡是正)
政策・法律論議「何を教えることができないのか」の禁止事項
教授概念論議「何を教えることができるのか」の肯定的事項
意図的用法・成功的用法、行動的解釈・非-行動的解釈、事実的言明文・規範的言明文
- (19～25) 宗教教育の指導計画：題材 (subject-matter) としての事例・用語等
宗、教、育、education、prenatal education、pedagogy、andragogy、gerogogy、誓願、アニミズム、アニメーション、更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態 (の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雑祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、教師、学者、学生、日常用語になった仏教語 (挨拶・会釈・我慢・玄関・工夫・覚悟・油断・娑婆等)、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケアー、入学式、卒業式、入社式、成人式、結婚式、等
- (26) まとめ

履修上の留意点

宗教教育という用語への偏見・先入観をいったんは払拭して欲しい。教科書を使用して授業を進める。必要に応じ、映像教材・音声教材・文字教材等を複合的に視聴するので、PC設備のマルチメディア教場 (事前に授業中に指示) や視聴覚教室 (授業中に指示または掲示) への移動指示に注意すること。印刷教材プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

宗教学、宗教人類学等の関連授業科目を積極的に受講することを是非勧めたい。

成績評価の方法	レポート（夏期休暇後提出、学年末提出、その他中間で適宜にレポート課題提出を求める） 課題は具体的に授業中にて指示するので出欠席には要注意。出席点による。出席を尊重。
教科書	小山一乗著『教育と寛容—宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点—』（宣協社）2,940円消費税込
参考書等	『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』（大法輪閣）1,600円 脇本平也著『宗教学入門』（講談社学術文庫）940円。その他適宜紹介・指示する
その他	原則として講義形式で実施するが、適宜、発表、討論をおこなう予定である。

科目名	担当者名
介護等体験	とよ た ちよこ 豊 田 千代子

講義のねらい	「介護等体験」を有意義なものとするために、必要とされる基礎的知識や態度等を学ぶとともに、各自の体験をもとにさまざまなテーマについて考えあっていくことを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	事前指導 ・ 「介護等体験」の意義・目的 ・ 「介護等体験」における注意事項 ・ 特殊教育諸学校における介護等体験 ・ 社会福祉施設における介護等体験 事後指導 ・ 体験のふり返り
履修上の留意点	初回に授業の概要等を説明するため、必ず出席すること。事前連絡なしに欠席した場合には履修は認められない。
成績評価の方法	「介護等体験」に取り組む真剣さ、体験日誌などの記録、通年講義の授業への参加度、学期末のレポートの内容等を総合して評価する。
教科書	全国特殊学校長会編『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート—社会福祉施設—』 なお、教科書は授業時間中に配布する。
その他	平成16年度以降入学生で当該年度に「介護等体験」を行う中学校免許取得希望者は必ず履修登録すること。

講義のねらい

今年度「介護等体験」を行う（平成16年度以降入学）学生のための必修科目である。事前事後指導を通して「介護等体験」をより有意義なものとしたい。また、その過程で、教育に携わる人間として学んでいくべき多様なことがらについて、考える機会を大切にしたい。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 事前指導：「介護等体験」の意義や目的を理解するとともに、「体験」を行うにあたっての全般的な注意事項等について学ぶ。また、2日間の「体験」を行う特殊教育諸学校と、5日間の「体験」を行う社会福祉施設について、教育内容や業務内容について学び、それに相応しい心構えを培っていく。
- (2) 事後指導：「体験」を通して考えたこと、感じたことをふり返り、自らの「体験」をまとめ、グループによる発表と討論を行う。

履修上の留意点

第1回の授業で概要を説明する。第1回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第1回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。
「介護等体験」という実際の活動を中心とした授業であるため、主体的、積極的に参加すること。

成績評価の方法

「介護等体験」に取り組む真剣さ、体験日誌などの記録、通年講義の授業への参加度、学期末のレポートの内容等を総合して評価する。

教科書

全国特殊学校長会編『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック：フィリア』
社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート：社会福祉施設』
なお、教科書は授業時間中に配布する。

その他

平成16年度以降入学学生で当該年度に「介護等体験」を行う中学校免許取得希望者は必ず履修登録すること。

科目名**担当者名****介護等体験**はま 原 けんじろう
萩 原 建次郎**講義のねらい**

本講義は事前事後指導をもとに介護等体験を有意義なものとし、また、体験を通じてさまざまな日常における〈かかわりの質〉を問い直すことがねらいである。

このことは教育に携わる人間として常に問われることであり、教育の質を規定する重要な要素となっている。そのため本講義では、さまざまなアクティビティを通じて、体験的に自己と他者とのかかわりの質を感じて、考える機会をもちたい。

講義の内容・授業スケジュール

介護等体験前には、事前指導として教科書をもとに体験の目的や意義を学ぶ。また、体験先となる社会福祉施設や特殊教育諸学校の実際についてビデオなどを交えて、体験する際の心構えを学ぶ。

事後指導においては、介護等体験をふりかえり、そこで学んだことや気づきをまとめ、受講生同士で共有しあう機会を持つ。他の受講生の体験と交流することを通じて、自らの体験をより深くふりかえる視点をつかむきっかけとしたい。

また、全体を通して自己と他者、自然、事物とのかかわりの質を問うためのアクティビティを適宜実施する予定である。

履修上の留意点

介護等体験を中心とした体験学習、参加型の学習なので、受講生の意欲的な参加が求められる。

軽度の身体運動が求められることが多いので、動きやすい服装で参加すること。

成績評価の方法

「介護等体験」に取り組む真剣さ、体験日誌などの記録、通年講義の授業への参加度、学期末のレポートの内容等を総合して評価する。

教科書

全国特殊教育校長会編『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック フィリア』
社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート—社会福祉施設—』
なお、教科書は授業時間中に配布する。

その他

平成16年度以降入学生で当該年度に「介護等体験」を行う中学校免許取得希望者は必ず履修登録すること。

科目名**担当者名****介護等体験**また 村 みつ 子
北 村 三子**講義のねらい**

本年度中に「介護等体験」を行う学生を対象に、事前事後指導を通じて、「介護等体験」をより有意義なものにすることを目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

事前指導においては、「介護等体験」の目的や意義、特殊教育諸学校および社会福祉施設の概要などを学び、「体験」への意識を高めます。「体験」後は、「体験」で得たものを他の受講生と分かち合い、深めていきます。

履修上の留意点

初回に授業の進め方などの説明をしますので、必ず出席してください。やむをえない理由で欠席する場合には事前に連絡してください。

成績評価の方法

「介護等体験」に取り組む真剣さ、体験日誌などの記録、通年授業への参加度、学期末のレポートの内容等を総合して評価します。

教科書

全国特殊教育校長会編『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック フィリア』、
社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート—社会福祉施設—』（教科書は授業中に配布）

その他

平成16年度以降入学生で、当該年度に「介護等体験」を行う中学校免許取得希望者は、必ず履修登録してください。

科目名	担当者名
介護等体験	伊藤茂樹
講義のねらい	中学校教諭免許を取得する者に課せられている「介護等体験」を今年度に行う学生を対象とする事前事後指導である。介護等体験をより有意義なものにすることを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	介護等体験の前には、全般的な注意事項を伝えるとともに、体験の意義や目的を理解し、体験先である特殊教育諸学校と社会福祉施設について概要を学ぶ。体験の後には、各自が体験したことや学んだこと、考えたことを報告し合って共有し、今後教職課程でさらに学んでいくうえで生かせるよう、ディスカッションなどを通じて深めていく。
履修上の留意点	第一回の授業で概要を説明する。第一回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。 「介護等体験」という実際の活動を中心とした授業であるため、主体的、積極的に参加すること。
成績評価の方法	「介護等体験」に取り組む真剣さ、体験日誌などの記録、通年講義の授業への参加度、学期末のレポートの内容等を総合して評価する。
教科書	全国特殊学校長会編『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』 なお、教科書は授業時間中に配布する。
その他	平成16年度以降入学生で当該年度に「介護等体験」を行う中学校免許取得希望者は必ず履修登録すること。

科目名	担当者名
介護等体験	遠藤司
講義のねらい	本講義は、当該年度に「介護等体験」を行う学生を対象とし、事前事後指導を通して「介護等体験」をより有意義なものとするを目的としている。教育に携わる人間として極めて重要なことを学ぶ機会である「介護等体験」に向けての意識を高める講義としたい。
講義の内容・授業スケジュール	事前指導においては、「介護等体験」の意義や目的を理解するとともに、「体験」を行うにあたっての全般的な注意事項等について学ぶ。また、二日間の「体験」を行う特殊教育諸学校と、五日間の「体験」を行う社会福祉施設について、実際に行われている教育内容や業務内容について学び、それに相応しい心構えを培っていく。 事後指導においては、実際の「体験」を行ったことを通して考えたこと、感じたことをふり返りつつ自らの「体験」をまとめ、様々な問題やテーマを参加者同士で共有した上で、いくつかのテーマを取り上げ討論を行う。また、それらのことを今後の教職課程での学びにどのように生かすべきかを考察する。
履修上の留意点	第一回の授業で概要を説明する。第一回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。 「介護等体験」という実際の活動を中心とした授業であるため、主体的、積極的に参加すること。
成績評価の方法	「介護等体験」に取り組む真剣さ、体験日誌などの記録、通年講義の授業への参加度、学期末のレポートの内容等を総合して評価する。
教科書	全国特殊学校長会編『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』 なお、教科書は授業時間中に配布する。
その他	平成16年度入学生で当該年度に「介護等体験」を行う中学校免許取得希望者は必ず履修登録すること。

科目名

担当者名

介護等体験

さかのぼり
坂本信昭

講義のねらい

養護学校及び社会福祉施設での介護・介助・交流体験を原体験として、生あるものの尊さと、共に生きることの意味、そして社会的弱者に対する人権意識を高め、ノーマライゼーションの思想を深め、さらに他者との共感的受容的な人間理解深める、自己変革の契機にして欲しいと思います。そのために、事前指導としては介護等体験で何を学ぶか、そして介護等体験を通して何を学んだか、どのような課題に気づいたかについて事後指導において考察すべきと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

- イ. 介護等体験特例法について
- ロ. 21世紀に求められる教師の力量・資質
- ハ. 介護等体験の意義と課題
- ニ. 介護等体験にいかに関わるか
- ホ. 養護学校等での介護等体験
- ヘ. 社会福祉施設での介護等体験
- ト. 介護等体験の事後
- チ. 介護等体験を教育実習にどう生かすか
- リ. あらためて、教師志望を考える

履修上の留意点

授業への出欠は厳密にとる。初回の授業で概要を説明するので必ず出席すること。「介護等体験」という実際の活動を中心とする授業であるから、主体的・積極的に対応すること。

成績評価の方法

「介護等体験」に取り組む真剣さと体験日誌などの記録、通年授業への出席度、学年末のレポートの内容等を総合して評価する。

教科書

全国特殊学校長会編『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブックフィリア』
社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート～社会福祉施設～』
(教科書は授業時間中に配布する)

参考書等

現代教師養成研究会編『介護等体験ハンドブック』（大修館書店）1,200円

その他

平成16年度以降入学生で当該年度に「介護等体験」を行なう中学校免許取得希望者は必ず履修登録をすること。

(3) 教科に関する科目

【社会・地理歴史・公民】

科目名	担当者名
東洋思想史	末木恭彦

講義のねらい

中国の伝統思想、特に儒学のあり様について理解を深めることを目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

直線的に歴史把握を行うのではなく、儒学の根本文献（経）についての理解を深め、各経の歴史的展開を並行的に把握することにする。経理解の手掛りとしては、江戸時代の儒者、荻生徂徠の『経史子要覧』を用いる。『経史子要覧』の言説を読み、それに現代の視点からの補説を行う。この作業を通じて、儒学の経とは何か理解を深め、それがどう読まれて来たか歴史的認識を試みる。なお、『経史子要覧』は必要箇所を複写して配布する。

履修上の留意点

予習をして来て欲しい。テキストの疑問点を整理して授業に臨んで欲しい。その疑問点の解明を中心として、授業を展開する予定である。

成績評価の方法

平常の受講態度に学年末のレポートを加味して成績をつける。

科目名	担当者名
民間信仰論	谷口貢

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の構造と機能を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定。出席を重視する。

教科書

使用しない。

参考書等

参考書として、桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮本袈裟雄著『庶民信仰と現世利益』（東京堂出版）の2冊を紹介しておきたい。

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを見る予定にしている。

科目名**担当者名**

人文地理学概説

わかばやしひろむね
若林宏宗

講義のねらい

地理学とは、人文地理学とは何か？からスタートし、自然環境、社会環境を基盤とした人間活動とその現象を日本、世界の現代社会の中で捉え、人文地理学として分析する。

さらに、将来の人間活動のあるべき姿を人文地理学的に考察できるようになるまで講義・課題導入したい。また、教職教科でもあるので、高校等での地理授業や郷土研究の指導の要点、留意点なども適宜加えたい。

以上の中で、日本の全都道府県訪問（自転車）、南極を含む地球上全七大陸踏破、教職38年間の経験などによる観察、考察を適宜加えたい。

講義の内容・授業スケジュール

①前期

- ・地理学とは？ 人文地理学とは？ ・地図の読み方と活用。
- ・身の周り（地域）の人間活動を捉える。何が、どうしているか？
- ・身の周り（地域）の人間活動を分析する。なぜ、いつから、これからは？
- ・人の分布、移動の状態。 ・農村と都市、それぞれの役割、活動、変貌など。
- ・都市の内部構造。 ・都市計画。

②後期

- ・工業活動の分析。 ・商業活動の分析
- ・観光産業の成立と発展、現代社会における余暇の活用。
- ・日本各地における人間活動の現状。 ・世界各地における人間活動の現状。
- ・世界の将来を人文地理学で分析。 ・地理学はどのようにして活用できるか？
- ・教職における地理学。

履修上の留意点

出席を第一に、第二に静聴を。

成績評価の方法

- ・定期試験を実施。課題・レポートをそれに準じて加味する。
- ・出席（2／3以上）を重視し、平常点として加味する。

教科書

高橋伸夫・谷内達・阿部和俊・佐藤哲夫編『ジオグラフィー入門』（古今書院）2,500円（税別） ISBN4-7722-4001-2

参考書等

高橋伸夫ほか編『現代地理学入門 身近な地域から世界まで』（古今書院）1,900円（税別） ISBN4-7722-3049-1
C. J. ラインズほか著 伊藤喜栄ほか訳『大学の地理学 2 人文地理学の基礎』（古今書院）2,300円（税別） ISBN4-7722-5042-5

その他

講義形式を基本とする。

科目名**担当者名**

自然地理学概説

すずきりんたろう
鈴木倫太郎

講義のねらい

自然地理学の分野のうち、地形の形成過程や自然環境の生い立ちについての講義を中心に、人間と自然・災害・環境との関りについて、地域事例を用いながら論じる。

講義の内容・授業スケジュール

前期：1. 地球の概観 2. 地球の気圏と水圏 3. 地形形成史①
後期：1. 地形形成史② 2. サンゴ礁地域の自然 3. 人間と自然環境

履修上の留意点

講義が中心となるが、受講生が講義内容に対する考えや理解を持ってもらうため、定期的にレポートの提出を求める。

成績評価の方法

学年末の定期試験の結果と、レポート提出等の平常点も加味しておこなう。

教科書

特に指定しない。授業時にプリントを配布する。

参考書等

鳥山隆三編『教養の地学』（朝倉書店）
酒井治孝著『地球学入門』（東海大学出版）

科目名	担当者名
自然地理学概説	はや 船 げん ぼう 早 船 元 峰

講義のねらい

人間生活の舞台である第四紀の大地の生成過程などを論じ、さらに自然に対し人間はいかにあるべきかを災害などの環境問題を通して考えていく。また、いくつかの地域をとりあげ、人間と自然とのかかわりあい（人間に対する自然の影響・自然への人間の働きかけ）を主に環境地誌の立場から論じる。

講義の内容・授業スケジュール

前半
 ・火山山麓における土地利用の変化と環境保全
 後半
 ・気温と湖水温の垂直分布の季節的变化と人間とのかかわり
 ・北海道本部の気候地形
 ・関東平野の地形発達史

履修上の留意点

国土地理院発行の地形図を数枚用意してもらい、それらをもとに種々の作業（高度別着色・地形断面図など）をして、理解を一層深めてもらう。直定規・方眼紙・トレース紙・硬質色鉛筆・黒色水性ペンを各自用意すること。

成績評価の方法

課題・レポート・出席状況などによる平常点。

科目名	担当者名
地誌学概説	かわ もと とよ かず 川 元 豊 和

講義のねらい

南アジア・東南アジアの地誌について授業を進める。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。前期は、まず、アジアの地域的特色を主として、人口・農業・宗教の側面から概観する。次に、バングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。後期は、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴や工業化・都市化にともなう村落の変貌などについて、最近の地域研究の成果を紹介してゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

①はじめに ②アジアの人口動態 ③稲作における「緑の革命」 ④アジアの宗教 ⑤バングラデシュ農村における近年の農業の変化 ⑥バングラデシュ農村における土地所有と小作制度 ⑦半島マレーシアにおける多民族社会の形成 ⑧半島マレーシアにおける地方都市の発展 ⑨サラワク州におけるイバンの生活 ⑩まとめ

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席（授業回数の2/3以上）及び9月末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教科書

特に定めず、プリントを配布する。

参考書等

授業内において、その都度紹介する。

その他

講義形式。

科目名**担当者名****地誌学概説**あら い さち ほ
新井祥穂**講義のねらい**

日本および世界の農山村が直面する問題について、正確な現場理解に基づいた考察を行う。

**講義の内容・
授業スケジュール**

地方自治・行財政改革や規制緩和の推進といった変革の波によって、今日の地域社会は大きく変容しようとしている。しかし、変革の結果として地域社会に何か起こりつつあるのかについては、理念やイメージが先行し、現場の本質的な情報は少ない。

本講義では、日本と世界の農山村の内実、現在生じている変化と課題について、具体的に正確な理解を目指し、将来の教育活動に役立ててもらおうことを目指している、特に、これらの社会と公共政策との関わりを詳しく論じる。前半は日本社会（稲作農村、山村、河川の管理）、後半は亜熱帯・熱帯地域の社会（沖縄の振興、発展途上国の農業開発）を対象とする予定である。

履修上の留意点

参加者には、休暇等を利用して自主的に農山村や海外を旅行し、何らかの具体的な現象に注目した上で自分なりの理解や判断を編み出す努力を期待したい。

成績評価の方法

中間試験及び学年末試験の両方を受験し、かつその成績が基準以上であることを求める。

教科書

特に指定しない。

参考書等

適宜紹介する。

その他

講義形式をとる。

講義のねらい

地誌学は、ある特定の地域の地形、気候、植生などの自然事象や、集落、人口、産業、文化、社会などの人文社会事象を、総合的に理解しようとする地理学の一分野である。また、中学校、高等学校での地理の学習において大きな割合を占める分野でもある。本講義ではまず、地誌学のあゆみ、地誌学の対象となる「地域」の概念を説明する。次に、日本の地域性を概説した後、住まい、まちに焦点を当てて地誌を展開していく。これらを通じて、地域の見方を習得してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

(前期)

1. イントロダクション、地理という言葉
2. 地誌書の紹介
3. 地誌学の成立過程
4. 地理教育としての地誌、地誌学方法論
5. 「地域」の概念 (等質地域、結節地域)、スケール
6. 地域区分、地域性、地域差
7. 日本の地域性 (自然環境、歴史、人口、国土計画、文化、社会、民族)

(後期)

1. 住まい、まちから地域を読み解く (住まいの地域部分、集落や都市の形態)
2. 住まい、まちから地域を読み解く (北海道～沖縄までの事例)
3. 住まい、まちから地域を読み解く (郊外論、歴史的町並み)
4. 郷土の地誌

履修上の留意点

毎回出欠を取る。また、不定期に教場での小レポートを課す。出欠は、出席票で確認することもあれば、小レポートを提出してもらうことで確認することもある。

成績評価の方法

出欠と小レポートの内容という平常点で50点、後期末に提出してもらうレポートで50点、あわせて100点満点で評価する。

教科書

特に指定しない。配布プリントを用いる。

参考書等

講義中に随時紹介していく。

その他

講義中心だが、毎回授業の前半は、地図の読図や、中学・高校・大学の地理の入試問題を解くといった作業に時間を当てる予定。

科目名	担当者名
日本史概説	で くち ひろ ゆき 出口 宏 幸

講義のねらい

日本史概説といいながら、戦国時代～近代初期までを中心にした内容です。

講義の内容・
授業スケジュール

前期の授業は、戦国時代から近世前期を中心に講義する予定です。戦国時代を混乱と見るだけでなく、あらたな社会を創り出す過程という視点から、戦国の世に生きた様々な人々の姿を追ってみたいと考えています。そして、戦国の世が閉じられ、近世社会へ移行する過程で、どのような社会的変化がおこったのか。都市と村落という視点をもちつつ話を進めます。

後期の授業は、近世中後期から近代初期にかけて講義する予定です。近世社会が成熟し、諸制度が整備されると、文書による支配が展開します。これは、近世社会の特徴のひとつで、領主は文書による支配を実現します。財政基盤である年貢を、村からいかに徴収するかが最重要課題で、そのための仕組が村に構築されます。行政村として存在した近世村に着目することで、近世社会における村の重要性を解説します。また、近代社会についても近世社会の諸制度が、いかに変容し受け継がれたのか、また否定されたのか考えます。

歴史学では、史（資）料に基づき、時代像を実証的に構築することが重要です。古文書を読むことは、当時の人との「会話」であり、追体験することといえます。歴史と向き合う時間は、貴重かつ重要な「体験」といえるでしょう。

成績評価の方法

試験80%、平常点20%

教科書

必要に応じ、授業中に指示します。

科目名	担当者名
日本史概説	こ いずみ まさ ひろ 小 泉 雅 弘

講義のねらい

近世から現代にいたる日本の歴史について概説する。その際、政治・社会・文化・経済・外交などの関連性を重視したい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では幕藩体制の成立から幕末期までを対象とし、近世国家の形成過程と解体について講義する。後期では、明治維新を契機とする近代国民国家の成立、展開過程を取り扱う。

履修上の留意点

歴史的事象を個別のものとして捉えるのではなく、広い視野で考える姿勢を身につけてほしい。

成績評価の方法

定期試験で評価し、出席状況を加味する。

教科書

特になし。

参考書等

講義内容にあわせて随時紹介する。

科目名

担当者名

世界史概説

こばやし そう ぼん 八

講義のねらい

アジア史を基点に世界史の歩みを多角的にとらえることを主眼とする。

講義の内容・
授業スケジュール

その場合の取り扱い方法として、同時代史に力点を置いて講義する。

例えば、
・中国の秦漢時代史とローマ帝国の盛衰
・モンゴル民族の発展とヨーロッパ騎士団との対立
・清の黄金時代とヨーロッパの市民革命…など10項目を設定する。ときに、ディスカッションや課題学習も考慮に入れる。

成績評価の方法

前期・後期のレポート提出と試験・出欠状況の総合評価とする。

教科書

特別定めないが、世界史の概説書や図表を座右に置いて聞くことを勧める。

その他

出席を重視する。

講義のねらい

西洋史を中心に世界史を概説する。できるだけ情報量を制限して、考え方の筋道がつかみやすい授業を心がけたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1講 古代地中海世界（1）
- 第2講 古代地中海世界（2）
- 第3講 中世ヨーロッパ世界（1）
- 第4講 中世ヨーロッパ世界（2）
- 第5講 ビザンツ帝国と正教世界
- 第6講 近世ヨーロッパ（1）
- 第7講 近世ヨーロッパ（2）
- 第8講 近世ヨーロッパの社会経済（1）
- 第9講 近世ヨーロッパの社会経済（2）
- 第10講 オスマン帝国と東ヨーロッパ
- 第11講 革命の時代
- 第12講 自由主義と発展主義
- 第13講 諸国民の春
- 第14講 帝国と国民統合
- 第15講 ベル・エポック
- 第16講 ハプスブルク帝国とラテンアメリカ
- 第17講 世界戦争の衝撃
- 第18講 大衆動員の時代
- 第19講 大恐慌と一国主義的分立状況の出現
- 第20講 社会主義的ユートピア
- 第21講 戦後世界と冷戦
- 第22講 冷戦の終結と新世界秩序
- 第23講 エスニシティとジェンダー

成績評価の方法

前期と後期の筆記試験の成績による。

教科書

近藤和彦編『西洋世界の歴史』（山川出版社）1999年 3,200円

参考書等

開講時に世界史全般に関する文献目録を配布する。個々のテーマについてはその都度、必要性に応じて適宜紹介する。

その他

歴史映画のビデオ等によって歴史的なイメージの喚起に努めたいが、扱わなければならない事項は多く、時間は限られているので、現実にはなかなかむずかしい。

科目名	担当者名
社会学原論	はしづめ 敏 橋 爪 敏

講義のねらい

本講義の対象は社会学科の2・3・4年生、ならびに「社会・地理・公民科」にかかわる教職科目の受講者である。したがって、「社会学」とは何か、いかなる学問かにはじまり、さらに「社会・地理・公民科」の基礎をなす学問としての、<社会科学としての「社会学」>とは何かにかかわる問題を取り上げたい。

いずれにせよ、社会的なモノの見方、考え方を理解し、それを踏まえて、社会現象を理解し、説明する<社会科学>についての認識を深めたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期には社会科学とは何か、社会科学としての社会学とは何かと言う問題からはじめたい。科学的であるとはどういうことかと言う、基本的な点から問題を考えたい。

後期はこうした点を踏まえて、社会学の歴史的な展開を振り返り、社会現象にたいする科学的取り組みについて若干の検討をしていきたい。

成績評価の方法

学年末の定期試験で評価する。

教科書

安藤喜久雄ほか『社会学概論』（学文社）

参考書等

適宜指示する。

科目名	担当者名
宗教人類学	やのひでたけ 矢 野 秀 武

講義のねらい

宗教に関わる諸現象を理解しようとする場合、思想や主張だけを対象とするのでは、ときに十分な理解に到達できず、誤解を引き起こすこともある。そのような問題を避けるためには、社会的背景や人々の行動様式・価値観などの文化的背景にまで踏み込んで、思想や主張を理解することが必要となる。本講義では、そのような理解の仕方の一つとして、宗教人類学の視点を身につけてもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、霊魂などの超自然的な存在の観念や、宗教的儀礼の実施がどのような背景を持っているのかについて、宗教人類学的なものを見方を紹介し、後期では、南アジア・東南アジアの宗教の事例をとりあげて、個々の具体的な地域の社会的・文化的背景と宗教実践の関係を理解する。

成績評価の方法

レポートと年度末の筆記試験を総合して評価を行なう。レポートは夏期休暇前に課題を提示する。レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業で述べる。

教科書

なし。

参考書等

授業時に随時紹介する。

講義のねらい

現代経済学は「マクロ理論」と「ミクロ理論」からなる。「マクロ」とは大きいという意味を持ち、「ミクロ」は小さいという意味を持つ。このコースでは経済全体の動きを分析する「マクロ理論」の基礎を勉強する。具体的に言うと、景気の良し悪しは何によって決まるか？物価の変動はどのような要因によるものか。デフレ経済の要因は何か？さらに政府の経済活動についてどのように考えるべきか。また輸出・輸入、経常収支といった外国との経済関係をどのように捉えたらよいか。マクロ理論はこれらの疑問に答えるきわめて日常的で身近な分野であるといえる。しっかり勉強すれば、面白くてためになる「一粒で二度おいしい」基礎コースだ。なお、上に述べたように「ミクロ理論」とはペアであるから、必ず両コースを履修することが現代経済学を体系的に勉強するためには不可欠である。

講義の内容・授業スケジュール

年間のスケジュールは以下のとおりであるが、理解しにくいトピックスには十分時間をかけ説明するが、テキストなどで「読めばわかる」箇所は簡単に済ませ時間の節約を心がけたい。

1. マクロ経済活動とマクロ経済学の考え方
2. 国民経済計算と国民所得の考え方
3. GDPとは何か、それはどのようにして決まるのか
4. 独立支出の変化とGDPの関係
5. 消費と投資
6. IS-LMモデルと財政金融政策
7. インフレとデフレについて
8. 国際貿易
9. 政府の経済的役割
10. 総需要と総供給
11. 貨幣とマクロ経済
12. 貨幣政策と金融政策
13. 為替市場と金融政策
14. 経済成長と景気循環

履修上の留意点

現代経済学を勉強する上で不可欠なことは、実際の経済問題に強い関心を持つことだ。これらはさまざまなメディアをとおしてあふれるほど提供されている。とくに『日本経済新聞』やその他の新聞には毎日必ず目をとおすこと。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけスクラップブック等に整理しておくことよ。これは授業だけでなく、将来の就職活動に際しても役立つおすす。また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的コースで使う数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要に応じて授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習に限る。

ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒澤大学情報センター」に常備されている。それらを使ってシミュレーションしてみることも、面白く経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ、授業には必ず出席し、予習復習を実行すれば100点取るのも夢じゃない。なお授業中は、私語厳禁、勝手に席を立たないこと、以上厳守。

成績評価の方法

定期試験とレポートの成績を総合評価する。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1995年

参考書等

青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）2004年。これは公務員試験の問題集だけど他の国家試験の受験対策にも十分通用する。できる限り問題練習をすることも理解を確実にする近道だ。自分で復習をかねて解いてみることをとくにお勧めする。

その他

毎回の授業の内容や主なトピックスをKOMSYに掲載するから、必要に応じ参考にしてください。また授業中わからないこと、その他問題点などあったら、いつでも質問相談に応じます。オフィスアワーを設けていますのでご利用ください。

科目名

担当者名

経済原論

あらきよしひろ
荒木勝啓

講義のねらい

乗数理論の完全理解、貨幣の役割と信用創造理論、IS-LM-BP 曲線による国際経済と国内経済の関係の理解、経済成長と技術進歩の理解という 5 つのメインテーマを中心にマクロ経済理論を学習する。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の内容は次の通り。

1. 国民経済の成立
2. 所得の循環図式
3. 国民所得の概念
4. 国民所得の決定
5. 政府・輸出入の導入
6. 乗数理論
7. ビルト=イン=スタビライザー
8. 貨幣とは何か
9. 信用通貨の成立
10. 信用創造理論
11. 貨幣数量説と古典派学説
12. 流動性選好説
13. LM 曲線
14. 投資関数
15. IS 曲線
16. IS=LM 曲線による均衡実質国民所得の決定
17. マンデル=フレミングの定理
18. IS=LM=BP 曲線による国際経済と国内経済の関係の理解
19. コブ=ダグラス生産関数に基く経済成長率の算出
20. ハロッド=ドーマーモデル
21. 新古典派成長理論
22. 期待理論その 1
23. 期待理論その 2

成績評価の方法

主として計算問題から成る定期試験により評価する。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）

講義のねらい

ミクロ経済学の基礎的な内容（家計が行っている経済活動、企業が行っている経済活動、市場メカニズムが果たしている基本的な役割、市場メカニズムがうまく機能しないケース）を一通り講義する。

この講義の目標とするところは以下の二点である。

- (i) 経済のありさまを自分なりに把握するための技術を身につける。
- (ii) 論理的な思考ができるようになる。

講義の内容・授業スケジュール

スケジュールは以下の通り。

- (前期) (1) ガイダンス (2) 経済主体と市場 (3・4) 需要曲線、供給曲線 (5・6) 価格および取引数量の変化 (7・8) 予算制約 (9) 無差別曲線 (10・11) 需要曲線の導出 (12) 需要関数 (13) 前期末試験
- (後期) (14・15) 生産関数 (16・17) 利潤最大化問題、費用最小化問題 (18~20) 限界費用と微分 (21・22) 供給曲線の導出 (23) 純粋交換経済 (24・25) 厚生経済学の基本定理と市場の失敗 (26) 情報の不完全性

履修上の留意点

数学は議論を単純化し論理の厳密性を実現する上でとても有益な道具であり、ミクロ経済学の醍醐味を味わうためには、ぜひとも初歩的な数学をマスターする必要がある。初歩的な数学（関数微分）も併せて一から講義するので、数学に苦手意識を持っている人は覚悟を決めて講義に臨むこと。抽象的な議論の多いミクロ経済学の修得には努力と根性が必要であるが、根気よく予習・復習を行い、1年を通して頭を働かせ続けたなら自分の頭でものを考える力を伸ばすことができ、自分の頭に自信が持てるようになるであろう。高く飛ばんと欲すれば、深く学ばざるべからず。

成績評価の方法

基本的に二度の期末試験の総合評価。前期末試験、後期末試験のうちどちらか一方でも受けていなければ、単位を与えることはできないので注意すること。追試験は実施する。

教科書

第1回目の授業で指示をする。

科目名**担当者名**

経済原論

まつ いりゅう へい
松 井 柳 平**講義のねらい**

理論的な経済分析の基礎となるミクロ経済学の理論を、ゲーム理論をベースとして解説する。消費者や企業などの個別経済主体が自発的かつ合理的に行動しているとき、どのような社会・経済状態が実現するか考察する。その際、その帰結の理解よりもむしろ、その帰結に至る論理展開、つまり分析方法の理解に重点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

<前期>
ガイダンス 講義の概要等説明
あるパン屋の話
支配戦略
ナッシュ均衡
バックワード・インダクション
サブゲーム完全均衡
交渉ゲーム
<後期>
不完備情報ゲーム
ベイズ完全均衡
オークション
市場取引
消費者理論
金融市場と一般均衡

履修上の留意点

数の大小比較、四則演算（足し算、引き算、かけ算、わり算）、分数の計算、簡単な方程式の変形について、完全な理解ができていることが、受講生には求められる。
公務員試験、経済学検定試験、その他各種資格試験を将来、受験しようという学生は、この科目やマクロ経済学を履修した後、さらに、価格理論、国民所得論、公共経済学などの科目を履修することが望まれる。

成績評価の方法

成績は基本的に、100点満点の後期試験に基づく。さらに、追加点として、授業中に発表して内容がよかった人には、1回につきプラス10点を与える。
また、夏期休暇中のレポート課題も1点～10点で評価する。
以上より、素点としては100点を超える学生も出るであろうが、そのような学生の、成績の最大値は、最終的な成績評価の段階で、100点とする。
成績評価は、絶対評価であり、したがって、好成績の学生がいるからといって、それによって他の学生の評価が相対的に悪くなるということはない。

教科書

梶井・松井『ミクロ経済学—戦略的アプローチ』（日本評論社）ISBN4-535-55202-9

参考書等

岩田 規久男『経済学を学ぶ』（筑摩書房）（ちくま新書）ISBN4-480-05602-5
武藤 滋夫『ゲーム理論入門（日経文庫& #8212；経済学入門シリーズ）』（日本経済新聞社）ISBN:4532108292
渡辺 隆裕『図解雑学 ゲーム理論』（ナツメ社）ISBN：4816337458
船木『演習ゲーム理論』（新世社）ISBN4-88384-072-7
神戸『入門ゲーム理論と情報の経済学』（日本評論社）ISBN4-535-55414-5

その他

基本的に講義形式で行うが、問題演習等において自発的に解答を発表してくれる受講生を歓迎する。

科目名

担当者名

民法 I

す が あき のり
須 賀 昭 徳

講義のねらい

われわれの日常生活は民法に支配されている。したがって、この社会で活動するには民法についてひとつの知識がなければならない。市民の社会生活には財貨の生産、交換、消費、配分などを目的とする経済生活の面（これを規律する法が財産法）と種族保存を目的とする保族生活の面（これを規律する法が家族法）とがある。この財産法の領域の法が物権法と債権法である。これらの通則として総則がおかれている。本講義では民法第一編総則と第二編物権法について、基本となる知識を持てるようにしたい。なお、時間の関係で総則を中心として詳しく講義をし、物権についてはひとつの知識を持てるようにしていきたいと思ひます。

講義の内容・
授業スケジュール

前期（民法総則）

- ①民法とは何か、民法の歴史 ②民法の基本原則 ③権利の主体（自然人） ④法人（社団法人、財団法人） ⑤権利の客体（物とは） ⑥法律行為（意思の欠缺、瑕疵ある意思表示） ⑦無効と取消 ⑧条件および期限・期間 ⑨時効（取得時効、消滅時効）

後期（物権法）

- ①物権の意義、種類 ②物権の効力 ③物権の変動 ④占有権 ⑤所有権 ⑥用益物権 ⑦担保物権（法定担保物権） ⑧約定担保物権 ⑨非典型担保（譲渡担保、仮登記担保）

履修上の留意点

講義にはかならず六法を持参すること。

成績評価の方法

期末試験の成績により評価する。

教科書

甲斐道太郎・乾昭三・椿寿夫編『新民法概説（1）総則・物権』（第4版）（有斐閣）2,000円

参考書等

講義の中で指示する。

講義のねらい

民法典のうち、民法典全体に適用される一般規定である第1編「総則」と、特定の物を直接支配する権利に関する第2編「物権」を取り上げます。とくに民法典の導入部である「総則」は、民法の勉強を放棄したくなるほど抽象性が高い規定が多いことから、具体的な事案を提示しながら説明をし、学生諸君の理解を図ります。指定した教科書に沿って、前期では第1編「総則」を概説し、後期では第2編「物権」の説明に入ります。

講義の内容・
授業スケジュール

〔前期〕

- (1) 導入
- (2) 民法における個人
- (3) 権利能力
- (4) 意思能力と行為能力 ～成年後見制度
- (5) 所有権の概念
- (6) 所有権の効力
- (7) 契約とその効力
- (8) 契約にもとづく不動産の物権変動 [1]
- (9) 契約にもとづく不動産の物権変動 [2]
- (10) 契約にもとづく動産の物権変動 [1]
- (11) 契約にもとづく動産の物権変動 [2]

〔後期〕

- (1～2) 法人
- (3) 抵当権
- (4) 先取特権、留置権
- (5) 質権
- (6) 譲渡担保
- (7) 代理制度
- (8) 無権代理
- (9) 表見代理
- (10) 法律行為
- (11) 消滅時効
- (12) 取得時効

履修上の留意点

民法典の中でも非常に抽象度が高い分野ですから、講義の前の予習は必ず必要となります。また、講義後に復習することで、理解の定着を図ってください。

成績評価の方法

学年末の筆記試験の他、出席状況などの平常点も重視します。

教科書

山野日章夫『民法 総則・物権』（有斐閣）1,700円

参考書等

六法
『法律学小辞典』（有斐閣）4,500円

科 目 名**担 当 者 名****政治学原論**しらとり
白 鳥 浩**講義のねらい**

「政治」とは何でしょうか。この講義においては、「政治」とは、「未来の選択である」とする視座に立ち、政治学の全体像を学んでもらいます。これは、しばしば「可能性のアート」であるといわれるゆえんでもあります。そうした「未来の選択」、「可能性のアート」を扱う学問である「政治学」とは何か、どのように発展してきたのかを、皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

**講義の内容・
授業スケジュール**

以下の内容を初めてのひとにもわかるように講義します。

- (1) 序論 政治学の基礎概念
- (2) 古代の政治理論
- (3) 中世の政治理論
- (4) 近代政治理論の形成
- (5) 近代批判の政治理論
- (6) 現代の政治理論
- (7) 国際政治の理論
- (8) 現代の政治過程理論
- (9) ワールド・ポリティカル・サイエンスの形成
- (10) 現代日本の政治分析

履修上の留意点

関心を持って、講義に出席してください。

成績評価の方法

試験を中心とするが、総合的に判断する。

教 科 書

白鳥『都市対地方の政治学：日本政治の構造変動』（芦書房）2004年

参 考 書 等

眞柄・井戸『比較政治学』（放送大学教育振興会）2004年
藤原『西洋政治理論史』（早瀬田大学出版部）1985年
授業内で適宜、指示します。

講義のねらい

この講義は教職科目として、政治学の基礎的なことからついて学んでいきます。授業を通じて、現在の政治・経済・社会について、自分の観点から理解し、わかりやすく説明できる能力を身につけることを目的にしています。

講義の内容・
授業スケジュール

○授業のスケジュール

前期 グローバル社会における諸問題

—アメリカの覇権と日本の政治における「構造改革」—

- ① 現在の社会変化—われわれの生活における大変動—
 - ② グローバル化の時代—市場と国家の新たな関係—
 - ③ 市場経済の展開—「大きな政府」から「小さな政府」へ—
 - ④ グローバル化と日本—日本型経済システムとその限界—
 - ⑤ 日本の政治と「構造改革」—グローバル化に対応した政治とは—
- *レポートの書き方、時事問題の解説なども行います。

後期 現代政治における諸問題

—政治制度の具体的説明とグローバル化時代における政策課題—

- ⑥ 選挙制度と日本の政党政治—政治の現状と改革—
- ⑦ アメリカ大統領制の考察—アメリカ民主主義の制度的考察—
- ⑧ 福祉国家の形成と動揺—医療保険・年金改革と財政—
- ⑨ 地方分権と地方自治—地方財政・公共事業・市町村合併—
- ⑩ 日本農業の変革と国際化—価格支持政策の転換・貿易自由化への対応—

履修上の留意点

この講義では次のことをおこないます。

- 1 身近な時事問題を取りあげながら、そのポイントを解説
 - 2 授業の冒頭で皆さんの質問に答えて、復習
 - 3 授業中、文章の表現能力を身につけるための練習
- さらに公務員試験やその他の資格試験に対応できるように配慮します。

成績評価の方法

- ①定期試験 (25%) 2007年1月実施
 - ②課題レポート (35%) 6月 (10%)・9月 (15%)・11月 (10%)
 - ③ミニ・レポート (40%) 授業中に作成するレポートを5段階評価
- 授業にきちんと出席し、課題をこなすことで自分の考える力が身についたかを重視します。
<評価のポイント>

- ・授業で取り上げた基礎的知識を理解しているか?
- ・授業で取り上げた話題を自発的・積極的に考え、自分で判断できるか?
- ・自分の考えを的確にまとめ、相手にわかりやすく表現できるか?

教科書

文献については講義・HPを通じて随時紹介します。

参考書等

毎回、レジュメと資料を配布。レジュメについてはHPを通じても入手可。

その他

講義を受身に聴くのではなく、取り上げた話題を自発的・積極的に考えていくことを期待します。

質問があれば、kiyotaki@komazawa-u.ac.jp まで。

(HP) <http://www.bat.alliednet.ne.jp/kiyotaki/>

(BLG) <http://navy.ap.teacup.com/komazawa/>

科 目 名**担 当 者 名****日本宗教文化史**お ^がわ ^{とし} ^{ゆき}
小 川 順 敬**講義のねらい**

日本の他界観、生死観の変遷を考える。

われわれの文化は（われわれの文化ばかりではありませんが）自分たちが生きているこの世界の他に、もう一つ別の世界や空間を創り出してきました。そして、それはわれわれに、いかに生きいかに死ぬかという問題を考えさせる文化装置として機能してきたと言えます。（現代社会においても、他界のイメージこそ異なるでしょうが、それは一定の役割を果たしていると言えるでしょう。）

ここでは、日本の伝統的な他界や仏教がもたらした他界のイメージが、生と死の文化装置として、どの様に具体化されてきたのか、すなわち他界という見えない世界がどのように表現され演出されてきたのかを考えてみることにしたいと思います。

**講義の内容・
授業スケジュール**

最初に他界観の前提としての日本人の靈魂観について述べ、「生と死」をわれわれがどのように考えてきたのかを整理しておきたいと思います。その上で、様々な「他界」について紹介・検討して行きたいと思います。

山中他界や海上他界、あるいは浄土や地獄がどのように実現されているのか。様々な聖地や、民俗行事（祭礼や儀礼）、寺院行事、また物語、芸能などを題材（ビデオ等使用する予定）として、この世では見えないはずの他界が、この世でどのように表現されてきたのか、そしてこの世と他界がどのように結ばれているかを見て行きたいと思います。

成績評価の方法

レポートその他で評価する。

教 科 書

教科書・参考書は用いない。なお授業の内容にそって資料を配布する。また参考書はそのつど紹介することにした。

科目名	担当者名
民衆宗教成立史	鈴木一馨

講義のねらい

民衆宗教は、世俗の中に生きるひとびとが既成宗教の体系にとらわれず、そのさまざまな願望に応じたものごとを取り入れながら形成したものである。それがゆえに、無秩序で「いいがけんなもの」とイメージされやすいが、実はそうではなく、取り入れた要素を独自の論理で編成しオリジナリティ溢れる体系を作り上げている。

この講義では、日本の民衆宗教の一例として陰陽道を探り上げ、前期に陰陽道の初期的形成とそれを支える中国的宇宙論について基礎的な知識を講説し、後期はその基礎に立って民衆宗教としての陰陽道の実像とその役割について講説する。そして、両者を併せて民衆宗教の形成のされ方について理解を深めてもらう。

講義の内容・授業スケジュール

前期：Ⅰ. 陰陽道と「陰陽」の宇宙論
 (1～4)「陰陽寮」と「陰陽道」 (5～9)「陰陽」の理論と世界観
 (10～13) 暦と世界の変化
 後期：Ⅱ. 陰陽道と民衆宗教
 (14～16) 平安貴族の日常と陰陽道 (17～20) 陰陽道の占い
 (21～26) 呪術者としての陰陽師

履修上の留意点

講義に対する積極的な姿勢と、社会人予備軍としての常識性を重視する。なお、復習をしないとついていけない。

また、成績処理用に「受講者カード」を準備するので、初回の出席時に必ず記入すること。同カードの記入や提出がない場合には単位の認定をしない。

成績評価の方法

出欠状況、期末試験、小テスト、質問への返答、受講態度など、評価につながるものは全て考慮する。

教科書

鈴木一馨『陰陽道—呪術と鬼神の世界—』（講談社選書メチエ244）2002年 1,575円

参考書等

林淳・小池淳一編『陰陽道の講義』（嵯峨野書院）2002年 3,150円
 高埜利彦編『民間に生きる宗教者』（吉川弘文館）2000年 2,940円

科目名	担当者名
宗教学概説	池上良正

講義のねらい

テーマは「生活の中の宗教」。現代人にも身近な生活のトピックを取り上げ、比較宗教学的な視点から考察する。

講義の内容・授業スケジュール

具体的なトピックとしては、「儀礼と祭り」「帛いと供養」「イスラームとは何か」などを考えている。各種のビデオを活用したい。

履修上の留意点

学生参加型の授業とする。受講者には最低1回は発表してもらう。意欲のある学生の履修を期待する。

成績評価の方法

課題の発表、授業中の議論、出席状況から、総合的に評価する。

参考書等

講義のなかで適宜指示する。

科目名	担当者名
宗教学概説	矢野秀武

講義のねらい	世界には様々な宗教伝統があり、多様な思想・体験・歴史・活動が見られる。また特定の集団には関わらないが宗教的と言える現象などもある。本講義では、これらの宗教伝統や宗教的現象について、無批判に肯定するのではなく、闇雲に批判し遠ざけるのでもない、そういった視点から理解することの重要性を学んでもらいたい。また、世界の諸宗教の多様性や、それぞれの宗教伝統内部に多様性のあることも理解してもらいたい。
講義の内容・授業スケジュール	前期は宗教についての基礎知識と具体的なイメージを持っていただくため、世界の諸宗教についての歴史と思想について学ぶ。後期では、聖なるもの、儀礼、まじない、神秘体験、入信過程、カルト問題、宗教間の対話などの切り口から、宗教学のものの見方を紹介する。
成績評価の方法	前期末と後期末にそれぞれ試験を行う。試験形式や授業の基本的な約束事は、初回の授業で述べる。
教科書	なし。
参考書等	授業時に随時紹介する。

科目名	担当者名
宗教学概説	川上新二

講義のねらい	宗教の存在しない国、地域、民族はないといえます。したがって宗教の理解は世界各地の人々（自分自身も含めて）を理解するための助けとなり、さらには人間とは何かを考えることにもつながると考えられます。この講義では、さまざまな宗教を理解するための視座を養うことを目指したいと考えています。
講義の内容・授業スケジュール	前期は、宗教学の基礎的知識について紹介します。①宗教学の立場と諸分野、②宗教の分類、③宗教の基本的諸形態などについて講義します。 後期は、宗教の理解の具体例として、日本と韓国・朝鮮で見られるさまざまな宗教現象をとりあげて考察を加えていきます。特に①神話、②シャーマニズム、③祖先崇拜、④仏教の土着化などについて講義します。
履修上の留意点	宗教は世界各地にさまざまな姿で存在しており、それらを理解するための接近方法もさまざまです。宗教に関する理解をさらに深めたいと考える方は、宗教に関連した他のさまざまな講義を積極的に受講することを勧めます。
成績評価の方法	出席状況とレポートにより評価します。
教科書	教科書は用いません。
参考書等	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

科目名	担当者名
哲学概説	末木 恭彦 <small>すえ き やす ひこ</small>

講義のねらい	哲学とはいかなる学問か理解をはかる。本講義は、この課題を東洋の視点から考察する。
講義の内容・授業スケジュール	哲学は、西洋の独占物ではない。西洋に啓発されてではあるが、東洋においても独自の哲学の試みはなされている。その東洋における哲学の試みの中から、馮友蘭を取挙げ、今年度はその著『新知言』を紹介する。馮友蘭の哲学は、彼自らが貞元六書と呼ぶ、六つの著作に展開されている。『新知言』は、その貞元六書の六番目に位置する。馮友蘭の視点から世界の哲学を把握し、その中に自らの哲学の位置付けを企てた書である。東西の比較という点からも興味をひく書である。尚、『新知言』には日本語訳がないので、私の作った抄訳を資料として配布する。
履修上の留意点	ノートを確実に取ること。
成績評価の方法	年一回以上の試験、もしくはレポートにより評価する。

科目名	担当者名
哲学概説	久保 陽一 <small>くぼ よう いち</small>

講義のねらい	哲学は世界や人間についてその原理や根拠を問う学問であると同時に、世界の中で人間がいかに生きるべきか、人生の目標や意義、道徳や価値（何が善いか、何が正しいか、何が美しいか等）を究明しようとするものでもある。我々は日常たえず意識しているとは限らないが、人生のふしぶしで何がしかそのような人生論的あるいは倫理的な問題につきあたらざるをえない。今年度の講義は、哲学のそのような側面を取り上げることにした。
講義の内容・授業スケジュール	古今東西の有名な人生論や倫理思想を取り上げる。 前期では、主に、①アジアの思想（仏教、儒教）、②古代ギリシア哲学、③キリスト教という、源流にさかのぼる。 後期では、主に、近代から現代にいたる、種々の人生論・倫理思想を取り上げ、その現代的意義を考えることにする。
履修上の留意点	よく出席し、ノートを取ること。私語はつつしむこと。理解できなかったところは、遠慮なく質問すること。
成績評価の方法	出席数、試験（前期と年度末）、レポートによって評価する。
教科書	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）3,200円
参考書等	渡辺二郎『現代の哲学』（日本放送出版協会）1,800円 渡辺二郎『人生の哲学』（放送大学教育振興会）2,800円
その他	講義

講義のねらい

新しい技術によってなにかが「できる」ようになったからといって、倫理的に「してもよい」ということにはならない。例えば、携帯電話という技術によっていつでもどこでも電話が使えるようになったからといって、いつでもどこでも電話を使ってもよいということにはならない。技術の進歩によって「できる」ことの幅が広がる一方で、既存の問題に加え、新たな倫理的問題も生じてこざるをえない。こうした問題を考えるにあたって本講義は次のような二段構えの構成を採る。すなわち、前期は (a) 古代ギリシア以来の西洋思想史における様々な倫理観を取り上げることでそうした倫理思想と現代との関係を考え、後期は (b) 応用倫理とりわけ生命倫理の諸問題とそのアプローチの仕方を取り上げることで私たちに身近なことがらを「倫理的に考える」とはどういうことなのかを考えることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では概ね次のような内容を取り扱う。

前期 (a) 西洋倫理思想史

徳倫理学：プラトン、アリストテレス、幸福な人とはどのような人か
義務論：カント、定言命法としての道徳原則、なぜ嘘はいけないのか
功利主義：ベンサム、ミル、最大多数の最大幸福

後期 (b) 生命倫理を中心とした応用倫理の諸問題（生老病死をめぐる倫理）

- 1) インフォームド・コンセントをめぐる問題
- 2) 安楽死・尊厳死の是非をめぐる問題
- 3) 脳死と臓器移植をめぐる問題
- 4) クローン技術のヒトへの適用の是非をめぐる問題

履修上の留意点

授業を受け身的に聴くというよりは一緒に問題を考えていくという積極的な姿勢が望ましい。

成績評価の方法

前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験（40点満点×2）ならびに夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

【職業】

科目名

担当者名

産業概説

こうのやすのり
幸野保典

講義のねらい

本講義は二部構成とし、第1部では、産業の一般的な概念規定および産業論研究の系譜などを概観し、産業とは何かについて考察する。
第2部では、日本における産業構造がどのように変化してきたかを、戦前と戦後に分けて検討する。前者については、戦間期および戦時下の産業構造についての概要を述べ、その特徴を明らかにする。本講義の中心となる戦後の産業構造については、経済復興期から現在にいたるまでに、個別産業がどのように展開してきたかを検証し、また新たに誕生した産業がどのような地位を占めるにいたったかを考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

第1部 産業とは何か。1. 産業の概念規定 2. 産業分類 3. 日本標準分類 4. 産業論研究の系譜（課題と方法）
第2部 日本における産業構造。1. 産業構造論の意味 2. 戦間期の産業構造 3. 戦時下、経済統制と産業構造 4. 戦後の産業政策の展開 5. 現代の産業構造（個別産業の発展）a. 鉄鋼業、b. 造船業、c. 家電産業、d. 自動車産業、e. コンピュータ産業など

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

レポートおよび試験を行う予定。

教科書

特に指定しないが、毎回レジユメを配布する。

参考書等

図書館書誌検索画面へ
水口和寿『現代産業概論』(昭和堂)1984年
鶴田俊正・伊藤元重『日本産業構造論』(NTT出版)2001年
大西勝明・二瓶敏編『日本の産業構造』(青木書店)1999年
武田晴人編『日本産業発展のダイナミズム』(東京出版会)1995年

その他

講義形式で行うが、受講者数が少ない場合はゼミ形式を併用する。

科目名	担当者名
職業指導	こう 利志生 としお

講義のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・職業指導と学校教育における進路指導についての考え方を確立する。 ・生徒が自己の生き方を自覚し、自己の能力を発揮し、職業（進路）選択を決定できるように指導方法を学習する。
講義の内容・授業スケジュール	職業指導の意義 <ul style="list-style-type: none"> ・職業と社会 ・職業指導の歴史 ・職業指導と職業教育 ・職業指導の定義 ・職業適性について 学校教育における進路指導 <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の基本的な考え方 ・進路指導における情報資料 ・進路指導と学校組織 ・進路適性について ・進路指導の計画と評価
成績評価の方法	出席・レポート提出で評価
教科書	プリント配布
参考書等	授業中に適宜紹介

科目名	担当者名
商業実習	こう 利志生 としお

講義のねらい	中学校・高等学校における商業に関する基礎的・実務的な知識・技術を習得する。
講義の内容・授業スケジュール	商業の機関と機能 <ul style="list-style-type: none"> ・産業の変化 ・消費生活と商品 ・物流について ・金融機関 ・小切手・手形 ・保険の種類 ビジネス文書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・文書作成の基本 ・文書の書式 ・文書の書き方と文例 簿記について <ul style="list-style-type: none"> ・簿記の基本原理 ・諸取引の処理 ・決算報告書
成績評価の方法	出席・レポート提出で評価
教科書	プリント配布
参考書等	授業中に適宜紹介

科目名	担当者名
農業実習	<small>ふる</small> 古 <small>さわ</small> 沢 <small>こう</small> 紘 <small>そう</small> 造

講義のねらい	<p>日本の農業は土地不足、生産コスト高騰、高齢化など多くの問題を抱えている。そうした中で、保護貿易主義の高い壁を守り続けることで、日本農業の窮地を救うのか、それとも生産基地を海外に移すのかという二者択一の選択を迫られている。</p> <p>本実習では、農作業体験を通して、農業が食料生産だけでなく、多様な公益的機能（たとえば洪水防止、教育効果、自然文化資源の提供など）を果たしていることを学んでもらいたい。</p>
講義の内容・授業スケジュール	<p>数回の農作業体験を行う。農村での合宿も計画している。</p>
履修上の留意点	<p>実習を受け入れてくれる農家に迷惑をかけることにならないよう、それなりの心構えで参加すること。</p>
成績評価の方法	<p>農作業体験に基づき、食農教育をいかに考えたらいいかについて、レポートを提出、それにより評価を行う。</p>

[フレックスB]

(1) 教職に関する科目 (必修)

科目名	担当者名
教職入門	てん じょう かつ み 天 井 勝 海
講義のねらい	今日の生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等は極めて多様化している。また、生徒を取り巻く教育環境は、国際化・情報化・高齢化・少子化などの著しい進展や生涯学習社会への移行など急激に変化している。このことを踏まえ、これからの学校教育や教育職員としての在り方などについて具体的な課題を取り上げ考察し、教員に求められている基本的な資質や能力等を育成する。
講義の内容・授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校組織と教員の役割と責任 2. 学習指導要領と教育課程の編成 3. 「生きる力」と総合的な学習の時間 4. 教科・科目の指導内容・方法の改善 5. 健全育成と生徒指導 6. キャリア教育と進路指導 7. 学級経営やホームルーム経営の在り方 8. 教育法規とその内容 9. 学校における接遇の実際 10. 教員に求められる資質・能力
履修上の留意点	教職入門として不可欠の内容を取り上げます。他の教職関係の学習の基礎・基本ともなりません。
成績評価の方法	試験や指導計画の作成、発表、模擬授業の成果などのほかに、授業への参加の状況（出欠席の状況）なども重視し、総合的に評価します。
教科書	『現代教職入門』（学事出版）1,980円
参考書等	必要なものは授業の際に紹介する。また、参考となる資料は、プリントして配布します。
その他	グループ討論や発表学習なども取り込んだ授業となります。

科目名	担当者名
教育の思想	やま もと とし こ 山 本 敏 子
講義のねらい	今日の学校教育が抱える様々な矛盾を解決していくための方向性を探ることを目指して、日本の公教育制度に影響を及ぼした西洋近代の教育思想への理解を深めるとともに、それが成立する以前に日本列島各地に息づいていた民衆教育思想を学んでいきます。
講義の内容・授業スケジュール	<p>概略は以下の通りですが、授業のすすめ方や詳しいスケジュールについては初回に具体的な案を提示して、受講者の皆さんと相談の上、決めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の基層文化に流れる教育の思想 ・近世の表層文化に現れた教育の思想 ・西洋近代教育思想の二つの大きな流れ
成績評価の方法	出席状況、学期末レポートなどの総合評価。
教科書	教科書については初回の授業で指示します。また、必要に応じて資料を配布する予定です。
その他	この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回日の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
教育と社会	山本敏子

講義のねらい	近代社会の教育は、全生活領域にわたる経営体としての家共同体の解体および近代国民国家の形成と深く関わっています。近代学校成立以前の社会における多様な教育システムを家共同体との関わりで考察することにより、近代学校システムの特質や問題点を明らかにするとともに、これからの教育のあり方を模索していきます。
講義の内容・授業スケジュール	<p>様々な教育問題や近年の教育改革の動向にも触れながら、次のような柱立てで進めていく予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家」が未成立の社会と教育システム ・「家」社会の形成と教育システム ・「家」の解体と近代学校システムの稼働
成績評価の方法	出席状況、学期末レポートなどの総合評価。
教科書	教科書は用いず、必要に応じて資料を配布します。
参考書等	適宜紹介します。
その他	この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名	担当者名
発達と学習の心理学	三國隆子

講義のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人へ。人の発達過程について概観する。 ・発達や個に応じた学習や教育について学ぶ。 ・以上を踏まえ、学校現場で行われる教育や指導のあり方について学ぶ。
講義の内容・授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・発達とは何か ・発達の特徴と発達理論 ・発達観の変遷と教育 ・学習とは何か ・学習と評価 ・意欲と学習（1）動機づけ理論 ・意欲と学習（2）自己効力感
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業でその授業内容についての小テストや課題を提出してもらう。 ・学期末にレポート試験を行う。 ・小テストや課題の提出状況と学期末レポートを総合して評価を行う。
教科書	教科書、参考資料等は、授業中に配布する。
その他	この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

科目名**担当者名****カリキュラムと学習**

三 國 隆 子

講義のねらい

- ・学習指導要領から読み取れる、日本の教育課程を理解する。
- ・カリキュラムと学習の効果について学ぶ。
- ・学校現場で行われているカリキュラムの実際と課題について理解する。

**講義の内容・
授業スケジュール**

- ・我が国の教育課程
- ・学習指導要領の変遷
- ・教授と学習の効果
- ・カリキュラムと学習の効果
- ・学校教育（１）教育制度・カリキュラムの実際について
- ・学校教育（２）教育評価・今後の課題について

成績評価の方法

- ・毎回の授業でその授業内容についての小テストや課題を提出してもらう。
- ・学期末にレポート試験を行う。
- ・小テストや課題の提出状況と学期末レポートを総合して評価を行う。

教科書

教科書、参考資料等は、授業中に配布する。

科目名**担当者名****教育とメディア**いし ぼし たつ や
石 橋 達 也**講義のねらい**

本授業では、情報化が著しく進展していく今日の社会的状況における、新たな教育の在り方について学んでいきます。毎回の授業の前半では、学校教育における情報メディアの利用形態について、その現状を眺めて今後の課題を探っていきます。続いて後半では、インターネットを含めたコンピュータ操作の実習を行ない、コンピュータの利用の優れた特徴と問題点を理解します。その上で、情報メディア活用の教育実践に必要な操作能力の習得を目指すとともに、教師としての役割や姿勢についても検討していく予定です。

**講義の内容・
授業スケジュール**

- 授業の講義内容としては、以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。
- ・教育の情報化の現状と課題
 - ・新たな授業と学習の形態
 - ・小中高の学校現場での取り組みの現状
 - ・外国における教育の情報化の現状
 - ・インターネット利用の影響
 - ・情報メディアリテラシーの意義、など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚した上で、毎回まじめに出席して授業に意欲的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は期末試験の得点を中心にして、毎回の授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教科書

使用する教科書については、初回の授業の中で伝える予定です。

参考書等

授業の中で必要に応じて、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していく予定です。

その他

毎回の授業の中で、インターネット活用やプレゼンテーション資料の作成など、コンピュータ実習の時間があります。初歩的なレベルから始めていきますが、受講学生は「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組む姿勢が大切です。

科目名

担当者名

道徳教育の研究

みどりかわてつお
緑川哲夫

講義のねらい

「道徳教育」の充実、我が国の大きな課題であり、学校教育全体において充実した取り組みが必要である。この「道徳教育」の教育的意義や目標及び指導内容、指導方法等について理論と実践の両面から研究を行い、教師としての指導力を身につけていただきたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 道徳教育の歩み、社会の変化と道徳教育、今求められる心の教育
2. 道徳教育の基本的な在り方、道徳教育の目標、道徳の指導内容
3. 道徳の時間の指導計画、学習指導案の作成、道徳の資料の開発と活用
4. 道徳の授業の改善と充実、魅力ある授業の創造
5. 全教育活動における道徳教育、内面に根差した道徳性の育成
6. 家庭や地域社会と連携、道徳教育の充実のための課題

履修上の留意点

道徳教育の意義をよく理解し、積極的に授業に臨み、具体的な指導計画の作成や指導方法等を身に付けてほしい。

成績評価の方法

出席状況、学習指導案の立案、レポート試験等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説―道徳編―』（財務省印刷局）260円

参考書等

七條正典・押谷慶昭編著『中学校新教育課程の解説―道徳―』（第一法規）1,300円

その他

講義、指導資料の作成、講義内容に則した、小レポートを提出する等

科目名

担当者名

特別活動

みどりかわてつお
緑川哲夫

講義のねらい

「特別活動」は、望ましい集団活動を通して、好ましい人間関係を形成し、社会の一員としての自覚と責任ある態度を身につけるとともに、自己を生かす能力などを養うものである。人間形成に果たす特別活動の役割について研究を深めるとともに、この特別活動の活動内容の取り扱い方及び指導計画の作成、指導方法などについての実践的な指導力を身につけていただきたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 特別活動の歴史の変遷と教育的な意義
2. 特別活動の目標、個と集団の関係
3. 学級活動の特質と生徒指導、ガイダンスの機能の充実
4. 生徒会活動の特質と活動内容、ボランティア活動と地域との連携
5. 学校行事の特質と活動内容、特別活動の評価
6. 特別活動と学級・学年・学校経営、特別活動の課題

履修上の留意点

グループ討議での積極的な発言、創意工夫を生かした指導計画や指導資料作成など意欲的な取り組みを望みます。

成績評価の方法

出席状況、学習指導案の立案、レポート試験等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説―特別活動編―』（ぎょうせい）70円

参考書等

長沼 豊・柴崎直人・林 幸克編著『特別活動概論』（久美株式会社）1,300円

その他

指導案の立案、講義内容に則した小レポートの作成等

科目名	担当者名
生徒指導論(進路指導を含む)	榎本 真理子

講義のねらい

「生徒指導」は「教科指導」「進路指導」と並ぶ教師の役割の一つであり、生徒の人格発達を支える大切な関わりです。日本の伝統的な生徒を「抱える」生徒指導は、現在学級崩壊や子どもの変化、また急速な教育改革の進行により、現在それは困難になっています。具体的な資料に基づいて、現在の状況の理解と生徒指導の変化と展望について考察します。また思春期・青年期のアイデンティティ発達と現状についても紹介する予定です。

講義の内容・授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

授業は講義形式とディスカッションを交えた形で行います。自身の学校体験を記してもらったり、現在の教育改革について自分なりに資料をまとめてもらう機会があります。

成績評価の方法

平常点とレポートによる。授業への参加、授業時の提出物なども評価に加える場合があります。

教科書

必要に応じて資料を配布します。

科目名	担当者名
教育臨床	榎本 真理子

講義のねらい

思春期は対人関係や役割を引き受けることで、生徒の対人的な力や自主性を伸ばしていく大切な時期です。また、学校は学級や授業、教師の指導を通して生徒のそのような成長の機会を提供しています。思春期の生徒（中高生）に対する理解と対応について、基本的な発達上の視点を示した上で、教師・授業実践・スクールカウンセラーそれぞれの発達支援の事例を取り上げる予定です。また、いじめや不登校などのトピックは事例の中で紹介していきます。

講義の内容・授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

授業は講義形式とディスカッションを交えた形で行います。自身の学校体験を記してもらう機会や事例について意見を求めることがあります。

成績評価の方法

平常点とレポートによる。授業への参加、授業時の提出物なども評価に加える場合があります。

教科書

必要に応じて資料を配布します。

科目名	担当者名
総合演習 I (環境・地域)	やまもととしこ 山本敏子
総合演習(2)(子ども・自然・家庭)	

講義のねらい

家庭を中心する人間の暮らしは、人間（特に子ども）が生命過程を維持していく上で最も大切な生存の基盤ともいえるべきものですが、自然と人間との関係が近代になって大きく変容したことにより、今日では、様々な局面で危機的状況に置かれています。私たち人類はどのような難問に直面しており、それを乗り越えつつ人間にとっても生き物にとっても暮らしやすい共同社会を築いていくにはどうしたらよいか。人間の生命過程に直接関わってくる「食」の問題を切り口に具体的に考えていきます。

講義の内容・授業スケジュール

この授業そのものが「総合的な学習の時間」の実践となるよう、授業の進め方については皆さんと共に考え、工夫していきたいと思えます。導入として、鶴見良行『東南アジアを知る—私の方法—』を読みながら、「食」の問題をめぐって考えたい具体的なテーマや方法などを話し合い、その後、実際に調べていきます。最後に各自発表し、レポートとしてまとめます。

履修上の留意点

受講される皆さんの主体的な参加を期待いたします。

成績評価の方法

出席状況や授業時間内の発表、学期末レポート等の総合評価。

教科書

鶴見良行『東南アジアを知る』（岩波新書）780円

参考書等

村井吉敬・鶴見良行編著『エビの向こうにアジアが見える』（学陽書房）3,200円

その他

ゼミ形式で進めます。時間的余裕があれば、フィールドワーク（「歩く・みる・きく」）や図書館での調査も取り入れたいと思えます。

科目名	担当者名
総合演習 I (環境・地域)	やまもととしこ 山本敏子
総合演習(2)(子ども・自然・家庭)	

講義のねらい

科学技術がつくり出す人工物の世界に囲まれて、家庭を中心とする人間の暮らしは、便利で快適になった反面、様々な環境問題を抱え不安なことばかりです。多様で美しい自然、おいしくて安全な空気や水、食べ物等を未来の子どもたちへと受け渡していくために、私たちにできることは何か。地球規模の問題に視野を広げつつ、身近なところから考えていきます。

講義の内容・授業スケジュール

この授業そのものが「総合的な学習の時間」の実践となるよう、授業の進め方については皆さんと共に考え、工夫していきたいと思えます。導入として、石弘之『地球環境報告Ⅱ』を読みながら、環境問題をめぐって考えたい具体的なテーマや方法などを話し合い、その後、実際に調べていきます。最後に各自発表し、レポートとしてまとめます。

履修上の留意点

受講される皆さんの主体的な参加を期待いたします。

成績評価の方法

出席状況や授業時間内の発表、学期末レポートなどの総合評価。

教科書

石弘之『地球環境報告Ⅱ』（岩波新書）660円

参考書等

北村和夫『環境教育と学校の変革』（農文協）2,900円

その他

ゼミ形式で進めます。時間的余裕があれば、フィールドワーク（「歩く・みる・きく」）や図書館での調査も取り入れたいと思えます。

科目名**担当者名**

教育実習Ⅰ

伊藤 茂樹

教育実習Ⅱ

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験を報告により共有したうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

第一回の授業で概要を説明する。第一回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

科目名**担当者名**

社会科教育法Ⅰ

天井勝海

講義のねらい

中学校学習指導要領に示された「社会」の目標、地理的分野と歴史的分野の内容とその取扱い及び指導計画の作成に関する内容を取り上げ、実際の指導内容・方法などを考察し指導の実践的な資質と能力を育てる。

講義の内容・授業スケジュール

1. 中学校社会科の改定の趣旨とその要点
2. 地理的分野の目標とその内容
3. 世界と日本の地域構成
4. 地域の規模に応じた調査
5. 世界と比べてみた日本
6. 歴史的分野の目標とその内容
7. 歴史の流れと地域の歴史
8. 古代・中世・近世の日本
9. 近現代の日本と世界
10. 指導計画の作成とその配慮事項

履修上の留意点

学習指導要領に示された内容を踏まえ、実践的な指導内容や指導方法などについて討論や発表なども行います。主体的で積極的な学習態度が必要です。

成績評価の方法

試験や指導計画の作成、発表、模擬授業の成果などのほかに、授業への参加の状況（出欠席の状況）なども重視し、総合的に評価します。

教科書

『中学校学習指導要領』（文部科学省）

参考書等

授業の際に、ワークシートや資料などのプリントを配付します。

その他

グループ討論や発表学習なども取り込んだ授業となります。

科目名

担当者名

社会科教育法Ⅱ

てんじょうかつみ
天井勝海

講義のねらい

中学校学習指導要領に示された「社会」の目標、公民的分野の内容とその取扱い及び指導計画の作成に関する内容を取り上げ、実際の指導内容・方法などを考察するとともに模擬授業なども行い、指導の実践的な資質や能力を育てる。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 中学校社会科の改定の趣旨とその要点
2. 公民的分野の目標とその内容
3. 現代社会と私たちの生活
4. 国民生活と経済
5. 現代の民主政治とこれからの社会
6. 指導計画の作成と内容の取扱い
7. 指導計画の作成とその配慮事項
8. 資料等の活用と作業的、体験的な学習
9. 選択教科としての「社会」
10. 授業改善と指導内容・方法の工夫

履修上の留意点

学習指導要領に示された内容を踏まえ、実践的な指導内容や指導方法などについて討論や発表なども行います。主体的で積極的な学習態度が必要です。

成績評価の方法

試験や指導計画の作成、発表、模擬授業の成果などのほかに、授業への参加の状況（出欠席の状況）なども重視し、総合的に評価します。

教科書

『中学校学習指導要領』（文部科学省）

参考書等

授業の際に、ワークシートや資料などのプリントを配付します。

その他

グループ討論や発表学習なども取り込んだ授業となります。

科目名

担当者名

社会科教育法Ⅴ(公民)
公民科教育法Ⅰ

こにし かおる
小西 薫

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方まで自分が実際に公民科の授業を行うことを想定して教材を精選し、学習指導案を作成します。できれば、前後期の履修をのぞみます。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 教育の意義
2. 社会科の成立
3. 社会科の意義
4. 高等学校公民科教科構造の変遷
5. 新教育課程の構造的な特色
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 高等学校公民科の指導計画
8. 高等学校公民科の授業設計の意義
9. 高等学校公民科学習指導案の作成
10. 高等学校公民科と思考力を育む授業
11. 高等学校公民科の教育評価

履修上の留意点

教科書の補充としてプリントを配布する場合がありますので、その時間に受け取って下さい。

成績評価の方法

- (1) 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- (2) 定期試験、追試は行いません。小テストを実施する場合は、授業中に行います。

教科書

臼井嘉一・柴田義松編著『社会・地歴・公民科教育法』（学文社）
高等学校教科書『改訂版現代社会』（実教出版）

参考書等

講義に関する参考文献は適宜紹介します。
大田堯『教育とは何か』（岩波新書）
梶一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
文科省『高等学校学習指導要領』
文科省『高等学校学習指導要領解説公民編』

科 目 名**担 当 者 名**

社会科教育法Ⅵ(公民)

こにし 薫

公民科教育法Ⅱ

講義のねらい

後期は、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術を習得し、各自がたてた授業設計・学習指導案をもとに公民科の模擬授業を実践します。授業実践を通じて公民科教師としての資質・力量形成を行います。

**講義の内容・
授業スケジュール**

1. 高等学校公民科の目標
2. 高等学校公民科の内容・取扱い
3. 高等学校公民科の教材開発と手作り教材の活用法
4. 高等学校公民科の板書計画と板書法
5. 高等学校公民科の発問の仕方と指導法
6. 高等学校公民科の学習形態と指導法
7. 4年生による模範授業（授業研究・予定）
8. 公民科教師による授業（授業参観）
9. 模擬授業による公民科の授業実践
10. 高等学校公民科教師論

履修上の留意点

教科書の補充としてプリントを配布する場合がありますので、その時間に受け取って下さい。

成績評価の方法

- (1) 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- (2) 定期試験、追試は行いません。小テストを実施する場合は、授業中に行います。

教 科 書

白井嘉一・柴田義松編著『社会・地歴・公民科教育法』（学文社）
高等学校教科書『改訂版現代社会』（実教出版）

参 考 書 等

講義に関する参考文献は適宜紹介します。
大田堯『教育とは何か』（岩波新書）
槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』（明治図書）
浜上薫『発問づくりの技術』（明治図書）
鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』（明治図書）

科 目 名**担 当 者 名**

商業科教育法

つづらばら まさ のぶ
黒葛原 正 展**講義のねらい**

高等学校商業科の教師を目指す学生が、商業教育に関する基礎的知識を学習すると共に、商業科の教師として備えておくべき指導方法・指導技術を習得する。
「教育とは」「商業教育とは」から「社会における商業の役割」、「商業教育の役割」まで学習し、商業教育の専門家の養成と資質の向上を図る。

講義の内容・授業スケジュール

1. 商業教育の意義
2. 商業の活動と商業教育
3. 商業教育の草創
4. 商業教育の変遷（昭和20年まで）
5. 商業教育の変遷（昭和20年以降）
6. 現行学習指導要領の理解（総則）
7. 現行学習指導要領の理解（商業）
8. 中央教育審議会答申「生きる力」とは
9. 平成15年度からの教育課程
10. 平成15年度からの商業教育
11. 商業各科目の指導目標と指導内容
12. 商業各科目の指導法・指導技術と評価
13. 年間指導計画と年間授業計画
14. 学習指導案の作成
15. 教科書研究－1（必修科目、総合科目）
16. 教科書研究－2（簿記・会計科目・情報科目）
17. 新しい学力観と評価
18. 模擬授業案の作成
19. 模擬授業と評価
20. 商業教育の成果と課題
21. 商業教育の展望
22. 商業科の教育実習
23. 教員採用試験に向けて

履修上の留意点

本講座は、商業科教師を目指す者が学ぶものである。単に単位を修得すれば良いものではなく、積極的に学習し、多くを吸収しようとする熱意が必要である。本講座では、パソコンを使用するので、履修する前にワード、パワーポイントは操作できるようにしておくこと。

成績評価の方法

授業への参加意欲、態度、課題提出、模擬授業、授業内テストなどによって評価。定期試験、追試験はおこなわない。

教 科 書

黒葛原正展他共著『新商業科教育法テキスト』（実教出版）

参 考 書 等

新簿記（実教出版）
ビジネス基礎（暁出版）
その他、必要に応じて紹介する。

講義のねらい

職業科教育法Ⅰをもとに、教育方法・教育技術の向上を目指して、学習指導の実戦力がつくようにパソコンを教具とした教材作り、模擬授業を中心にした授業を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 教材・教具と指導方法・技術
2. 新しい学力観と評価
3. 板書計画と板書法
4. 年間指導計画と授業計画
5. 学習指導案の作成と評価
6. ワードによる学習指導案の作成
7. 自作教材による模擬授業案の作成
8. パワーポイント活用による模擬授業案の作成
9. 模擬授業の評価と授業研究（1）
10. 模擬授業の評価と授業研究（2）

履修上の留意点

本講座では、パソコンを使用するので、ワード、パワーポイントの操作が出来るようにしておく。

成績評価の方法

授業への参加意欲、態度、課題提出、模擬授業、授業内テストなどによって評価。定期試験、追試験はおこなわない。

教科書

授業時に資料を配布する。

参考書等

必要に応じて紹介する。

(2) 教科に関する科目

科目名	担当者名
日本史概説	鈴木 織 恵

講義のねらい

歴史教育の目的は、人類が過去の様々な困難を解決する上で我々に残した叡智を学ぶことで、未来の様々な困難に立ち向かう力を得ることである。例えば、我々が当たり前と思う「常識」は、歴史的・文化的に形成されたものであり、その世代や教育環境によって、各々の「常識」も異なる。こうした事実の無理解によって起こる誤解や偏見が、現代の諸問題の解決を一層困難にすることもある。現代の「常識」が歴史的にどのように変遷してきたのかを理解することで、「常識」を相対化し、相互理解を深める手段として、歴史を学んでほしい。講義では、現代に生きる我々の問題として歴史を身近に考えられるよう、出来るだけ具体的な歴史像の構築につとめたい。現代社会の中で、過去の歴史がどのように解釈されているのか、教科書叙述の問題も視野にいれて検討することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

主に弥生時代から院政期まで、政治史を中心に概説する。具体的な歴史像の構築のために、当該期の庶民の生活や古墳が作られた背景などにもふれた。また授業終了時に書いてもらう感想文によって、わかりにくい箇所については説明を行うが、そのため講義が予定通りに進まないこともある。また高校の模擬授業を想定した指導案の作成にも言及したい。

履修上の留意点

当たり前のことですが、授業中の携帯電話の通話・メールは禁止します。また大きな声で隣の人と話をして、受講中の他の人に迷惑をかけることのないように注意してください。

成績評価の方法

前期のレポートと学期末テストで評価。出席・授業態度も考慮する。

教科書

浜島書店『新詳日本史』（資料集）
随時プリントを配布するので、授業に持ってくること。

参考書等

『日本史B』（山川出版社）や用語集など、高校時代に使用した教科書や参考書があればそれを参考にしてください。その他、辞書類などについては授業中に適宜紹介します。

科目名	担当者名
日本史概説	角田 朋 彦

講義のねらい

歴史学（日本史）は、時間的経過の中でさまざまな事象を多角的に捉え、考察していく学問である。社会科教員としては、これを教える側として学んでいかなければならない。そこで本講義では、特に前近代と呼ばれる古代・中世・近世の歴史を中心に通観し、各時代のさまざまな事象・あり方を考え、教員になる上で必要な日本史に関する最低限の知識や考え方を身につけるようにする。

講義の内容・授業スケジュール

歴史を見る視点は、政治・経済・宗教・文化・生活などさまざまあり、これらを時間軸の中でとらえなければならない。かつ中央と地方、都市と農村といった空間軸の中での比較も必要となってくる。そこで、これらの視点をなるべく平均的にとらえ、大きな流れの中で位置付けていくことによって、各時代の社会のあり方を考えるようにしたい。

成績評価の方法

出席状況を加味しながら、試験によって成績判定をする。

教科書

教科書は特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書等

講義の中で適宜紹介していく。

科目名	担当者名
世界史概説	まつもと ひろ 松本 弘

講義のねらい

本年度の世界史概説の東洋史は、中東の歴史を扱う。近い将来、学生諸君が教職について世界史を担当する際、最も困難を憶える部分は、おそらく中東やイスラームに関わるものであろう。近年、教科書における中東やイスラームに関わる記述は増えており、また中東和平問題やイスラーム原理主義などの報道も大きく扱われている。にもかかわらず、中東は未だ「遠いところ」であり、その理解のための情報提供や教育はますます困難さを増しているように思われる。それゆえ本講義では、イスラーム成立以後の中東の歴史を詳解し、学生諸君が教職につくという前提の下、中学及び高校において中東やイスラームに関する授業を行うために、最低限必要な情報と解説を示すことを講義の目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) (1) 授業の目的と予定 (2~5) 中東の地域概念、国や民族・宗教の構成、中東一神教世界(ユダヤ教、キリスト教、イスラーム)などの概説 (6・7) イスラームの成立 (8・9) ウマイヤ朝・アッバース朝 (10・11) イスラーム法学 (12・13) イスラーム神学 (14~15) オスマン帝国 (16・17) 中東の近代概説 (18・19) ナショナリズムの時代 (20~22) 中東和平問題の歴史と現状 (23~25) イスラーム原理主義の史的展開 (26) 現代中東の民主化

履修上の留意点

中東の歴史を、現代の状況や諸問題からも考えていく作業となるので、中東やイスラームに関わる新聞報道(特に国際面)の見出しだけでも、毎日見る習慣を身につけて欲しい。

成績評価の方法

前期末および学年末のテストによって、評価する。

教科書

特に用いない。

参考書等

適宜、プリントなどで指示する。

科目名	担当者名
地誌学概説	かわもと とよかず 川元 豊和

講義のねらい

南アジア・東南アジアの地誌について授業を進める。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、まず、アジアの地域的特色を主として、人口・農業・宗教の側面から概観する。次に、バングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。後期は、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴や工業化・都市化にともなう村落の変貌などについて、最近の地域研究の成果を紹介してゆきたい。なお、受講者が少人数の場合には、後期において、受講者による9月末に提出するレポートの内容発表も予定している。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席(授業回数数の2/3以上)及び9月末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験(または後期におけるレポート発表と12月末のレポート提出)を併せて総合的に評価する。

教科書

特に定めず、プリントを配布する。

参考書等

授業内において、その都度紹介する。

その他

講義形式。

科目名	担当者名
地誌学概説	わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫

講義のねらい

この講義では、学生諸君が教職につく時の基本事項、または就職試験の時の一般教養（人文科学系）問題が解けることを目標として、進めます。

次に地理学の一つの見方である地誌を、「ある場所」を具体的にとり上げ、その場所にはさまざまな自然環境（気候、地形など）や社会環境（サービス業、農業など）があり、この中にさまざまな人間活動が営まれている。これらを総合的に分析をし、その現象を明らかにしていく方法を考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは前期にある場所の自然環境を理解するために気候地形そして地形図の基礎的なことを学習する。後期には各国を地誌的な見方で説明する。

履修上の留意点

基本的には、学生諸君が日本や世界各国の様子を「何んでそこにその様な現象があるのか」という疑問で接してほしい。地誌学または地理は暗記の科目ではない。また講義を聞く時には、高校時代に使った地図帳を必ず持参して下さい。その方が理解が早くなります。

成績評価の方法

年度末に定期試験があり、これに出席の様子を加えています。答えは自分が他の人に説明をし、理解してもらえる様に書いて下さい。その方が勉強になります。

教科書

教科書等については、特に指定しません。講義の進行に合わせて、プリントを配布します。このプリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

科目名	担当者名
人文地理学概説	わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫

講義のねらい

ある場所の自然環境の上には、さまざまな人間活動が行われています。この人間活動を産業の点から講義を進めます。

講義の内容・授業スケジュール

前期に人文地理学の研究方法を説明し、後期には、具体的な人間活動（産業）についてプリントを配布しながら説明します。

履修上の留意点

高校時代に使用した地図帳を持参して下さい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験と出席とを総合して評価します。

教科書

教科書については、特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布します。プリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

科 目 名	担 当 者 名
自然地理学概説	すずき りんたろう 鈴 木 倫太郎
講義のねらい	自然地理学の分野のうち、地形の形成過程や自然環境の生い立ちについての講義を中心に、人間と自然・災害・環境との関りについて、地域事例を用いながら論じる。
講義の内容・授業スケジュール	前期：1. 地球の概観 2. 地球の気圏と水圏 3. 地形形成史① 後期：1. 地形形成史② 2. サンゴ礁地域の自然 3. 人間と自然環境
履修上の留意点	講義が中心となるが、受講生が講義内容に対する考えや理解を持ってもらうため、不定期的にレポートの提出を求める。
成績評価の方法	学年末の定期試験の結果と、レポート提出等の平常点も加味しておこなう。
教科書	特に指定しない。授業時にプリントを配布する。
参考書等	鳥山隆三編『教養の地学』（朝倉書店） 酒井治孝著『地球学入門』（東海大学出版）

科 目 名	担 当 者 名
宗教学概説	たなか のこ 田 中 かのこ

講義のねらい	「いのち」あるすべてのものにとって、生まれ、老い、病んで、死んでゆくことは、思いどおりにならない苦であると同時に、生きてゆくことに尊い意味を見出すための、かけがえのないプロセスといえるでしょう。皆さんが教員として向かい合うことになる生徒たちにも、それぞれの生き方・考え方があります。その方向付けを助け、励ます大人の一人として、より深く広い視野に立って、この世界や人生の大切さを示すことができれば、心強いですね。皆さん御自身の体験してきたことを活かす以外に、これまで人類が持ちつづけてきた様々な死生観や世界観を俯瞰することによって、人間の生きる智慧や問題解決のヒントを探す、という試みも、一度はやってみる価値があるのではないのでしょうか。 本講では、世界の諸宗教にみられる「いのち」の教育に着目し、老いも若きも無関心のままではいられない生死の問題について考えます。
講義の内容・授業スケジュール	まずは、受講生の関心事についてディスカッションをおこなってから、諸宗教における生命尊重の思想と実践について、少しずつ概説してゆきます。
履修上の留意点	受講生が、その日のテーマをもたらし、次々にトピックを変えながら、各自の意見を様々に飛び交わす状況が望ましい。
成績評価の方法	自由に論述できるレポート課題（独創性と文章力を重視）、受講態度、出席状況。
教科書	拙著『比較宗教学—「いのち」の探究—』（北樹出版）2004年
その他	映画のなかで取り上げられている宗教文化や宗教問題についても、折にふれ、解説します。

科目名	担当者名
宗教学概説	須藤寛人

講義のねらい

宗教学的視座を養うことが本講義の目的です。多くの日本人にとって、宗教は、必ずしも明確な形を持ったものではありません。しかし、人間や文化を理解することの、すべてではないにしても、その一部は宗教を理解することによって可能となるものであると考えられます。特に、現在の世界情勢は、宗教との関わり無しには、理解しがたいものがあります。本講義では、現代の国際関係を理解するためにも、諸宗教についての知識が不可欠であると思われるので、現代につながるようなかたちで、宗教を概観したいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

a. ユダヤ教について b. キリスト教について c. イスラム教について
d. 仏教について（原始仏教～日本仏教） e. 儒教について

上記の諸宗教について概観しながら、宗教と現代社会、宗教と人々、宗教と文化といった点についての解説を行います。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないでください。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中には着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポート並びにと学期末のレポートを中心に、出欠状況と合わせて総合的に評価します。

教科書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

参考書等

授業の流れに応じて、適宜、紹介したいと思います。

科目名	担当者名
哲学概説	河谷淳

講義のねらい

本講義では哲学史上のいくつかのパラドックス（逆説・逆理）を題材として取り上げながら、哲学の諸問題（認識論・存在論・行為論）について考えてみることにしたい。「パラドックス（paradox）」とは日常的な思いなし（ドクサ）から逸脱しているように見える議論や主張のことであって、哲学という営みが、ソクラテスのように無知を自覚し、世界についての見方を学び直すことであるとするならば、パラドックスを導きの糸として思考をめぐらすことは「哲学する」ことそのものだとも言えよう。この講義ではいくつかの有名なパラドックスを取り上げることで哲学的な思考方法を実感してもらうことを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

前期は哲学の基本的な概念や思考方法に慣れてもらうために、哲学の始まりとしてのギリシア哲学を中心とした講義を行い、後期はテーマ別の講義を行う予定である。具体的には次のようなパラドックスを題材とする予定である。

前期：ゼノンのパラドックス（運動や時間は実在するのか）

ソクラテスのパラドックス（知りながらにして悪をなすことはありうるか）

探求のパラドックス（知らないことを探究することはできるのか）

後期：囚人のディレンマ（利己的な行為はなぜいけないのか）

未来をめぐるパラドックス（抜き打ち試験のパラドックス、自由と決定論とは両立するのか）

芸術をめぐるパラドックス（人が悲しいドラマを見たがるのはなぜか）

履修上の留意点

授業を受け身的に聴くというよりは一緒に問題を考えていくという積極的な姿勢が望ましい。

成績評価の方法

前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験（40点満点×2）ならびに夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

参考書等

三浦俊彦『論理パラドクス』『心理パラドクス』（二見書房）

科目名	担当者名
政治学原論	おおつか 大塚 桂

講義のねらい

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377（直）です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容・授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、および方法

B 政治の原理的究明

(1) 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

(2) 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

(3) イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権（シティズンシップ）

C 政治の思想（史）的究明

D 政治の実体論的究明

(1) 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

(2) 機能論的究明

～政党、圧力団体

成績評価の方法

本年度もまた、受講者との相談のうえ A・B 両方式のうちのいずれかに決定します。

A 方式（レポートによる単位認定）

複数回（前・後期）のレポートを提出してもらい成績を評価します。課題報告（レポート）の作成をとおして、文献の読解力と書く能力を涵養します。

B 方式（試験による単位認定）

中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。

※A 方式の場合には、追試験は実施しません。B 方式は、実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

参考書等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

科目名**担当者名****産業概説**こうのやすのり
幸野保典

講義のねらい

本講義は二部構成とし、第1部では、産業の一般的な概念規定および産業論研究の系譜などを概観し、産業とは何かについて考察する。

第2部では、日本における産業構造がどのように変化してきたかを、戦前と戦後に分けて検討する。前者については、戦間期および戦時下の産業構造についての概要を述べ、その特徴を明らかにする。本講義の中心となる戦後の産業構造については、経済復興期から現在にいたるまでに、個別産業がどのように展開してきたかを検証し、また新たに誕生した産業がどのような地位を占めるにいたったかを考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

第1部 産業とは何か。1. 産業の概念規定 2. 産業分類 3. 日本標準分類 4. 産業論研究の系譜（課題と方法）

第2部 日本における産業構造。1. 産業構造論の意味 2. 戦間期の産業構造 3. 戦時下、経済統制と産業構造 4. 戦後の産業政策の展開 5. 現代の産業構造（個別産業の発展）a. 鉄鋼業、b. 造船業、c. 家電産業、d. 自動車産業、e. コンピュータ産業など

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

レポートおよび試験を行う予定。

教科書

特に指定しないが、毎回レジュメを配布する。

参考書等

水口和寿『現代産業概論』（昭和堂）1984年
鶴田俊正・伊藤元重『日本産業構造論』（NTT出版）2001年
大西勝明・二瓶敏編『日本の産業構造』（青木書店）1999年
武田晴人編『日本産業発展のダイナミズム』（東京出版会）1995年

その他

講義形式で行うが、受講者数が少ない場合はゼミ形式を併用する。

科目名	担当者名
商業実習	<small>こう</small> 洪 <small>としむ</small> 利志生

講義のねらい	中学校・高等学校における商業に関する基礎的・実務的な知識・技術を習得する。
講義の内容・ 授業スケジュール	商業の機関と機能 <ul style="list-style-type: none"> ・産業の変化 ・消費生活と商品 ・物流について ・金融機関 ・小切手・手形 ・保険の種類 ビジネス文書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・文書作成の基本 ・文書の書式 ・文書の書き方と文例 簿記について <ul style="list-style-type: none"> ・簿記の基本原理 ・諸取引の処理 ・決算報告書
成績評価の方法	出席・レポート提出で評価
教科書	プリント配布
参考書等	授業中に適宜紹介

講義のねらい

- ・職業指導と学校教育における進路指導についての考え方を確立する。
- ・生徒が自己の生き方を自覚し、自己の能力を発揮し、職業（進路）選択を決定できるように指導方法を学習する。

講義の内容・授業スケジュール

- 職業指導の意義
 - ・職業と社会
 - ・職業指導の歴史
 - ・職業指導と職業教育
 - ・職業指導の定義
 - ・職業適性について
- 学校教育における進路指導
 - ・進路指導の基本的な考え方
 - ・進路指導における情報資料
 - ・進路指導と学校組織
 - ・進路適性について
 - ・進路指導の計画と評価

成績評価の方法

出席・レポート提出で評価

教科書

プリント配布

参考書等

授業中に適宜紹介

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
学校経営と学校図書館	司書教諭 2・3・4 必	半期	2	松尾不二夫	141
	司書教諭 (短大) 1・2 必				
読書と豊かな人間性	司書教諭 2・3・4 必	半期	2	松尾不二夫	142
	司書教諭 (短大) 1・2 必				
学校図書館メディアの構成	司書教諭 2・3・4 必	半期	2	源昌久	142
	司書教諭 (短大) 1・2 必				
学校図書館メディアの構成	司書教諭 2・3・4 必	半期	2	篠田耀子	143
	司書教諭 (短大) 1・2 必				
情報メディアの活用	司書教諭 2・3・4 必	半期	2	源昌久	143
	司書教諭 (短大) 1・2 必				
情報メディアの活用	司書教諭 2・3・4 必	半期	2	篠田耀子	144
	司書教諭 (短大) 1・2 必				
学習指導と学校図書館	司書教諭 2・3・4 必	半期	2	松尾不二夫	144
	司書教諭 (短大) 1・2 必				

科 目 名	担 当 者 名
学校経営と学校図書館	まつ お ふじお 松 尾 不二夫

講義のねらい

学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の理念、発達過程と課題・教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的な理解をめざす。また司書教諭の任務と担うべき役割を明確にし、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性にもふれる。さらに、学校図書館のメディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的な理解を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の発展と課題
- 3 教育行政と学校図書館
- 4 学校図書館の経営
- 5 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修
- 6 学校図書館メディアの選択と管理・提供
- 7 学校図書館活動
- 8 図書館の相互協力とネットワーク

履修上の留意点

出席を重視し、遅刻・欠席をするような人は十分注意すること。

成績評価の方法

平常点およびレポート・小テスト等を合わせて評価する。

教 科 書

特に指定しない。随時プリント配布。

参 考 書 等

「学校図書館学」編集委員会編『学校図書館学 1 学校図書館の原理と運営』1,400円
ISBN4-88367-044-9
福永義臣編著『学校経営と学校図書館』（樹村房）1,800円 ISBN4-88367-044-9
全国学校図書館協議会編『司書教諭の任務と職務』（全国学校図書館協議会）2,800円
ISBN4-7933-0048-0

そ の 他

講義・ビデオ

科目名**担当者名**

読書と豊かな人間性

まつおふじお
松尾不二夫**講義のねらい**

現代社会に生きる子どもの発達や、読みの多様化などの進展している実態に即した読書教育の理念を探る。さらに、子どもたちの読書生活の実情と読書資料の現状についての理解に基づき、子どもと本と結びつけ、読書の生活化を図る方法を探る。これらを通じて子どもたちの豊かな人間性の涵養に資するため、司書教諭の役割と自らの責務を中心に、活動の原理と方法、技能についても具体的に体得してもらう。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 読書の意義と目的
- 2 子どもの読書実態と指導
- 3 読書資料の種類と活用
- 4 発達段階に応じた読書指導
- 5 子どもと本を結ぶための方法
- 6 読書指導推進活動と教員の責務
- 7 地域社会の関連施設等との連携
- 8 演習

履修上の留意点

出席を重視し、遅刻・欠席をするような人は十分注意すること。

成績評価の方法

平常点およびレポート・小テスト等を合わせて評価する。

教科書

特に指定しない。随時プリント配布。

参考書等

赤星隆子編著『読書と豊かな人間性』（樹村房）1,800円 ISBN4-88367-046-5
天道佐津子編著『読書と豊かな人間性の育成』（青弓社）1,800円
ISBN4-7872-0032-1

その他

この科目の受講は下記の1、2を修了してからが望ましい。
1、学校経営と学校図書館（前期）
2、学習指導と学校図書館（前期）
講義・演習（読みきかせ・ブックトーク等）

科目名**担当者名**

学校図書館メディアの構成

みなもとしょう
源昌久**講義のねらい**

本講義は、学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る。

講義の内容・授業スケジュール

1) 学校図書館メディアの概念的フレーム・ワーク 2) 分類法（表）の解説・演習 3) 目録の解説・演習 4) 資料組織の機械化 5) 多様な学習環と学校図書館メディアの配置

履修上の留意点

予習・復習をしっかりと行ってほしい。

成績評価の方法

平常点および試験の成績を併せて評価する。

教科書

『日本十進分類法 改訂9版』（日本図書館協会）セット定価 6,000円
『日本目録規則 1987年版 改訂版2版』（日本図書館協会）3,500円

参考書等

講義中に指示する。

その他

必要に応じて、ビデオを活用する。

科 目 名	担 当 者 名
学校図書館メディアの構成	しの だ よう 子 篠 田 耀 子

講義のねらい	(1) 多様化するメディアを学校図書館ではどのように収集し、保管・整備していったらよいか (ア) 教科指導上 (イ) 児童・生徒の人間形成を考慮しての構成を考える。 (2) 収集・保管・整備した資料を有効に活用されるべく、環境を整える方法 (分類目録等) 本講座では、上記2項目について、演習を混じえて、基礎的な能力を養います。
講義の内容・授業スケジュール	(1・2) 学校図書館におけるメディアの種類と特性 (3・4) 学校図書館メディアの構築 (5～8) 分類 (9～13) 目録
履修上の留意点	分類・目録の項では、演習を取り入れます。学校図書館では、まだまだ電算化されているところは少ないので、真剣に分類番号の決め方・目録カードの記入の方法など学んでもらいたいと思います。
成績評価の方法	5時間以上の欠席は、評価対象外となります。15分までの遅刻は認めますが、遅刻3回で1欠席とします。 試験は行いません。(定期試験) 分類と目録のところで、演習を行ない、小テストを実施。演習を4回行なう予定ですが、1回も受けない場合とレポートを提出しない場合も評価対象外とします。 4年生の場合、分類・目録の講義をほとんど受講しないこととなりますので、補講を行ない、かつ実習校での学校図書館に関するレポートを提出してもらいます。
参考書等	随時プリントを配布。 「新学校図書館学」編集委員会編『新学校図書館学2 学校図書館メディアの構成』(全国学校図書館協議会発行) 1,400円
その他	現役の司書教諭という立場で、学校図書館の現状と将来への展望など実践を活かした授業を心がけたい。

科 目 名	担 当 者 名
情報メディアの活用	みなもと しろう 昌久

講義のねらい	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。
講義の内容・授業スケジュール	1) 情報化社会と人間 2) 情報メディアの特性と選択 3) 視聴覚メディアの活用 4) 学校図書館におけるコンピュータの活用 5) 情報検索
履修上の留意点	予習・復習をしっかりと行ってほしい。
成績評価の方法	平常点および試験の成績を併せて評価する。
教科書	(社)情報科学技術協会編『CD-ROM 版情報検索の演習 新訂版』(日外アソシエーツ) 2,200円
参考書等	講義中に指示する。
その他	必要に応じて、ビデオを活用する。

科目名**担当者名**

情報メディアの活用

篠田 耀子

講義のねらい

学校図書館は、学校内における情報サービスや情報処理のためのセンターとなるべく施設です。

メディアに対応する図書館をめざし、学校教育に必要なメディアを準備し、それが十分活用される環境を整えなければなりません。「調べ学習」「総合学習」等での学校図書館の利用時には、メディアスペシャリストとしての司書教諭の資質が問われる昨今であることを認識し、対応できる能力を養う努力をする。とくにメディア・リテラシー教育は不可欠の指導分野である。インターネット利用上の留意点等、各自各種のメディアからの情報収集してのレポートは、児童・生徒指導上たいへん重要なものです。

講義の内容・授業スケジュール

- (1・2) 高度情報化社会と人間
- (3・4) 情報メディアの特性と選択
- (5～7) 視聴覚メディアの活用
- (8・9) コンピュータ活用と情報検索
- (10・11) メディア・リテラシー
- (12・13) 情報メディアと著作権

履修上の留意点

出欠席状況を重視しますので、遅刻・欠席には十分注意してください。

成績評価の方法

5時間（5回）以上の欠席は、評価対象外。15分までの遅刻は認めるが、その遅刻も3回で1欠席とする。

レポートを2回提出。メディア・リテラシーに関するレポートと自分のメディア史の2本で、各自相当の時間をかけないと仕上がらないレポートである。この2本のレポートと出欠席状況を合わせて評価します。

参考書等

「新学校図書館学」編集委員会編『新学校図書館学5 情報メディアの活用』（全国学校図書館協議会発行）1,400円
随時、プリント配布。

科目名**担当者名**

学習指導と学校図書館

松尾 不二夫

講義のねらい

学習において学校図書館が果たすべき役割は大きい。学校図書館は、児童・生徒が「自分で調べて学ぶ」学習を中心に、教育活動がさまざまな場面で、メディアを積極的に利用するよう指導し、それを活用する能力の育成を図らなければならない。

この科目は、その原理と方法を学ぶと共に教師に対するサービス・支援のあり方に関し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 教育課程の展開と学校図書館
- 2 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- 3 児童・生徒の学校図書館メディア活用能力の育成
- 4 学習過程における学校図書館メディア活用の実際
- 5 学習指導における学校図書館の利用
- 6 学校図書館における情報サービス
- 7 教師への支援と働きかけ

成績評価の方法

出席を重視し、遅刻・欠席をするような人は十分注意すること。

教科書

特に指定しない。随時プリント配布。

参考書等

朝比奈大作編著『学習指導と学校図書館』（樹村房）

その他

講義・ビデオ（本の紹介）

Ⅲ 社会教育主事講座

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
社会教育計画	社教主事2必	通年	4	萩原建次郎	149
生涯学習概論Ⅰ	社教主事2必	半期	2	豊田千代子	149
生涯学習概論Ⅱ	社教主事2必	半期	2	豊田千代子	150
社会教育実習	社教主事3必	通年	4	豊田千代子	150
社会教育実習	社教主事3必	通年	4	萩原建次郎	151

(2) 選択必修科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
社会教育行政	社教主事2・3・4選	通年	4	荒井隆	152
社会教育施設	社教主事2・3・4選	通年	4	萩原建次郎	152
成人学習論	社教主事2・3・4選	通年	4	荒井隆	153
ジェンダーと教育Ⅰ	社教主事2・3・4選	半期	2	高井葉子	153
ジェンダーと教育Ⅱ	社教主事2・3・4選	半期	2	高井葉子	154
職業教育Ⅰ	社教主事2・3・4選	半期	2	塩川正人	154
職業教育Ⅱ	社教主事2・3・4選	半期	2	塩川正人	155
社会体育Ⅰ	社教主事2・3・4選	半期	2	吉田実生	155
社会体育Ⅱ			2		
教育の思想	社教主事2・3・4選	半期	2	豊田千代子	14
教育の思想	社教主事2・3・4選	半期	2	北村三子	14
教育の思想	社教主事2・3・4選	半期	2	伊藤茂樹	15
教育の思想	社教主事2・3・4選	半期	2	萩原建次郎	15
教育の思想	社教主事2・3・4選	半期	2	坂本信昭	16
教育と社会	社教主事2・3・4選	半期	2	豊田千代子	16
教育と社会	社教主事2・3・4選	半期	2	北村三子	17
教育と社会	社教主事2・3・4選	半期	2	伊藤茂樹	17
教育と社会	社教主事2・3・4選	半期	2	萩原建次郎	18
教育と社会	社教主事2・3・4選	半期	2	坂本信昭	19
発達と学習の心理学	社教主事2・3・4選	半期	2	小倉康仁	19
発達と学習の心理学	社教主事2・3・4選	半期	2	大浜幾久子	20
発達と学習の心理学	社教主事2・3・4選	半期	2	三國隆子	20
発達と学習の心理学	社教主事2・3・4選	半期	2	飯田都	21
発達と学習の心理学	社教主事2・3・4選	半期	2	角野善司	22
教育とメディア	社教主事2・3・4選	半期	2	小倉康仁	26
教育とメディア	社教主事2・3・4選	半期	2	石橋達也	27
教育とメディア	社教主事2・3・4選	半期	2	芝崎順司	27
視聴覚教育	社教主事2・3・4選	通年	4	佐野博彦	163
教育社会学	社教主事2・3・4選	通年	4	伊藤茂樹	82
教育史	社教主事2・3・4選	通年	4	山本敏子	83
教育調査	社教主事2・3・4選	通年	4	鈴木規夫	83
社会心理学	社教主事2・3・4選	通年	4	休講	
青少年文化	社教主事2・3・4選	通年	4	古関すま子	156
現代社会の諸問題と教育Ⅰ	社教主事2・3・4選	半期	2	鈴木朋実	156
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	社教主事2・3・4選	半期	2	鈴木朋実	157

青少年指導演習	社教主事 2・3・4 選	通年	4	西村寛子	157
青少年問題研究	社教主事 2・3・4 選	通年	4	讃岐真佐子	84
博物館学Ⅰ（概論）	社教主事 2・3・4 選	半期	2	太田喜美子	164
博物館学Ⅱ（資料論）	社教主事 2・3・4 選	半期	2	岸上興一郎	164
情報メディアの活用	社教主事 2・3・4 選	半期	2	源昌久	143
情報メディアの活用	社教主事 2・3・4 選	半期	2	篠田耀子	144
読書と豊かな人間性	社教主事 2・3・4 選	半期	2	松尾不二夫	142

(1) 必修科目

科目名	担当者名
社会教育計画	はぎわら けんじろう 萩原 建次郎
講義のねらい	社会教育・生涯教育のさまざまな学習場面で取り入れられている参加型による学習プログラムを体験し、受講者自らが学習プログラムを企画・運営していく力を養いたい。
講義の内容・授業スケジュール	内容構成を以下のように考えている。 ①学習プログラムのしくみと構造 ②学習プログラムの企画・立案力 ③学習プログラムのデザイン力 ④学習プログラムの運営力 ⑤参加型学習の手法と実際
履修上の留意点	受講者数を見て判断するが、できるだけ参加型学習で行いたい。その場合、受講者の参加意欲が学習成果に反映されることを心にとめておいて欲しい。一定のグループで作業することが多いため、出席を重視する。
成績評価の方法	レポート、授業への参加度、出席状況などを総合して判断する。
教科書	廣瀬隆人、澤田実、林義樹、小野美津子『生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方』（ぎょうせい）1,429円
その他	授業方法はワークショップ中心だが、必要に応じて講義も行う。

科目名	担当者名
生涯学習概論 I	とよた ちよこ 豊田 千代子
講義のねらい	この授業では、ユネスコや OECD などの国際機関やわが国における生涯教育・生涯学習について、理念や思想、歴史、制度、政策、子どもやおとなの発達を支える学習といったさまざまな点から検討し、それを通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えることを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	・生涯教育・生涯学習の理念、思想、歴史 ・生涯教育・生涯学習の制度、政策 ・生涯学習と学校教育（生涯学習の拠点としての学校、子どもの育つ学校・地域づくりなど） ・生涯学習と社会教育（生涯学習の拠点としての公民館、完全学校週5日制と子どもの居場所など）
成績評価の方法	出席状況、レポート等により成績評価を行なう。
教科書	教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考書等	適宜紹介する。

科目名**担当者名****生涯学習概論Ⅱ**とよ た ちよこ
豊 田 千代子**講義のねらい**

この授業では、学校教育と社会教育について、それぞれ理念、思想、歴史、制度等を検討し、これらの教育における今日的課題を整理するとともに、子どもや若者やおとなを対象とした学習活動に着目し、学習者の成長や発達につながる学習プロセスの組織化の方法等について考察することを目的とする。

**講義の内容・
授業スケジュール**

- ・生涯学習時代における学校教育
 - ・学校教育の理念、思想、歴史、制度
 - ・学校教育をめぐる今日的課題
 - ・子どもの成長・発達と学習
- ・生涯学習時代における社会教育
 - ・社会教育の理念、思想、歴史、制度
 - ・社会教育をめぐる今日的課題
 - ・子ども、若者、おとなの成長・発達と学習

成績評価の方法

出席状況、レポート等により成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

科目名**担当者名****社会教育実習**とよ た ちよこ
豊 田 千代子**講義のねらい**

公民館、図書館などの社会教育施設や、教育委員会での実習をとおして、社会教育についての理解を深めることを目的とする。

**講義の内容・
授業スケジュール**

- 事前指導
- ・実習の心がまえ
 - ・社会教育実践について
社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、紹介する。
- 訪問指導
- ・実習先訪問指導
- 事後指導
- ・実習のふり返り
実習をとおして考えたこと、学んだことなどについて報告してもらう。

成績評価の方法

(1) 実習ノート (2) 実習報告 (3) 授業への参加度

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

科目名**担当者名****社会教育実習**はぎ わら けん じろう
萩原 建次郎

講義のねらい

社会教育施設や教育委員会での実習をとおして、社会教育の実践に触れるとともに、社会教育への理解を深めることを目的としている。

**講義の内容・
授業スケジュール**

- ・実習事前指導として、社会教育実践の事例を調べて具体的イメージをつかみつつ、実習の意義や心がまえの理解を目的としたい。
- ・実習中には個別訪問指導をおこなう予定である。
- ・実習の事後指導として実習ノートと体験レポートをもちより、お互いの体験を共有し、深め合う場をつくりたい。その中から「社会教育職員の役割や専門性」「学習課題」「学習者理解」などテーマを抽出して、社会教育への理解を深めていきたいと考えている。
- ・実習後に、受講生中心で実習報告書づくりを行う。

成績評価の方法

実習ノート、体験レポート、実習報告書、授業への参加度などを総合して判断する。

教科書

教科書・参考書はそのつど提示する。

参考書等

教科書・参考書はそのつど提示する。

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名
社会教育行政	荒井隆

講義のねらい

社会教育行政現場で長い間実践を続けてきた立場からの講義により、実践的な社会教育の見方を身につけることを目指します。社会教育の諸側面を行政の視点から多角的に解説していきます。理論的な課題にもふれますが、体験に基づく実践的な話を織り交ぜた講義です。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 私の社会教育行政の体験談
- ② 社会教育行政の法体系としくみ
- ③ 東京23区の社会教育行政の特徴
- ④ 社会教育主事の職務
- ⑤ 最近の社会教育行政の動向

履修上の留意点

社会教育の基礎知識があればより深く理解ができますが、初めて社会教育の講義に参加する場合でも、体験に基づきわかりやすい講義をしますので、安心して参加してください。

成績評価の方法

出席及び試験内容等をもって評価します。

教科書

特に使用しません。

参考書等

講義に関係する参考書を随時紹介します。

その他

固い講義題ですが、中身はアットホームな雰囲気をもとに心が通いあう授業にします。

科目名	担当者名
社会教育施設	萩原建次郎

講義のねらい

社会教育施設の歴史と理念をひも解きながら、現在多様に展開している社会教育関連施設の現状やそこでの取り組みを理解し、社会教育施設の課題と展望を考察していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 社会教育施設の歴史と理念
 - ・ 公民館の歴史と理念
 - ・ 図書館の歴史と理念
 - ・ 博物館の歴史と理念
 - ・ 社会体育施設の歴史と理念
- ② 社会教育関連施設の現状と取り組み
 - ・ 青少年施設（少年自然の家・青年の家・児童館など）
 - ・ 女性センター
 - ・ 生涯学習センター
 - ・ 文化施設（市民ホール・市民会館）
 - ・ 学校教育施設（学校開放・大学開放）
 - ・ スポーツセンター
- ③ 社会教育施設の課題と展望
 - ・ 子ども・若者の居場所づくり
 - ・ 施設職員の役割-ロビーワークの意義など
- ④ 世田谷区内の社会教育関連施設

履修上の留意点

夏休みなどを使って、社会教育関連施設をフィールドワークする予定。

成績評価の方法

平常点、レポートにより評価する。

教科書

そのつど紹介する。

参考書等

そのつど紹介する。

科目名	担当者名
成人学習論	荒井 隆

講義のねらい	成人の学習について、生涯学習時代といわれる今日、私たちはその具体的な姿を身近に見られるようになりました。講義ではその実像の一端にふれて、成人の学習のリアリティに接し、生涯学習の意義を理解するとともに、自らの生涯学習の一助となることを目指します。
講義の内容・授業スケジュール	① 子どもの学習と比較した大人の学習 ② 成人の学習形態いろいろ ③ 成人の学習事例～自分史～ ④ 成人の学習事例～文字を獲得する学習／識字～ ⑤ 成人の学習のあり方
履修上の留意点	実践に基づく授業です。本からの理解と異なり、成人学習の現実から学ぶ方法を重視します。学校教育と少し趣きの異なる成人の学習に興味をもつ人の参加を期待しています。
成績評価の方法	出席及び試験内容等を参考に、総合的に評価します。
教科書	特に使用しません。
参考書等	授業で随時紹介します。理解を深めるため授業で使用する場合があります。
その他	卒業後に生きて働く力を身につけることを目指します。

科目名	担当者名
ジェンダーと教育 I	高井 葉子

講義のねらい	私が担当する総合演習（「ジェンダーと教育」）は、前期と後期にあります。どちらか一つを受講することも可能ですが、可能な限り両方を受講して下さい。どちらも、貧困、差別、暴力など、現代社会が抱える問題をジェンダーや学校教育との関連で取り上げ、学生諸君の発表を中心に授業をすすめます。前期は、家族や子どもをめぐる社会問題をジェンダーとの関連で理解します。いずれも、学校教育、社会教育に携わる者にとって重要な問題ですが、単に理解するだけではなく、これらの問題にどのように取り組むことができるか、どのように指導したらよいかを考える場にします。
講義の内容・授業スケジュール	講義内容の柱は次の通りです。①近代家族とジェンダー ②家族・暴力・ジェンダー ③子育てとジェンダー ④子ども・学校・ジェンダー。授業でとりあげる具体的な問題は、「ドメスティック・バイオレンス」、「児童虐待」、「スクール・セクシュアル・ハラスメント」、「単親家族」などです。
成績評価の方法	出席（10%）、発表（40%）、レポート（50%）。成績評価の条件については、最初の授業で詳しく説明します。
教科書	最初の授業時に説明します。

科目名**担当者名**

ジェンダーと教育Ⅱ

たか い よう こ
高 井 葉 子

講義のねらい

前期の「総合演習(13)(ジェンダーと教育Ⅰ)」では、ジェンダーに関連する具体的な問題をあらかじめ設定し授業をすすめました。後期の演習では、教育学の知見や理論を紹介しながら、教育とジェンダーの問題をより広い範囲で考えます。また、各テーマに関連した問題を受講者の関心領域から選び授業時に発表してもらいます。

講義の内容・授業スケジュール

この演習で扱う内容は次の通りです。
①日本の教育とジェンダー ②教育制度とジェンダー ③教育投資とジェンダー
④教育機能とジェンダー ⑤学校文化とジェンダー

成績評価の方法

出席(10%)、発表(40%)、レポート(50%)。成績評価の条件については、最初の授業で詳しく説明します。

教科書

最初の授業時に説明します。

科目名**担当者名**

職業教育Ⅰ

しお かわ まさ と
塩 川 正 人

講義のねらい

本授業の目的は「就職試験に役立つ授業」この一点にあります。なぜなら大学生活の総決算は「就職」を成功したか否かです。どんなに素晴らしい大学生活が過せても、最終段階の就職に失敗すると「未来」への道を見失うことになります。つまり「就職スキル」のある人とな人は、その先の人生の明暗を分けると言っても過言ではありません。

「職業教育」は、教員・公務員・民間企業など、どの道を選ぶにも必須の「就職スキル」を体得する授業です。

講師は就職コンサルタント。ゆえに人事・採用責任者の立場から、実践そのままの就職スキルを学生諸君に伝えます。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 学生と企業人の違い
- ② 部活やアルバイトを就職活動でどう生かすか
- ③ 就職への準備とは何をすることか
- ④ 自己分析とは何か
- ⑤ 自己分析実習
- ⑥ キャリアプランの立て方
- ⑦ キャリアプラン作成実習

履修上の留意点

- ① 各種の資料の配布が多いため、資料を保存するためのバインダーを準備してください。
- ② 授業は、グループワークや話し合い、意見発表、討論などによる「自己表現訓練」があります。「自分の意見」を発表する訓練の場として授業に参加してください。

成績評価の方法

平常授業とレポートによって評価。

科目名	担当者名
職業教育Ⅱ	しおかわまさと 塩川正人

講義のねらい

授業の目的は、前期に続いて「就職試験に勝つ授業」の実現です。
特に後期は、より実践的な内容になります。就職に必須のスキルを、実践的に体得します。
そのため、個人別の就職準備へのカウンセリングも授業の中で行ないます。
授業内容は、前期の内容を更に詳しく掘り下げ、エントリーシートの作成実習や面接訓練、自己アピール訓練なども行ないます。
学生諸君の就職への最適のストーリーを作成し、後期の授業のまとめにします。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 職業適性検査
- ② 「職業」の選び方
- ③ さまざまな業界の研究
- ④ 会社の研究
- ⑤ 自己紹介書の作成
- ⑥ エントリーシートの研究
- ⑦ 就職書類の作り方
- ⑧ 自己アピールの仕方と演習
- ⑨ 就職成功へのストーリー作り

履修上の留意点

- ① 各種の資料の配布が多いため、資料を保存するためのバインダーを準備してください。
- ② 授業は、グループワークや話し合い、意見発表、討論などによる「自己表現訓練」があります。「自分の意見」を発表する訓練の場として授業に参加してください。

成績評価の方法

平常授業とレポートによって評価。

科目名	担当者名
社会体育Ⅰ 社会体育Ⅱ	よしだみき 吉田実生

講義のねらい

人が人と生き社会を形成してゆく時、何を基本にするかで生み出すものが変わってゆきます。この授業では「人間とは何か」「共に生きる」とはどのようなことなのかを、からだを通しての気づきから探ってみたいと思います。からだの感覚を啓いてゆくことで何が生まれ、どう展開してゆくのかを体験し、からだの中に隠れている可能性を各人が発見し、実感して行ってほしいと思っています。

講義の内容・
授業スケジュール

感じること、さまざまな動きの体験、呼吸、重力の体験、人や物との関わりなど、具体的な実習を通して「今、自分に起きていること」「今、自分が体験していること」に気づいてゆきます。気づきを深めてゆくことで、自分自身を信頼し、他者を尊重しつつ、状況を拓き新しいものを生んでゆく力が育ってゆきます。

履修上の留意点

からだの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業とレポート

その他

授業は実技を中心に行います。
からだをしめつけない、動きやすい服装で受講して下さい。

科 目 名**担 当 者 名**

青少年文化

古 関 す ま 子

講義のねらい

現在の青少年文化の特徴として、友人達との体を通した遊びや交わりが消え、代わってテレビゲームなど、直接身体を介さず一人で遊ぶことが増えたことがあげられる。本講義ではこのような状況の中で、「身体的無意識の集成的カタルシス」という演劇・舞踊などの舞台芸術の持つ意味を考える。更に自ら演劇および身体表現の基礎を学び、今後の教職等における実践に結びつく体験とすることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

以下の内容を一年にわたって行う。
 学問的基盤－言語獲得の様相など人間の根源的社会性に関する発達心理学の基礎に触れる。また世界の舞踏や仮面劇など文化人類学的知見も広げ、「身体記憶を通し、集成的無意識のカタルシスに向かう」という舞台芸術のダイナミズムを捉え、教育の場におけるその意味を把握する。
 具体的実践－シェクスピアなど幾つかの戯曲を学び、またビデオ鑑賞などを行う。身体感覚や表現力を高めるための、腹式呼吸・マチエール・摺り足歩行など5段階からなるレッスンを体験する。

履修上の留意点

動ける服装で。積極的に楽しんでください。

成績評価の方法

授業中の発表・レポート提出・実技の三つの総合点。

教 科 書

授業中に指示するが多くはプリント。

参 考 書 等

授業中に指示するが多くはプリント。

科 目 名**担 当 者 名**

現代社会の諸問題と教育 I

鈴 木 朋 実

講義のねらい

現代社会の諸問題のなかでも、子どもの発達の基盤として重要な意味をもつ家族について、今日の諸問題を取り上げ、教育の観点から、その実態、背景、原因を解明し、有効な問題解決の方策をさぐることをねらいとしています。社会性の発達の遅れなど子どもの発達をめぐる問題、不登校・いじめ・校内暴力など学校における問題、その他の非行問題が社会的に憂慮されていますが、その背景には少子高齢化とともに大きく変容しつつある現代家族の在り方をめぐる問題があります。この点を十分に理解し、こうした問題にどのように対応すればよいかを考察するところに講義のポイントをおいています。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、次の4セクションに分けて行う予定です。
 第1セクション：「家族集団と子どもの発達」－4月
 第2セクション：「産業の発展にともなう家族の変容と教育機能の衰退」－5月
 第3セクション：「現代の家族をめぐる問題の諸相と人間形成」－6月
 第4セクション：グループによるプレゼンテーション－7月

履修上の留意点

新聞や書籍などで取り上げられている家族問題への関心を持つことが望まれます。

成績評価の方法

授業への積極性を重視した上で、出席状況・レポート・試験により、総合的に評価します。

教 科 書

プリントを配布します。

参 考 書 等

授業中に紹介します。

そ の 他

授業方法－ディスカッションを中心に構成しています。また、7月には、グループごとにテーマを設定し、プレゼンテーションを行なっていただきます。

科目名	担当者名
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	鈴木朋実

講義のねらい

現代の社会は急激な変化に伴って解決の難しい多くの問題を発生させていますが、これらの問題は、教育の在り方に直接的、間接的に重大な影響をおよぼしています。わが国の場合、社会的変化は、とりわけ、1960年代の経済成長政策以降、テンポを速め、激しさを増しています。講義では、わが国の高度経済成長期以降の社会的変化の過程で生じた重要な問題と教育との関係を明らかにして、将来を展望し、問題解決の方途を探ることをねらいとしています。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、次の4セクションに分けて行う予定です。
 第1セクション：「高度経済成長にともなう社会の諸問題と教育」－9月
 第2セクション：「情報化にともなう問題と生涯学習」－10月
 第3セクション：「自由化をめぐる問題と教育」－11月
 第4セクション：グループごとのプレゼンテーション－12月

履修上の留意点

新聞に目を通し、社会問題・教育問題への関心を高めるとよいでしょう。グループごとに、テーマを設定し、プレゼンテーションを行います。

成績評価の方法

出席状況・レポート・プレゼンテーションにより、総合的に評価します。

教科書

プリントを配布します。

参考書等

授業中に紹介します。

その他

パワーポイントで資料作成し、プレゼンテーションを行います。(パソコンの操作が苦手な方でも大丈夫です。操作・作成方法について、授業で扱います)

科目名	担当者名
青少年指導演習	西村寛子

講義のねらい

現代の青少年についての具体的な理解と、その関わり、コミュニケーションについてのスキルを学ぶことを柱を中心に行っていく。実習を通して自己理解と青少年への理解を深め、相互的なかわり、援助へのスキルが促進されるように取り組んでいく。

講義の内容・授業スケジュール

- 《前期》 1. 青少年へのかかわり－自らのこころと体をほぐし、関わり易い環境づくりの実習。
 2. コミュニケーション・関わりの実習を通し、自己理解を促進し指導・援助の基礎を学ぶ。
 3. 青少年期を発達的に概観して学ぶ。
 《後期》 4. カウンセリングマインドを学ぶ－話を聴く、共感性、「私」のものがたり理解。
 5. 事例を通して学ぶ－不登校、いじめ、虐待、反社会行動等。
 6. まとめ

履修上の留意点

演習、実習を多く取り入れていく参加型の授業であるので、参加していく気持ちが重要である。毎回質問や感想を〔メモ用紙に〕記入提出してもらい、それらを生かした相互的な授業にしていくつもりである。

成績評価の方法

出席状況と、夏休み前、期末の年2回のレポート。

教科書

必要な資料はプリントで配布する。

参考書等

河合隼雄『カウンセリングの実際問題』（誠信書房）
 山下一夫『カウンセリングの知と心』（日本評論社）
 河合隼雄『大人になることのむずかしさ』（岩波書店）
 河合隼雄『昔話の深層』（福音館書店）

Ⅳ 博 物 館 学 講 座

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
視聴覚教育	学芸員 2・3 必	通年	4	佐野博彦	163
博物館学Ⅰ (概論)	学芸員 2 必	半期	2	太田喜美子	164
博物館学Ⅱ (資料論)	学芸員 2 必	半期	2	岸上興一郎	164
博物館学Ⅲ (経営論・情報論)	学芸員 2 必	半期	2	岸上興一郎	165
博物館実習Ⅰ (館務)	学芸員 3・4 必	通年	2	太田喜美子 飯島武次 湯浅隆	165
博物館実習Ⅱ (収集)	学芸員 3・4 必	通年	2	太田喜美子 他	166
博物館実習Ⅲ (見学)	学芸員 2・3 必	通年	2	太田喜美子 酒井清治 松本信道	167
教育の思想	学芸員 2 必	半期	2	豊田千代子	14
教育の思想	学芸員 2 必	半期	2	北村三子	14
教育の思想	学芸員 2 必	半期	2	伊藤茂樹	15
教育の思想	学芸員 2 必	半期	2	萩原建次郎	15
教育の思想	学芸員 2 必	半期	2	坂本信昭	16
教育と社会	学芸員 2 必	半期	2	豊田千代子	16
教育と社会	学芸員 2 必	半期	2	北村三子	17
教育と社会	学芸員 2 必	半期	2	伊藤茂樹	17
教育と社会	学芸員 2 必	半期	2	萩原建次郎	18
教育と社会	学芸員 2 必	半期	2	坂本信昭	19
生涯学習概論Ⅰ	学芸員 2・3 必	半期	2	豊田千代子	149
生涯学習概論Ⅱ	学芸員 2・3 必	半期	2	豊田千代子	150

(2) 選択必修科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
インド仏教文化史	学芸員 2・3・4 選	通年	4	金沢篤	168
中国仏教文化史	学芸員 2・3・4 選	通年	4	永井政之	168
日本仏教文化史	学芸員 2・3・4 選	通年	4	袴谷憲昭	169
禅美術	学芸員 2・3・4 選	通年	4	村松哲文	170
仏教美術	学芸員 2・3・4 選	通年	4	村松哲文	171
仏教民俗学	学芸員 2・3・4 選	通年	4	須藤寛人	172
日本民俗学	学芸員 2・3・4 選	通年	4	谷口貢	173
美術史概説	学芸員 2・3・4 選	通年	4	北野良枝	174
現代美術	学芸員 2・3・4 選	通年	4	矢野陽子	175
地形学	学芸員 2・3・4 選	通年	4	平井幸弘	176
第四紀学	学芸員 2・3・4 選	通年	4	鈴木毅彦	177
日本考古学概説	学芸員 2・3・4 選	通年	4	酒井清治	178
外国考古学概説	学芸員 2・3・4 選	通年	4	飯島武次	178
西洋文化史	学芸員 2・3・4 選	通年	4	石田恵子	179
日本文化史	学芸員 2・3・4 選	通年	4	吉田政博	180
考古学特講Ⅰ	学芸員 2・3・4 選	通年	4	酒井清治	181
考古学特講Ⅱ	学芸員 2・3・4 選	通年	4	休講	

考古学特講Ⅲ	学芸員 2・3・4 選	通年	4	設楽博己	181
考古学特講Ⅳ	学芸員 2・3・4 選	通年	4	休講	
考古学特講Ⅴ	学芸員 2・3・4 選	通年	4	上敷領久	182
考古学特講Ⅵ	学芸員 2・3・4 選	通年	4	休講	
考古学特講Ⅶ	学芸員 2・3・4 選	通年	4	矢野和之	182
考古学特講Ⅷ	学芸員 2・3・4 選	通年	4	休講	
西域美術史	学芸員 2・3・4 選	通年	4	松平美和子	183
宗教人類学	学芸員 2・3・4 選	通年	4	矢野秀武	183

(1) 必修科目

科目名	担当者名
視聴覚教育	佐野博彦

講義のねらい

視聴覚教育は、言語を中心とした古来からの教育に対して、人間の感覚を基本におくことを重要視する思想から生まれてきた。抽象性においてすぐれている言語に対し、映像など視聴覚を基にした教材は、その具体性においてすぐれている。この視聴覚教材の持つ特質を利用して、教科書と黒板という従来の教育を超えて、より豊かな教育を行うことが視聴覚教育の目的である。それに加えて、テレビやインターネットが発達してきた現代の情報化社会においては、メディアを利用した教育は、「視聴覚教育」という概念を越えて、新たな「メディア教育」という地平にまで進んできている。

こうしたメディアを対象とした教育において、二つの考え方が存在する。一つはメディアを利用して効果的な教育を実践しようというもので、主に教科教育の面で古くから実践されてきたものである。一つは、現代のようにメディアが発達し、人間をとりまく環境のごとき存在になってきたとき、そのメディアを適切に理解し、批判していく能力を身につけようという考え方で、前者が「メディアで学ぶ」とすれば、後者は「メディアを学ぶ」という考え方であるといえよう。近年は、特にこの後者の考え方、すなわち、メディア・リテラシーの重要性が認識されてきた。

この講義では、こうした考えの下に、教育放送、コンピュータ、インターネットなどを利用して視聴覚教育が実践されている姿をできるだけVTRなどで紹介するとともに、現代の教育の情報化の実態、さらにはメディア・リテラシーの実践と考え方を紹介し、視聴覚教育の方法と意義を考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

(考え方)

ビデオなどで、できるだけ教育実践を紹介したいと考えている。また、学生の皆さんが参加できる簡単な実践もいくつか準備したい。

(内容)

視聴覚教育とはなにか／視聴覚教育の歴史的形成／映画の誕生～近代的コミュニケーション技術の登場～／映画の進化～見世物から芸術へ～／映画の文法／映像と言語／映画の教育利用／放送の誕生とその意味／テレビの登場／テレビの教育利用／放送教育の運動と思想／メディア・リテラシーの重要性／メディア・リテラシーの実践／コンピュータの登場／CAI～コンピュータの教育利用～／ツールとしてのコンピュータ／マルチメディアコンピュータの登場／マルチメディアとハイパーメディア／インターネットの登場／インターネット利用教育／インターネットを利用した学習環境の形成／高度情報化社会とその捉え方／日本の情報化の現状／教育の情報化の現状／新しい教育課程と情報教育／情報リテラシーの重要性／情報化社会と生涯学習

成績評価の方法

前期終了時（夏休み前）と後期終了時の2回試験を課す。

教科書

佐賀啓男編著『視聴覚メディアと教育』（樹村房）2002年

参考書等

授業中に適宜紹介する

科目名**担当者名**

博物館学Ⅰ(概論)

おお たく きたみ こ
太 田 喜美子

講義のねらい

博物館学講座(学芸員課程)の必修科目である。博物館法施行規則によると、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ(岸上講師)、各2単位」も履修していただかないと次年度へ進めないで注意を要する。

この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ・Ⅲ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、岸上興一郎講師に講義していただいている。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒澤大学にあつて、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するので、必ず出席すること。途中で(2回や3回目)出席して、手続きその他質問に来ても、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはしないので注意しておいてもらいたい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になつても、数回教室に出席してもらうことにしている。したがつて、水曜日3限目の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目にぶつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に来てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事の選択科目にもなつているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

成績評価の方法

試験による評価(詳細は、第1回目に説明する。)

科目名**担当者名**

博物館学Ⅱ(資料論)

まし がみ こういちろう
岸 上 興一郎

講義のねらい

博物館で扱う資料とは何であるのかを問う。

講義の内容・授業スケジュール

博物館法および関連法でいう博物館資料について述べる。資料は多様な環境の中におかれてゐる。それらの資料がいかなる過程をへて博物館に寄贈・寄託・借用・購入され、研究・収蔵そして展示されていくのかを事例をもとに展開する。

履修上の留意点

資料のもつ基礎情報を学芸員として熟知し、いかに展示空間に動と静の知的世界を構築するかを考えること。

成績評価の方法

授業態度・レポート提出。

教科書

(財)日本博物館協会編『博物館関係法令集』
必要に応じて関係資料を作成し配布する。

参考書等

各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』
(財)日本博物館協会編 月刊『博物館研究』

その他

講義。

科 目 名	担 当 者 名
博物館学Ⅲ(経営論・情報論)	岸上 興一郎 <small>きし がみ こういちろう</small>

講義のねらい	博物館は学芸職と事務職によって構成されている。その経営にあたっては、各個人の暗黙知、つまり各個人のもっている情報・知識の豊かさが結果を左右する。さらにはそれを言語化・明示化して組織内で共有し、有効活用することを形式知化という。ここを講義のポイントとする。この理論は博物館経営をより発展させる重要な鍵でもある。学芸員の経営関与を問う。
講義の内容・授業スケジュール	各博物館は、その創設時の状況によって、公立・財団など種々の経営理論のもとで運営にあってきたが、地方自治法第244条の改正にともない指定管理者制度が開始し、公立博物館に民間の活力が導入されはじめた。学芸員は予算の執行、企画の展開などいかなる方策で運営にかかわっていくのか、事例をおしてふれる。博物館のもつ本来の情報とは何か。情報と博物館および学芸員の倫理の問題を考える。
履修上の留意点	予算の仕組みおよび博物館資料のもつ情報と、そのあつかいを理解すること。
成績評価の方法	授業態度・レポート提出。
教 科 書	財日本博物館協会編『博物館関係法令集』 必要に応じて関係資料を作成し配布する。
参 考 書 等	各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』 財日本博物館協会編 月刊『博物館研究』
そ の 他	講義。

科 目 名	担 当 者 名
博物館実習Ⅰ(館務)	おおた きみこ いいじま たけつぐ 太田喜美子・飯島 武次 <small>ゆ あさ たかし</small> 湯浅 隆

履修上の留意点	この授業は4月第1週から、最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来30数年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。 この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。 毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生と一緒に行うため、他流試合的な趣きもっているもので、日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけない。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいは言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしゃるの、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行う館が80%を占めるが、別の時期に行う館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。 この科目は、本学の博物館講座の締括りになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」・「博物館実習Ⅲ(見学)」に先だつて、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ(館務)」を3年生次に履修して、「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」あるいは「博物館実習Ⅲ(見学)」を4年生次に履修してはいけない、ということである。履修にあつての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。
成績評価の方法	授業態度・実習評価・発表能力による評価。

科目名

担当者名

博物館実習Ⅱ(収集)

おおた きみ こ く に み とおら
 太田喜美子・國見 徹
 くぼ た ま さ き く ま も と ふみ お
 久保田昌希・熊本 史雄
 さ さ き ま こ と た た き お と よしゆき
 佐々木 真・瀧音 能之
 なかの 達哉

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならぬ面と、個性を殺さなければならぬ面がある。「博物館実習Ⅱ(収集)」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けていても、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ(収集)」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきつうである。この実習は、必ず合宿して実施しているの、共同生活を知ろうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を目指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思いこんでしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなのかもしれない。そうした場合には、どんどん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ(館務)」・「Ⅱ(収集)」・「Ⅲ(見学)」の3つが必修であるが、「Ⅱ(収集)」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ(収集)」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

成績評価の方法

授業態度・実習評価

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行うこの実習と、3・4年次で行う、「I(館務)」と「II(収集)」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学をするのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することになっている。

履修の方法は、なんといっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あふれてしまう人がでないように留意するつもりである。そのために、相談しなければならないことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA~Dの4組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになることと、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

成績評価の方法

レポート点による評価。

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名
インド仏教文化史	かなざわ あつし 金 沢 篤

講義のねらい	インド生まれの仏教を、広範で多岐多彩なインド文化の史的展望の中でとらえてみたい。
講義の内容・授業スケジュール	神や人間などが織りなす奇想天外なインド的物語世界の解説を皮切りに、仏教の出現と展開と衰頽にまつわる文化的トピックを論究する。
履修上の留意点	仏教や古今のインド文化に熱い関心を持つ学生諸君の主体的取り組みを期待する。
成績評価の方法	年度末試験などで総合的に判断する。
教科書	渡辺照宏著『仏教（第二版）』（岩波新書）740円
参考書等	教場で適宜紹介する。

科目名	担当者名
中国仏教文化史	ながい まさし 永 井 政 之

講義のねらい	この授業は、中国仏教を教理から理解しようとするものではありません。むしろ表に現れることの少ない部分に焦点を当てようとするものです。歴史に現れた「仏教」は、いずれの時代にあっても、資料に書き残された世界を出るものではなく、資料を書き残せるような、ごく一握りの文化人の理解の範囲を出ることはありません。そのような文化の伝承を否定するものではありませんが、その部分にのみ力点を置きますと、中国社会を構成した大半の人々——多分、彼らはその日の食べ物にも事欠くことが少なくなかったように想像できます——が、どのように仏教を捉え、関わっていったかという部分を捨象してしまうことになりはしないでしょうか。 この授業では、そのような中国の民衆にとって、仏教はいかなる意味を持って受け入れられたかを、さまざまな仏菩薩、あるいは個人への信仰を通して考えてみたいと思います。
講義の内容・授業スケジュール	当面は中国の禅僧への信仰をとりあげたいと思います。普庵印肅への信仰から入りましょう。
履修上の留意点	少し角度を変えての授業ですが、だからといって「資料に残された表の顔」を知らないで済まされるものではありません。表の顔を知っているから対比の面白さも出てきます。両方兼ね知ってみようという意欲をもって下さい。
成績評価の方法	期末に出席を加味して評価します。
教科書	教科書は特に使いません。必要な資料はコピーして配布し、また授業中に指示します。
参考書等	永井政之『中国禅宗教団と民衆』（内山書店） その他、適宜指示します。

講義のねらい

仏教思想とはなにかという課題を断えず問いかけながら、日本における文化の実態を検討する。その検討課題を章節仕立てて示せば、次のとおりである。

講義の内容・
授業スケジュール

- 序 仏教伝来以前の文化
- 1 文化構造の解釈 2 日本古来の文化
- 第1章 中国朝鮮の影響下の仏教文化
- 1 呉音漢音と文化 2 美術中の仏教観
- 3 自利利他の問題 4 太子信仰の背景
- 第2章 南部の学問仏教と民衆の文化
- 1 大仏建立の理念 2 学問仏教の実際
- 3 勧進聖と修験道 4 仏教と神祇信仰
- 第3章 日本独自の文化形成と仏教観
- 1 大乘戒壇の設立 2 一乗三乗の論争
- 3 密教と祈禱仏教 4 本覚思想の定着
- 第4章 中世の仏教信仰の確立と変容
- 1 浄土信仰の諸相 2 法華信仰の諸相
- 3 禅宗と五山文学 4 神仏習合の諸相
- 第5章 近世と近代の社会文化と仏教
- 1 鉄砲と吉利支丹 2 幕府の宗教政策
- 3 江戸文化と仏教 4 維新と廃仏毀釈
- 結 現代社会と仏教文化
- 1 近代より現代へ 2 戦後と民主主義

履修上の留意点

講義ではあるが、参加者には、文献を自ら読もうとすることが要求される。必要な資料については教場で配布するが、その再発行は原則としてしないので、気をつけられたい。

成績評価の方法

学年末の定期試験による。ただし、参加者の状況によっては評価の方法の変化もありうる。

教科書

袴谷憲昭著『日本仏教文化史』（大蔵出版）2005年

参考書等

袴谷憲昭著『仏教入門』（大蔵出版）2004年

その他

必要購読文献はコピーで配布し再発行はしないので注意されたい。

科目名**担当者名**

禅美術

むら まつ てつ かつ
村 松 哲 文**講義のねらい**

禅宗では、はじめ偶像を崇拜せず、自己の内面に仏性を悟ることを旨としていた。そのため仏像や仏画などが制作されることはなかったが、宋代になると僧侶たちが余暇に水墨画を描くようになり、これが宮廷の庇護を受けるなどして職業画家まで出現するようになる。描かれた題材は、山水・花鳥・祖師などで、これらを総称して禅絵画という。日本では、留学僧によって鎌倉時代に禅絵画が伝わり、ついには日本独自の水墨画を完成させた。本講義では、絵画を中心に話を進めるが、彫刻や墨蹟、庭園などについても触れてゆきたい。そして、作品に見え隠れする制作者の宗教性と美意識を考察したい。

**講義の内容・
授業スケジュール**

講義ガイダンスと宋代の社会と仏教（1～3）
北宋の絵画（4～7）
南宋の絵画（8～11）
元の絵画（12～15）
鎌倉時代の絵画（16～19）
室町時代の絵画（20～23）
庭園のかたち（24～26）
禅の美意識（27～30）

履修上の留意点

講義内容を留めるのみならず、講義の際に映すスライドなどもしっかり観察すること。また美術館・博物館に行き、実物を観察する機会を多くつくること。

成績評価の方法

定期試験、出席率、レポートなどで総合的に評価する。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

参考書・参考論文などは講義中に紹介する。

科目名**担当者名****仏教美術**むら まつ てつ ふみ
村 松 哲 文

講義のねらい

日本の仏教美術について、歴史的な背景と照らし合わせながら概観する。一つのモチーフが時代によって変化してゆく過程を考察し、仏像・仏画の基本的な鑑賞法を身につけてもらいたい。

また本講義では、美術作品から制作者の心情に迫り、芸術という側面だけではなく、信仰という側面に留意して話を進める。なおインド・中国・朝鮮半島の仏教美術については「総合Ⅰ(3) 仏教と芸術」で講義する。

**講義の内容・
授業スケジュール**

〔前期〕

仏教美術の世界 (1)

飛鳥時代の仏像 (2～7)

白鳳時代の仏像 (8～10)

天平時代の仏像 (11～15)

〔後期〕

平安時代の仏像 (16～20)

鎌倉時代の仏像 (21～25)

仏教美術の荘厳 (26～30)

以上は予定で、適時仏教美術関係の展覧会について解説を予定している。

履修上の留意点

美術館・博物館・寺院に行き、多くの仏像を観察するように努めてもらいたい。仏教美術関連の展覧会には、必ず足を運ぶこと。

成績評価の方法

定期試験と出席率、レポートなどで総合評価する。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

参考書・参考論文などは講義中に紹介する。

講義のねらい

葬儀や、先祖崇拜、位牌・仏壇といったものを通して、多くの日本人は仏教と接していると思われます。このような日常的な仏教との接点を手がかりとして、大宗教としての仏教が民間に浸透していった経緯を、本講義では考察したいと思います。また仏教的な営みの背景にある民俗の意味と歴史とを考察することによって、仏教との新しい接し方のきっかけになればと考えています。

講義の内容・授業スケジュール

a. 先祖崇拜 今日日本仏教における寺院の主たる活動が、葬儀と追善供養からなっている。追善供養は、先祖祭祀という民族的背景のもとに成り立っていることから、先祖崇拜の考察は重要なテーマであると考えられる。b. 葬送儀礼 葬式は、多くの日本人にとって最も「仏教的」なことを感じさせる出来事である。しかし、そこで何が行われているかは、多くの場合は、一般の人に知らされていないし、また意味も解らないで葬儀を行っている僧侶も多いと思われる。本講義では、民俗的事例をあげながら、葬式の歴史と構成とを明らかにし、そこにどのような意味があるのかを考える。c. 日本の民俗 日本でみられる多くの民俗的事例を紹介・解説する。日本のシャーマニズムや、各地の祭、都市伝説・噂・怪談などにも触れる予定である。また授業内容に応じてタイムリーな話題もとりあげたい。以上の三点を本講義の軸とし、主要な概念や理論について解説をしていきたいと思ひます。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないで下さい。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中は着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポートを20%、学期末の定期試験80%とし、出欠状況を加味して総合的に評価します。

教科書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

参考書等

授業の流れに応じて、適宜、紹介したいと思います。

科目名	担当者名
日本民俗学	谷口 貢

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識を把握できるようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏期レポート及び小レポートを実施する予定。受講者の成績評価は、夏期レポートと小レポート、そして学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。出席を重視する。

教科書

使用しない。

参考書等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）

講義のねらい

日本絵画の流れを主要なジャンルや流派ごとに概観する。美術の歴史を理解するにあたって、常に作品を参照する必要があるため、授業では毎回スライドを使用する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期 平安時代から室町時代の絵画

- (1) ガイダンス
- (2) 絵画に関する基礎知識
- (3) ～ (4) 仏教絵画
- (5) ～ (7) 絵巻物
- (8) ～ (9) 肖像画
- (10) ～ (13) 室町時代の水墨画

後期 室町末から江戸時代の絵画

- (14) ～ (17) 狩野派
- (18) ～ (21) 琳派
- (22) ～ (24) 南蘋派と洋風画
- (25) ～ (26) 江戸から明治へ

履修上の留意点

ペンライトなどを持参し、スライドで映写する内容についてもノートをとることが望ましい。

成績評価の方法

学年末に筆記試験を実施し、その得点によって評価する。

参考書等

スライドで映写した作品を確認するには、下記のような美術全集があり、いずれも駒澤大学図書館に所蔵されている。

- 『原色日本の美術』(小学館)
- 『日本美術全集』(学習研究社)
- 『日本美術絵画全集』(集英社)
- 『日本美術全集』(講談社)

科目名**担当者名**

現代美術

矢野陽子

講義のねらい

この授業では20世紀の美術を「現代美術」として取り上げます。20世紀初頭から次々と展開された大胆で革新的な試みは、従来の美術、すなわち外界の再現を目的とした絵画や人体を主たる題材とした彫刻とは大きく異なる作品を生みだしてきました。20世紀の主要な美術運動、芸術家とその作品を見て理解しながら、美術が技術革新やマスメディアの発達、大量消費型の生活といった同時代の様相とどのように関わっているかも考察していきます。

**講義の内容・
授業スケジュール**

現代美術を理解するにあたって、まず19世紀後半の美術の状況を簡潔に概観します。前期は20世紀初頭の二大運動であるフォーヴィスムとキュビスムを中心に話を進めます。色彩の使い方を大きく変えたフォーヴィスムと形態を問題にしたキュビスムが、その後の美術運動に与えた多大な影響を追っていきます。後期はダダとシュルレアリスムから抽象美術、ポップアート、さらに近年の動向を紹介します。

履修上の留意点

美術館や展覧会に行ったり、画集など見るなどして、現代美術に積極的に触れるように心がけてください。

成績評価の方法

夏休みの課題としてのレポートと学年末の試験、出席率、授業態度を合わせて評価します。

教科書

講義時にプリントを配布します。

参考書等

美術出版社編『現代美術入門』（美術出版社）2,000円
そのほか授業中適宜紹介します。

その他

授業では毎回スライドを使用します。

講義のねらい

私たちが今生きている社会において、ある「地域」を理解し、そこでの様々な開発や環境問題、あるいは災害などを的確に理解し、さらに適切な対応策を講じるためには、その場所がもっている自然的諸条件の特質を明らかにしておくことが、まず重要である。この講義では、そのような自然的諸条件のなかで、「地域」の場の条件となっている様々な地形について、地形発達史的側面と地形環境誌的な側面の両方から理解し、様々な環境問題について学び、その解決策についても考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) 1. 地形発達のバックグラウンド
 気候変動 海水準変動 地殻変動
 2. 様々な地形：関東地方を例に
 火山地形 河岸段丘 丘陵地 扇状地と自然堤防 三角州と干潟 海跡湖
 (後期) 3. 日本各地の水辺の環境問題—応用地形学の視点から—
 中海・飯梨川デルタ 吉野川・第十堰 那賀川の旧河道 加茂湖周遊 宍道湖一周 浜名湖の湖底伝説

履修上の留意点

現実の様々な環境問題に、広い視野から関心を持ち学ぼうとする意欲を期待したい。

成績評価の方法

出席とレポート及びその発表。受講生が多数の場合は試験を行う。

教科書

平井幸弘『水辺の環境ガイド—歩く・読む・調べる—』（古今書院）2005年

参考書等

貝塚爽平ほか『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』（東大出版会）2000年
 加藤 真『日本の渚—失われてゆく海辺の自然—』（岩波新書）1999年
 五十嵐敬喜・小川明雄『公共事業は止まるか』（岩波新書）2001年

その他

高校で使う程度の地図帳（二宮書店や帝国書院発行のものなど）と12色の色鉛筆を用意することが望ましい。

科目名

担当者名

第四紀学

鈴木毅彦

講義のねらい

第四紀とは最近約200万年間のことをさす。この地質時代は、人類、動植物、気候、地形などが現在みられる姿となった時代でもある。このような最近の地質時代を理解することは、人類の動向も含めた地球の将来予測につながる。本講義のねらいはこのような問題意識のもとに、第四紀の概要を理解することである。とくに全地球的な規模での現象と日本列島特有な第四紀の諸現象についての理解を深めることに目的をおく。

講義の内容・授業スケジュール

講義前半では第四紀の各種基礎的概念を解説する。主なテーマは第四紀の概要、氷河作用、地形・地質、気候変化、火山灰編年などである。後半では日本列島の第四紀の主要な現象である、火山活動と第四紀地殻変動などに焦点をあてる。

講義の流れをキーワードで示すと以下のとおりである。

前半

第四紀の定義・概要、学際科学としての第四紀学、氷期認定の歴史、大陸氷床の発達と海面変化、氷期・間氷期サイクル、酸素同位体比と氷期・間氷期サイクル、地球上各域における気候変化、ミランコビッチサイクル、数値年代と放射年代、古地磁気編年とレス編年、火山灰編年、日本列島の海面変化

後半

日本列島の火山（分布と第四紀火山の概念）、各種噴火様式と火山災害、関東地方の地震活動と第四紀地殻変動、活断層、山地形成、人類の誕生、日本列島の人類史

履修上の留意点

とくになし。

成績評価の方法

主には前期末のレポートと後期末の筆記試験

教科書

教科書は特に指定しない

参考書等

参考書として、町田ほか編『第四紀学』（朝倉書店）、日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）、成瀬『第四紀学』（岩波書店）をあげる。それ以外は講義中に紹介する。

その他

授業の方法：講義

科目名	担当者名
日本考古学概説	酒井清治

講義のねらい	日本の考古学は発掘も膨大にあり日々新しい資料も蓄積されている。その資料はどのような意味があるのか、資料からどのようなことが分かるのか、日本の考古学の中に位置づけ考古学とは何かを理解してもらう。
講義の内容・授業スケジュール	考古学の遺跡・遺物を時代を追って取り上げ、日本考古学を時代史的に概観する。講義は最初に考古学とは何かにふれて前期は研究史や研究法、考古学とは何かを中心に述べる。後期には旧石器時代から縄文時代・弥生時代・古墳時代・歴史時代を概観する。また、前期には授業の始めに最新の発掘資料を見ながら考古学の理解を深めてもらう。
履修上の留意点	遅刻厳禁、私語厳禁。
成績評価の方法	定期試験とレポートで採点。平常点も加味する。
参考書等	鈴木公雄『考古学入門』（東大出版社） 安藤雅雄『考古学キーワード』（有斐閣） 江上波夫『考古学ゼミナール』（山川出版社） そのほか授業中に解説しながら紹介する。
その他	講義の中でOHPを使用し、図や写真あるいは実物資料を利用し理解を深める。

科目名	担当者名
外国考古学概説	飯島武次

講義のねらい	東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらう。
講義の内容・授業スケジュール	時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。
履修上の留意点	欠席・遅刻をしないこと。
成績評価の方法	成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。
参考書等	飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年 飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年 飯島武次『中国周文化考古学研究』（同成社）1998年 飯島武次『中国考古学概論』（同成社）2003年
その他	スライドやビデオを多用する予定である。

科目名

担当者名

西洋文化史

いし だ けい こ
石 田 恵 子

講義のねらい

東洋に対する西洋文化のルーツをたどっていくと、ギリシャ・ローマの地中海世界を経て、古代西アジア地域の文化にまでたどっていくことが出来る。特に西アジアに起源する印章文化の展開を柱として、それにまつわる古代オリエントの歴史、印章の種類、役割の多様性などを紹介しつつ、ヨーロッパ世界に伝えられていった指輪型印章や封ロウをルネサンス時代まで追い、今日まで残る印章の意義を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

前期はメソポタミアで誕生したスタンプ印章の使用開始から円筒印章の登場、メソポタミアに栄えた円筒印章の変遷、その素材と技術、メソポタミア周辺の印章文化も紹介する。後期は書写材料・文字の変遷による円筒印章の終焉とスタンプ印章の復活、ギリシャ・ローマ世界、ビザンチン・イスラム世界、中世ヨーロッパ及びそれ以降の印章及び印章に関わる文化を概観する。

履修上の留意点

広く興味を持って本や展覧会など見るようにすること。

成績評価の方法

出席点と課題レポート、試験

科目名

日本文化史

担当者名よしだまさひろ
吉田政博**講義のねらい**

日本の文化の歴史が、当時の社会の生産という問題や、政治・経済・宗教などと深くかかわっていたことに留意しながら、朝廷・公家・武家のみならず民衆が文化の創造に大きな役割を果たしていたことを、明らかとしていく。また現代生活への影響や比較などについて検討していく。

講義の内容・授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、鎌倉期以降の中世を中心としながら江戸期にかけての文化様相と特色などについて講述する。次のような順序で授業を進めていく。

- ・中世文化史研究の動向
- ・鎌倉新仏教と文化
- ・山岳信仰と文化
- ・禅宗と五山文化
- ・南北朝から室町期の文化
- ・北山文化の展開
- ・東山文化とその基盤
- ・中世の職能民
- ・知識人の思想とその行動
- ・庶民信仰と生活
- ・連歌師の旅
- ・京と鄙の交流
- ・大名領国の文化
- ・統一政権とその文化
- ・近世文化史研究の動向

履修上の留意点

講義内容の復習が必要であることはもちろんであるが、例えば日本文化や歴史、宗教などをテーマとする博物館・美術館などの展示会を積極的に観覧し、できるかぎり「実物」に接する機会を持ってもらいたい。受講する上では図書館所蔵の文化史・美術史に関する資料・ビデオ等を大いに活用することをすすめたい。なお、本学の禅文化歴史博物館での文化史関連展示会の見学と学芸員による説明会を実施する。

成績評価の方法

後期に実施する定期試験の結果による。これに授業の出欠状況とレポートなどを加味する。

教科書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参考書等

講義内容に関する研究所などを随時提示していく。

科目名	担当者名
考古学特講Ⅰ	酒井清治 <small>さか い きよ じ</small>

講義のねらい	5世紀初頭に朝鮮半島から伝わった須恵器は、古墳時代の畿内政権あるいは各地の首長層と密接な関連があり、古墳時代あるいは古代を考える重要な土器である。この須恵器は全国各地で詳細な編年ができて、考古学的な年代決定の重要な資料となっている。また、生産地である窯跡や工房が発見されており、消費地との需給関係が分かる。さらに須恵器生産は古墳時代においてきわめて政治的に生産が開始されており、須恵器生産地から生産体制を解明する材料となっている。 当時の手工業史としての須恵器生産史や流通史を解明することにより須恵器から古墳時代、古代を考える。また、朝鮮半島の土器生産と比較し、土器から見た生産体制の違いを考えてみる。
講義の内容・授業スケジュール	須恵器や窯跡に関する論文を紹介しながら、須恵器生産・流通・歴史的背景を概観する。
履修上の留意点	遅刻しないこと。授業内容は考古学専攻生を対象とした特講の授業であるのでやや難しいが解説を加えるようにする。
成績評価の方法	レポートと平常点。
教科書	授業の中で適宜紹介する。
参考書等	中村浩『須恵器』（ニュー・サイエンス社） 中村浩『和泉陶邑窯の研究』（柏書房） 山田邦和『須恵器生産の研究』（学生社）
その他	授業はOHPを利用して講義で行うが、遺物の観察法についても実物を見ながら解説する。

科目名	担当者名
考古学特講Ⅲ	設楽博己 <small>した ら ひろ み</small>

講義のねらい	顔の考古学 現代日本人の祖先はどこに求められるのか。それを解く手がかりは、縄文・弥生・古墳時代の人々にある。彼らはどのような顔立ちをしていたのか。そうした形質の起源はどこに求められるのか。その答えがヒントになる。また、彼らはたくさんの顔にかかわる造形を残した。土偶や埴輪などは、その代表的な遺物である。本講義では、古代人の顔にまつわるさまざまな問題を取り上げ、日本古代文化とそれを担った人々を掘り下げる。
講義の内容・授業スケジュール	前期は縄文・弥生・古墳時代の人骨を取り上げ、その形質的な特徴、DNA分析の結果などに関する研究の現状を解説し、現代日本人とのかかわりを考える。さらに縄文時代の土偶や仮面など顔にまつわる造形品をとりあげ、その特徴や性格について考える。後期は弥生・古墳時代の線刻人面絵画や埴輪を取り上げ、その特徴や縄文時代の造形からの変化とその意味するところを考える。また、古代の人面墨書についても取り上げる。
履修上の留意点	講義中の私語は慎むようにしてください。
成績評価の方法	年度末の試験と中間レポートやミニ試験、出席によって総合評価する。
教科書	とくになし。
参考書等	その都度指示するが、当面原始絵画にかかわる参考書として、（佐原真・春成秀爾1997『原始絵画 歴史発掘5』講談社）に目を通しておくこと。

科目名

担当者名

考古学特講V

かみしきりょう
上敷領 ひよし
久

講義のねらい

本講義では日本旧石器時代の研究史を再検討することによって、研究の現状と課題を俯瞰し、旧石器時代研究法の基礎的知識を習得する。また旧石器時代遺跡が数多く調査されている野川源流域の代表的な遺跡から出土する石器群の変遷を観察しながら、先史時代社会の構造について考える。

講義の内容・授業スケジュール

- 4・5月は日本旧石器時代研究史を概観する。
- 6・7月は研究史で紹介した、代表的な研究方法について検証する。
- 9・10月は野川源流域の代表的な遺跡から出土する石器群の変遷を観察する。
- 11・12月は特に多摩蘭坂遺跡出土の石器群を中心に武蔵野台地の後期旧石器時代初頭の石器群とその社会について考察する。

履修上の留意点

本講義は主として考古学を専攻する学生を対象とし、特に時代を旧石器時代に限定して講義する。そのため授業中に紹介する当該期の発掘調査現場への自主的見学や、博物館等で展示されている関連資料の見学を行う事が望ましい。

成績評価の方法

授業時の出席を重視し、夏期休暇中のレポートを1本。および論述形式の期末試験によって総合的に評価する。

参考書等

講義中に適宜参考図書・論文等を紹介する。

科目名

担当者名

考古学特講VII

やの かず ゆき
矢野和之

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学、歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
 - ・日本建築史（古代）概要
 - ・遺構とその上部構造体の復元
 - ・保存計画概論
 - ・保存科学、保存工学概論
 - ・まちづくりと文化財
 - ・計画策定の実務
 - ・国内の事例
 - ・海外の事例、文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物

教科書

なし

参考書等

適宜指示

その他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科目名**担当者名**

西域美術史

まつ だいら みわこ
松 平 美和子**講義のねらい**

唐の僧、玄奘三蔵は法を求めて629年長安を出発、玉関門から西域へ進み、タクラマカン砂漠のオアシス都市、カラコルム山脈、パミール高原を経てついにインドに至った。17年に及ぶ玄奘の旅の西域部分をその著書『大唐西域記』と伝記『大慈恩寺三蔵法師伝』によって辿り、訪れた土地の美術を中心に、シルクロードにおける文化の東西交流を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

前期 玄奘の旅した高昌国、亀慈、サマルカンド、バクトラ、バーミヤン、カピシ、ハッダ、タキシラ、その他西域各地の美術を旅程にそって辿る。
後期 玄奘の時代を中心に、シルクロードの美術工芸やそのモチーフの展開を考察する。

成績評価の方法

夏期休暇後のレポート、学年末のレポート試験、講義時の提出物、出席状況から総合的に評価する。

教科書

プリントを随時配布する。

参考書等

『三蔵法師の歩いた道一巡歴の地図をたどる旅』（青春新書）
『大唐西域記』（平凡社）

その他

毎時間スライドを、必要に応じてビデオも使用する。

科目名**担当者名**

宗教人類学

や の ひで たけ
矢 野 秀 武**講義のねらい**

宗教に関わる諸現象を理解しようとする場合、思想や主張だけを対象とするのでは、ときに十分な理解に到達できず、誤解を引き起こすこともある。そのような問題を避けるためには、社会的背景や人々の行動様式・価値観などの文化的背景にまで踏み込んで、思想や主張を理解することが必要となる。本講義では、そのような理解の仕方の1つとして、宗教人類学の視点を身につけてもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、靈魂などの超自然的な存在の観念や、宗教的儀礼の実施がどのような背景を持っているのかについて、宗教人類学的なものの方を紹介し、後期では、南アジア・東南アジアの宗教の事例をとりあげて、個々の具体的な地域の社会的・文化的背景と宗教実践の関係を理解する。

成績評価の方法

レポートと年度末の筆記試験を総合して評価を行なう。レポートは夏期休暇前に課題を提示する。レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業で述べる。

教科書

なし。

参考書等

授業時に随時紹介する。

V 社会福祉主事講座

V 社会福祉主事講座

(1) 必修科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
社会福祉原論	社福主事 2 必	通年	4	伊藤秀一	189
社会福祉原論	社福主事 2 必	通年	4	船水浩行	189

(2) 選択科目

科目名	配当学科	開講区分	単位	担当者名	ページ
法学（福祉）	社福主事 2・3・4 選	通年	4	小林弘人	190
社会福祉発達史	社福主事 2・3・4 選	通年	4	休講	/
社会保障論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	長尾譲治	191
社会福祉計画論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	川廷宗之	192
公的扶助論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	伊藤秀一	193
障害者福祉論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	桐原宏行	194
老人福祉論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	東條光雅	195
児童福祉論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	村田一昭	196
女性福祉論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	堀千鶴子	197
医療福祉論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	宮本博司	198
地域福祉論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	豊田宗裕	199
社会学（福祉）	社福主事 2・3・4 選	通年	4	武山梅乗	200
心理学（福祉）	社福主事 2・3・4 選	通年	4	高橋良博	200
国際社会福祉論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	休講	/
リハビリテーション論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	向後礼子	201
家庭福祉論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	武山梅乗	201
保健福祉論	社福主事 2・3・4 選	通年	4	山本哲也	202

(1) 必修科目

科目名	担当者名
社会福祉原論	伊藤秀一

講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、社会事業と呼ばれていたものが、今日では、社会を構成する「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日的貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉の理念、概念、歴史、制度等広く概観することを目的とする。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、社会福祉の基礎知識を整理するとともに、制度的改革の続く社会福祉の今日的な動向と課題についても把握する。

講義の内容・授業スケジュール

(前期)

- ①社会福祉の理念
- ②社会福祉の概念
- ③社会福祉の歴史 (イギリス・日本)

(後期)

- ④社会福祉の制度
- ⑤社会福祉の分野
- ⑥社会福祉の方法

履修上の留意点

講義の内容は極めて広範囲にわたるので、指定されたテキスト以外の参考文献等を活用しながら各自学習を深めてほしい。

成績評価の方法

評価は、前期・年度末の定期試験と出席状況等を勘案して行う。

教科書

仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

随時紹介する。

その他

ビデオ教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。

科目名	担当者名
社会福祉原論	船水浩行

講義のねらい

現代社会において「社会福祉」という用語はとてもポピュラーなものとなっている。新聞、テレビ等のマスコミ報道でも頻繁に目にし、また耳にする。選挙があれば、多くの候補者がその充実を口にする。

学生諸君の多くも、「社会福祉が必要か」と問われれば「必要」と答えるだろう。しかし、「それでは、なぜ、この仕組みが必要なのか?」「どのようにしてこの仕組みが形作られているのか」となると、なかなか上手く答えていただけないのではないか。

この授業では、こうした現状と共に「社会福祉主事」を目指している学生諸君の履修ということを念頭におき、現代社会における社会福祉の意義、理念や制度の歴史的展開過程等の基礎的内容を踏まえつつ、わが国における社会福祉の制度等の現状と課題を中心に考察していく。

講義の内容・授業スケジュール

現代社会における社会福祉の意義 社会福祉の理念 社会福祉の史的展開過程 わが国における社会福祉制度とその展開 わが国社会福祉の最近の政策動向と課題 わが国における社会福祉援助活動の現状と課題 社会福祉従事者の現状と課題

履修上の留意点

自分自身の生活課題に関わるものとして考察していただきたい。

成績評価の方法

定期試験（持ち込み不可）70%、レポート（随時、5課題程度）20%、出席状況等平常点10%

教科書

使用しない。

参考書等

随時紹介する。

(2) 選択科目

科目名	担当者名
法学(福祉)	小林弘人

講義のねらい

社会福祉法制として理解されている各種の法令の意義・内容を理解することを目標とする。具体的には、社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明をする。

講義の内容・授業スケジュール

[目標]

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解させる。

[内容]

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 物権
 - 3) 契約
 - 4) 不法行為
 - 5) 親族
 - 6) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 行政手続き
 - 5) 地方行政組織

成績評価の方法

出席状況と年三回位のレポートの提出および定期試験を勘案し、総合評価する。

教科書

小林弘人著『高齢化社会における社会福祉の法』（創成社）

参考書等

授業時間中に指示する。

講義のねらい

本科目は、社会福祉士指定科目の1つであり、ソーシャルワーカーを目指す諸君にとって必要で十分な社会保障制度・理論に関する知識を習得すること、及びソーシャルワークの現場においてその知識を生かす応用能力を身につけることを第一の目的としている。

社会保障制度は、一見すると複雑・多岐にわたっており、わかりづらいと感じる学生が多いのも事実である。しかし、社会保障は人間の基本的なニーズに対応したものであって、原理・原則は単純明快である。社会保障論の学習にあたっては、まずその原理・原則を理解した上で、制度上の例外を身につける方法が有効である。

本講義では、身近な事例を多用し、社会保障がいかに私たち国民にとってかけがえのないものであるかを実感してもらうと同時に、具体例を通じて実践的な社会保障の知識を身につけていく。また、社会保障の各制度の現状はどうなっているのか、これからどうしていくべきなのかについて、国民の福祉の維持・推進の役割を担う福祉専門職の立場から、考察していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1：社会保障とは（社会保障の必要性、日本の社会保障制度の体系）
- 2：各制度の詳細な解説（事例、Q&A、モデルケース試算等を多用）
 - (1) 年金保険制度
 - (2) 医療保険制度
 - (3) 労働保険制度（雇用保険、労災保険）
 - (4) 介護保険制度
 - (5) 民間の保険（生命保険、損害保険、その他の保険）
- 3：こんなときどうする？－ライフサイクルと社会保障－
 - (1) 病気・けがをしたら
 - (2) 妊娠・出産・育児とその支援
 - (3) 身体障害を負ったら
 - (4) 知的発達障害への対応
 - (5) 精神不調に陥ったら
 - (6) 寝たきり・認知症などで介護が必要になったら
 - (7) ターミナル・ケアを受けるには
 - (8) 生活に困窮したら
- 4：各国の社会保障制度
- 5：社会保障制度の現状と課題
- 6：福祉士国家試験問題（社会保障論）を解いてみよう

成績評価の方法

学年末試験の成績に、出席状況等を加味して評価する。

教 科 書

特に指定しないが、必要に応じて参考書等を紹介する（授業は毎回の詳説プリントを通じて行う）。

参 考 書 等

福祉士養成講座編集委員会編『新版社会福祉士養成講座 5 社会保障論』（中央法規）
 長尾譲治『ライフサイクルと保健福祉』（春風社）
 週刊社会保障編集部編『社会保障便利事典』（法研）
 その他、随時紹介する。

科 目 名**担 当 者 名****社会福祉計画論**かわ 川 てい もと ゆき
川 廷 宗 之**講義のねらい**

- (1) この科目では『社会福祉』と『社会計画』の二つの問題を扱う。
- (2) 社会福祉計画論は、本来は社会福祉援助技術の内容の一つを構成する専門的領域であるが、この授業では、専門に直接ふれるのではなく、その前提としての社会福祉の基本的な問題を含めて解説する。
- (3) 社会福祉計画を必要とする現代日本の社会福祉問題について、その内容の理解を図る。
- (4) 問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面が強調され、その結果、計画化が促進される現代の状況について理解を図る。
- (5) 『社会福祉計画』は、市民個人個人の『福祉 (Well Being)』の保障を目指すのであるから、個人個人の『福祉計画』を前提にした統合としての『社会福祉計画』として、総合的な理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

- ①前期は、『社会福祉計画』の前提となる『日本の社会福祉』が扱おうとしている様々な福祉課題について学ぶ。
- ②後期は、福祉問題の解決を目指す『社会福祉計画』の詳細について学ぶ。

履修上の留意点

- (1) この講義では、開講第1回目に全体のスケジュール等を説明するので、第1回には必ず出席していただきたい。
- (2) 講義を中心として進めるが、時に授業中に討論を行うこともあるので、積極的主体的な参加を期待します。
- (3) 学習者である皆さんの主体的な学習態度を尊重すべく、質問重視の授業を進めるので、関連事項について積極的な質問を期待します。

成績評価の方法

- (1) 前期末、後期末のレポートの成績を中心に、主体的な出席への評価を含めて成績評価を行う。
- (2) 前期末のレポート課題は、前期の講義に含まれる社会福祉計画が対応することになる「日本の福祉問題」を自分自身の生活課題に引きつけて論じる課題が出題される。
- (3) 後期のレポート課題は、社会福祉計画論の理論的課題について、テキストの課題の中から各自自由に選択して、まとめる課題が出題される。
- (4) 前期レポートと後期レポートは、それぞれ40%と50%の比率で成績評価に反映される。残り10%は、出席状況等を勘案する。

教 科 書

定藤丈弘・坂田周一・小林良二編集『社会福祉計画』（有斐閣）定価2,200円

参 考 書 等

- (1) 高田真治『社会福祉計画論』（誠信書房）1979年
- (2) R. パールマン A. グリン著 岡村重夫 監訳 『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』（全国社会福祉協議会）1980年
- (3) 全社協編『地域福祉計画——理論と方法——』（全国社会福祉協議会）1984年

そ の 他

本来は専門科目であるが、社会福祉の全体像の理解も含めて、平易で楽しい、皆さんとともに夢を描ける（計画ですから）授業を展開したい。

科目名**担当者名****公的扶助論**いとう しゅういち
伊藤 秀一**講義のねらい**

本講の中心的テーマは、わが国の社会保障制度体系における生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。このような問題意識のもとに、慈恵的救済から権利的保障へと歩んできた公的扶助の歴史を始め、現行法の目的、原理、原則、現行制度の組織機構、行政運営等を、総合的に検討する。また、近年、注目されている権利擁護、ソーシャル・インクルージョン等にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

(前期)

- ①開講にあたって
- ②公的扶助とは何か（社会保障制度体系における位置を中心として）
- ③公的扶助の歴史的発展過程（イギリス・日本）

(後期)

- ④公的扶助の法制度（目的・原理・原則・扶助の種類・動向・最低生活保障水準）
- ⑤福祉事務所の制度運営と相談援助
- ⑥低所得対策の概要
- ⑦イギリスにおける福祉権活動・運動の動向

履修上の留意点

指定されたテキスト以外の参考文献や新聞記事等を活用しながら学習を深め、『学生参加』型の授業を心掛けたと考えているので、貧困問題に対する関心をもってほしい。

成績評価の方法

評価は、レポート課題及び年度末の定期試験と出席状況等を勘案して行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『新版 社会福祉士養成講座 6 公的扶助論』（中央法規）

参考書等

随時紹介する。

その他

ビデオ教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。

科目名**担当者名****障害者福祉論**きりほらひろゆき
桐原宏行**講義のねらい**

障害者福祉は、障害者が一人の人間として生活していく過程のなかで、その固有の問題をとらえ、それを権利の視点に立って把握していくが必要になる。

この授業では、障害者援助を担うための専門職に必要な基礎的事項の学習が中心となる。具体的には、現代社会における障害の概念、障害者福祉の理念などの基礎となる考え方についての理解の促進、現行の障害者施策や障害者の相談援助活動の原則等についての知識の獲得などを旨す。

**講義の内容・
授業スケジュール**

<前期内容>

- ・障害特性の理解(視覚障害、聴覚言語障害、運動障害、内部障害、知的障害・精神障害)(第1回～第8回)
- ・障害者福祉の理念(ノーマライゼーション、リハビリテーション等)(第9回～第11回)
- ・障害の概念(障害の構造的理解)(第12回)
- ・障害者の実態(第13回)
- ・障害者福祉の歴史(第14回)

<後期内容>

- ・障害者福祉の施策(障害者福祉に関連する法律の理解、障害者福祉における行政の役割、障害者プラン等)(第1回～第6回)
- ・障害者福祉サービス(身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児の各領域別福祉サービスの理解)(第7回～第10回)
- ・障害者福祉の分野別課題(保健・医療、教育、雇用、権利擁護、所得保障、バリアフリー等)(第10回～第14回)

成績評価の方法

前期終了時点での中間評価試験(あるいはレポートの提出)及び年度末試験を総合して評価する。

教科書

- ・新版 社会福祉士養成講座③『障害者福祉論』(中央法規)2,625円
- ・授業内容により補足資料を配布する。

参考書等

授業のなかで随時指示する。

講義のねらい

老人虐待の多発、家族介護の深刻化、社会保険料の負担増、老齢年金支給開始年齢の引上げ、介護保険制度の導入等、老年期や高齢者に関する事柄が、近年富にマスメディアを賑わしている。こうした事柄が騒がれる背景は、世界一の「人生80年」という長寿化の進行と急激な少子化による日本社会の高齢化である。

わが国の高齢化の度合いはいよいよ欧米社会のそれに匹敵するまでとなり、今世紀には人類未曾有の高齢社会を迎えようとしている。その時に高齢者となるのは、現在“青・壮年期”にある人々である。これから一層高度化してゆく高齢社会、深刻化してゆく高齢者問題にどのように準備し対応してゆくかは、日本社会にとって大変重要な問題である。

本講義では、社会的対応策としての老人保健福祉の制度・政策についてのみでなく、対象者理解の観点から高齢者や老年期の特性をも含み、幅広く講じてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期
 - ・人口高齢化の意味
 - ・高齢者問題の背景
 - 社会変動、家族変動
 - ・高齢者の生活問題
 - ・老化と老年期の身体疾患、身体障害、精神障害
 - ・高齢者の保健福祉ニーズ
 - ニーズ把握の方法、保健福祉ニーズの種類
- 後期
 - ・老人保健福祉法制と関連施策
 - 近年の制度及び政策の動向、老人保健法、老人福祉法、介護保険法、関連施策
 - ・老人保健福祉の供給システムと財源
 - 供給システムとは、供給システムの仕組み（含む、シルバーサービス）、財源、マンパワー
 - ・在宅サービスの制度と処遇
 - 在宅サービスの制度的枠組み、在宅サービスの歴史・理念・目標、在宅サービスの種類、在宅サービスにおける援助事例
 - ・施設サービスの制度と処遇
 - 入所（入院）施設の種類と概要、社会福祉分野の入所施設、保健・医療分野の入所（入院）施設、施設における処遇、施設サービスにおける援助事例
 - ・地域及び住環境の整備と福祉機器

履修上の留意点

この授業は講義形式で進めてゆくが、適宜受講生に対して講義内容に関する質問をしたり、意見発表をしてもらうことがある。近年、富に私語や居眠りをする学生が目立つので、授業態度に問題がある場合には退室してもらう。履修学生は、気を引き締めて授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

原則的には、前期試験と年度末定期試験の平均点をもって評価する。また、出席点は特に考慮しない。

教科書

教科書は初回講義時に指示する。

参考書等

出版社は問わないが、最新の「社会福祉小六法」は購入しておくこと。また、その他の参考書等については必要に応じてその都度紹介する。

その他

ほぼ毎回プリント資料を配布する。

講義のねらい

1989年に国連子どもの権利条約が採択されて以降、「子どもの最善の利益」の追求を基本とした子どもの権利擁護サービスが重視され、伝統的な児童福祉から新たな児童福祉へと制度や実践の変革が進められてきています。本講座では、そういった動向を踏まえつつ、子どもと家庭のウェルビーイング（well-being）をめざす新たな児童福祉である子ども家庭福祉の基本的枠組およびソーシャルワーク実践についての理解を深めることを目的としています。

講義の内容・
授業スケジュール

前期：子ども家庭福祉の基本的枠組み

①子ども家庭福祉を取り巻く状況、②子ども家庭福祉の理念、③子ども家庭福祉の法体系と実施体制、④子ども家庭福祉の歩み、⑤子ども家庭福祉の最近の動向

後期：子ども家庭福祉の各領域とソーシャルワーク実践

①子ども家庭福祉施策の現状と課題、②子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践の実際

履修上の留意点

可能な限り、受講生とのコミュニケーションを図りながら授業を進めたいので、質問や意見など積極的な発言を求めます。

成績評価の方法

以下の内容で半期ごとに評価し、その平均を年間評価（最終評価）とします。

前期：出席（40点）、テスト（40点）、映画鑑賞感想文（20点）

後期：出席（40点）、レポート（40点）、読書感想文（20点）

教 科 書

高橋重宏・山縣文治・才村 純編「子ども家庭福祉とソーシャルワーク（第2版）」（社会福祉基礎シリーズ⑥児童福祉論）（有斐閣）2,000円

※授業内容により、随時プリントも配布します。

参 考 書 等

随時、紹介します。

そ の 他

受講人数に応じて、講義形式、討議形式のいずれかを選択します。

科目名**担当者名**

女性福祉論

ほり
堀 ちづこ
千鶴子

講義のねらい

この講義では、ジェンダーの視点から女性福祉論を展開する。ジェンダーとは社会的・文化的に規定された性別であり、ジェンダーのアンバランスが歴史的にも女性の生活問題・生活困難の背景となっており、ジェンダーの視点に立つことは問題の理解に大きく寄与するものである。

講義では、特に婦人保護事業を中心とする。婦人保護事業を歴史的に把握すると共に、対象者の変化を理解し、現代的課題を明らかにすることから、女性福祉を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

1. ジェンダーの視点とは
ジェンダー・女性学・フェミニズム等の用語の登場の背景を理解し、社会福祉に導入する意味について理解する
2. 女性福祉の定義・対象理解
3. 「女性に対する暴力」とは
・定義、内容 ・取り組みの動向 ・ドメスティック・バイオレンス についての理解
4. 婦人保護事業の歴史
5. 婦人保護事業の動向

成績評価の方法

試験方法：レポート（50%）
出席確認を毎回行う（出席50%）

教科書

林千代編著『女性福祉とは何か』（ミネルヴァ書房）2004年

参考書等

講義内に紹介する。

講義のねらい

医療の現場での福祉の担い手は「医療ソーシャルワーカー (MSW)」である。医療福祉論では、医療ソーシャルワークの歴史、理論、技術について学び、医療ソーシャルワークのあり方について議論を深め、医療ソーシャルワーカーがどのような倫理観・価値観に基づいて、ソーシャルワーク実践を重ねているか、考察することを目的としている。また、現場を目指す学生にとって、医療ソーシャルワークの現場をリアルに議論できるような授業を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期) 医療ソーシャルワークの歴史と課題
 ① 医療ソーシャルワークとは
 ② 医療ソーシャルワークの歴史
 ③ ソーシャルワーク理論
 ④ 医療ソーシャルワークと医療経済について
 ⑤ 医療ソーシャルワークの課題について
- 後期) 医療ソーシャルワークの技術と実際
 ① 急性期における医療ソーシャルワーク事例
 ② 亜急性期における医療ソーシャルワーク事例
 ③ 慢性期における医療ソーシャルワーク事例
 ④ 終末期における医療ソーシャルワーク事例
 ⑤ 病院・施設の医療ソーシャルワーク事例
 ⑥ 在宅ケアにおける医療ソーシャルワーク事例
 ⑦ ケアマネジメントと医療ソーシャルワーク
 ⑧ 医療サービスと医療ソーシャルワークの課題

履修上の留意点

授業への主体的な参加を望む。

成績評価の方法

定期試験、課題レポート、授業参加貢献度により採点。

教科書

- (社) 日本社会福祉士会 (社) 日本社会医療事業協会 編集『保健医療ソーシャルワーク 1』
 (中央法規出版社) 2,940円
 (社) 日本社会福祉士会 (社) 日本社会医療事業協会 編集『保健医療ソーシャルワーク 2』
 (中央法規出版社) 2,940円
 (社) 日本社会福祉士会 (社) 日本社会医療事業協会 編集『保健医療ソーシャルワーク 3』
 (中央法規出版社) 2,940円

参考書等

授業の中で紹介。

講義のねらい

地域福祉論で学習すべきポイントは、大きく分けて以下の3点である。本講義ではこれらについて、われわれが生活している地域そのものの持つ特色を明らかにしたうえで、福祉問題の出現過程について学び、その解決のための手段や考え方を理解する。

(1) 総論としての地域福祉の枠組み（地域福祉とはどのようなものか。何故必要なのか）

①地域福祉論の概念、②地域福祉の歴史的展開、③コミュニティの捉え方・考え方

④現在の地域福祉施策の特徴

(2) 各論としての地域福祉の各種制度や援助方法（地域福祉施策の内容と提供方法）

①地域福祉サービスの種類とその提供方法、②サービス提供組織やその仕組み

③福祉ニーズの把握や組織化活動の展開方法

(3) 現在および将来的な地域福祉に関連した施策の動向と展望

①地域福祉に関連した、経済的・社会的な動向と展望、②計画づくりと福祉制度

③これからの方向性

講座には、様々な年次の学生がいることを考慮し、なるべく具体的な、かつ実践に役立つ内容を盛り込んで、講義を進めたいが、内容や使用する用語が難解な場合もあるので、各自学習をして理解を深めてほしい。併せて、本科目は社会福祉士試験の指定科目ということもあり、試験の内容も考慮して講義を行いたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義スケジュール（番号は授業回数ではない）

：講義テーマ：講義内容

1：地域福祉と生活問題：地域福祉の考え方と現代の生活問題

2：地域福祉とコミュニティ：地域社会の変遷とコミュニティの形成◆住民の社会参加の状況とコミュニティ 他

3：地域福祉理念の変遷：地域福祉理念の歴史的変遷

4：地域福祉の概念とその範囲：地域福祉の代表的な考え方とその類型

5：地域福祉のサービス体系：地域福祉サービス体系の考え方とその基本理念◆地域福祉活動の体系とその内容 他

11：地域福祉の推進方法：地域援助技術の必要性と社会福祉計画 他

16：福祉教育の推進：福祉教育の考え方とその推進

17：地域福祉の財源：地域福祉の財源と共同募金の理解 等

21：地域福祉の推進組織：社会福祉協議会、行政、各種団体・機関◆非営利団体の活動とNPO法 他

24：地域福祉のマンパワー：ボランティア活動とその動き◆地域における地域福祉のマンパワー（民生委員を中心に）

履修上の留意点

地域福祉論は、他の福祉系科目の横断科目として理解する必要がある。
できる限り2年次以降の履修が望ましい。

成績評価の方法

出席回数、試験期間内の定期試験および授業時間中に課すレポートの提出（随時）の双方の状況により、判定する。

教科書

『社会福祉士養成講座7』 地域福祉論（中央法規出版）

参考書等

授業時間内に指示する。

その他

講義形式で行う。出席確認およびレポートも実施する。

科目名**担当者名**

社会学(福祉)

たけやま うめ のり
武 山 梅 乗**講義のねらい**

主として社会福祉士及び社会福祉主事を目指す学生を対象に社会学の基礎的な知識を提示し、現代社会における今日的な諸問題について理解することを通じて、より広い視点から〈社会福祉〉を展望する視点を養ってもらうことを目的としています。

講義の内容・授業スケジュール

- (前期) I. 社会学の基礎概念：(1) 行為論 (2) 役割論 (3) 自我とアイデンティティ (4・5) 組織と官僚制 (6) ネットワークとボランティア (7) 社会階層と社会移動
 II. 現代社会論：(8・9) 逸脱とラベリング (10・11) ジェンダーとフェミニズム (12・13) 医療化と差別論
 III. 現代家族論：(14) 家族制度と核家族化 (15) ライフサイクルとライフコース (16) 未婚化と結婚の意義
 IV. 地域社会論：(17) アーバンイズムとコミュニティ (18) 国土計画と過疎・過密 (19) まちづくりとQOL
 V. 国家とエスニシティ：(20) 国民国家としての〈日本〉(21) エスニシティとしての〈沖縄〉
 VI. 社会変動論：(22) 近代化と資本主義 (23) 大衆社会論と社会的性格 (24) 産業社会論 (25) 消費社会と企業文化・福祉文化 (26) 公害と環境問題

成績評価の方法

出席状況、講義期間中に課すレポートの内容、定期試験の結果から総合的に評価します。

教科書

教科書は特に指定しません。随時配布するプリントに従って講義を進めます。

参考書等

参考書は講義期間中に随時指示します。

科目名**担当者名**

心理学(福祉)

たか はし よし ひろ
高 橋 良 博**講義のねらい**

本講義のねらいとして以下の項目を目標としている。

- 1 心理学の基本概念をふまえ、人間理解のための基本的知識の理解と習得。
- 2 乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・高齢期など人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴についての理解。
- 3 援助を要する人々とかかわって行くための心理的援助技術の概要の理解と習得をはかり、援助者としての資質を高めるための自己理解をもとめる。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、以下の項目についてふれて行く予定である。

- 1 人間の心理学的理解 ①心理学の定義と、領域および研究法 ②欲求・動機づけ ③感情・情動 ④感覚・知覚・認知 ⑤学習・記憶・思考 ⑥知能・創造性 ⑦人格 ⑧適応と不適応
- 2 人間の成長・発達の心理 ①発達段階と生涯発達 ②発達課題と高齢期 ③発達の障害と発達援助
- 3 人間理解のための心理学理論と技法 ①基礎理論；心理学的援助技術の基本的人間観 ②心理測定と診断
- 4 心理的援助技法の概要 ①心理療法（総論）心理療法の歴史と種類 ②心理療法（各論）精神分析・カウンセリング・家族療法・行動療法・認知療法・森田療法・自律訓練法など

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）などを総合して評価を行う。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉士養成講座 心理学』（中央法規）2,500円（税別）

科目名	担当者名
リハビリテーション論	向後礼子

講義のねらい	リハビリテーションには、医学・教育・職業・社会の4領域があるが、本講義では、職業リハビリテーションを中心に障害者が社会の中で働くということの意味を考える。併せて、障害者の就労を支える仕組みについて学ぶ。また、バリアフリーや障害理解の問題に関して、自分なりの考えを深めていく。
履修上の留意点	履修者には、リハビリテーション論で採りあげられるさまざまな問題を単なる知識として覚えるのではなく、自らの問題として考えてほしい。
成績評価の方法	講義中の小課題に対する回答と試験により評価する。なお、出席状況を加味する。
教科書	特に指定しない。
参考書等	講義中に随時指定する。
その他	基本的に講義形式で進める。履修人数によっては、履修者に発表などの活動を行ってもらう。また、ビデオ等の視聴を含む。

科目名	担当者名
家庭福祉論	武山梅乗

講義のねらい	家族の諸問題を女性、子ども、高齢者という観点から概観した上で、〈家族福祉〉の限界を指摘し、家族という枠組みを超えて地域、行政、NPO、企業等を巻き込みながら展開される〈家庭福祉〉の可能性について模索することを目的としている。
講義の内容・授業スケジュール	(前期) I. 家庭福祉の視点：(1) 家庭福祉の視点 (2) 世帯構造と核家族化 (3・4) 家族制度とは (5) 核家族の機能と構造 (6) 家族周期とライフコース (7) イエ制度と〈近代家族〉 II. 女性と家庭福祉：(8・9) フェミニズムからみた家族—母性、専業主婦、中絶 (10) 女性労働と育児 (11) 母子家庭の諸問題 (12・13) 夫婦別姓と婚姻の意義 III. 子どもと家庭福祉：(14) 児童福祉の体系にみる〈こども〉観 (15) 消費としての子育てと〈地域〉における子育て (16) 児童虐待 IV. 高齢者と家庭福祉：(17) ライフサイクルの変化にみる高齢者の諸問題 (18・19) 家族と高齢者介護 (20) 高齢者にとっての居住福祉 V. 国家・地域と家庭福祉：(21) 日本における家族政策と福祉国家論 (22) 在宅福祉と〈地域〉 (23) 家庭—地域福祉という枠組み VI. 民間社会福祉と家庭福祉：(24) 家庭福祉の市場性 (25・26) 非営利セクターと家庭福祉—配食サービスを事例として
成績評価の方法	出席状況、講義期間中に課すレポートの内容、定期試験の結果から総合的に評価します。
教科書	教科書は特に指定しません。随時配布するプリントに従って講義を進めます。
参考書等	参考書は講義期間中に随時指示します。

科目名

担当者名

保健福祉論

やまもとてつや
山本哲也

講義のねらい

本講義では、地域保健、地域福祉の実践に欠かすことのできない、保健・福祉の連携システムの概要と、同システムにおける保健・福祉従事者の役割を学び、そこでの福祉従事者の活動内容について理解することをねらいとする。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では、保健・福祉の連携システムの実際について、事例をとおして学習していく。具体的には、まず、保健・福祉が連携して関わる必要のある事例を呈示する。次に、その事例の中に登場する用語等について概説する。また、事例に登場する対象者を理解する事、事例に関わる制度について知る事を目的に講義を行う。最後に、その事例対象者を支える保健・福祉の連携システムについて概説する。

履修上の留意点

講義のみでなく、各自が考え、学び、理解できるよう、各自の意見を問う内容を含む授業を行うので、そのつもりで受講すること。

成績評価の方法

出席状況、授業中のミニレポート、課題レポート及び試験の結果により総合的に評価する。

教科書

必要に応じ、授業時に指定する。

参考書等

必要に応じ、その都度指示する。

その他

- ・30分以上の遅刻は入室を認めないので、そのつもりで受講すること。
- ・4年次生で、就職活動により欠席する場合も、特別な配慮はしないので、そのつもりで受講すること。

